
独立行政法人 国立健康・栄養研究所

研究報告

第60号(平成23年度)

独立行政法人
国立健康・栄養研究所

序

当研究所は、1920（大正9）年9月に内務省所管の栄養研究所（初代所長 佐伯矩）として創設され、1938（昭和13）年に厚生省所管の研究所となりました。1948（昭和23）年には「国立栄養研究所」として、現在の新宿区戸山に移設され、1989（平成元）年に、身体活動・運動に関する研究部門を加え、「国立健康・栄養研究所」となり、2001（平成13）年には独立行政法人化されています。

これまで第1期中期計画、第2期中期計画を終え、2011（平成23）年度より第3期中期計画に入っています。『生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究』『日本人の食生活の多様化と健康への影響、及び食生活の改善施策に関する栄養学的研究』『「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究』『研究所の研究能力を向上させるための基礎的・独創的・萌芽的研究』『小児から高齢者までの生涯にわたるライフステージに応じた間断しない食育をより効果的に推進するための調査研究』を重点調査研究項目として位置づけ、外部評価委員会をはじめ、厚生労働省独立行政法人評価委員会、総務省政策評価・独立行政法人評価委員会などの評価や助言を受けつつ、調査・研究・業務を遂行しております。

当研究所では、食生活と栄養、食品、身体活動・運動をキーワードとして、一貫して国民の健康づくり、生活習慣病の予防、食の安全・安心、QOLの向上、well-beingの確保に関する調査・研究を実施しています。研究者のアクティビティは高く、一人当たりの競争的研究資金獲得額および論文引用回数は、国立研究機関中で上位にあります。当研究所は、2011（平成23）年1月に、Global Environmental Monitoring System（GEMS）のFood Institutionに認定されました。なお、WHO-CCについては、現在、正式申請中です。

また、当研究所は、厚生労働省をはじめ、内閣府、消費者庁など、国の公共政策をサポートする業務を実施しております。毎年、厚生労働省とともに国民健康・栄養調査を行い、食事・栄養摂取状況、身体活動・運動状況、生活習慣（喫煙・飲酒などを含む）状況を調べ、その動向と推移を報告しています。それは、日本人の食事摂取基準および運動基準の策定に活かされ、学校、病院、各種施設の給食・調理の基準となり、食品添加物、農薬や放射性物質などの摂取量・曝露量の把握といった食品の安全性評価・リスク管理に活用され、「健康日本21」「特定健康診査・特定保健指導」の根拠となり、国民の健康状態を計るものさしになっています。また、健康食品の許可試験・収去試験を行い、国民および専門職に対して、食品の有効性と安全性に関する情報を発信しております。

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災の際に、当研究所は、さっそく大震災対策プロジェクトチームを立ち上げ、日本栄養士会などと協働して、被災された方々および専門職に向けた「災害時の健康・栄養について」の情報を発信し、現地でボランティア活動を行うなか、避難所別ニーズ調査を行い、厚生労働省と連携して「避難所における栄養素摂取の参照量について」の情報を発信し、「被災者の健康・栄養支援のための調査」などを実施いたしました。今後とも、被災された方々のQOLの向上、well-beingの確保をサポートする調査・研究・業務に取り組んでまいります。

ここに当研究所の調査研究業務内容を独立行政法人国立健康・栄養研究所研究報告書第60号（平成23年度）としてまとめました。ご高覧のうえ、ご意見、ご助言等をいただければ幸いです。

皆様には、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月31日

独立行政法人 国立健康・栄養研究所
理事長 徳留信寛

目 次

I 研究所概要

1. 平成 23 年度研究・業務の概況	5
2. 評価委員会	5
3. 研究所主催・共催セミナー	6
4. 意見交換会	6
5. 研究倫理審査委員会	7
6. 栄養情報担当者（NR）の養成	8
7. 連携大学院	8
8. 他の研究機関等との連携	8

II 研究・業務の進捗及び成果の概要

栄養疫学研究部

1. 研究部／研究室の概要	9
2. 年度計画	9
3. 進捗状況（成果）	10

健康増進研究部

1. 研究部／研究室の概要	12
2. 年度計画	13
3. 進捗状況（成果）	13

臨床栄養研究部

1. 研究部／研究室の概要	14
2. 年度計画	15
3. 進捗状況（成果）	15

栄養教育研究部

1. 研究部／研究室の概要	17
2. 年度計画	17
3. 進捗状況（成果）	18

基礎栄養研究部

1. 研究部／研究室の概要	19
2. 年度計画	19
3. 進捗状況（成果）	19

食品保健機能研究部

1. 研究部／研究室の概要	20
2. 年度計画	20
3. 進捗状況（成果）	21

情報センター

1. センター／研究室の概要	22
2. 年度計画	22
3. 進捗状況（成果）	23

国際産学連携センター

1. センター／研究室の概要	24
2. 年度計画	24
3. 進捗状況（成果）	25

Ⅲ 研究成果等の公表

1. 業績目録	
著書	27
原著論文	27
総説	33
解説等	34
研究報告書	36
国際学会等	38
国内学会等	40
2. 公的資金による研究	
厚生労働科学研究費補助金	47
文部科学研究費補助金	48
その他の公的研究費	49
3. 民間企業等の共同研究等	49
4. 研究所外での講義、講演等	50
5. 政府関係機関審議会、委員会等	55
6. 関連学術団体等への貢献	56
7. 併任、非常勤講師等	56
8. 国際貢献	57
9. 知的財産権等	57

Ⅳ 資 料

1. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標	58
2. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画	61
3. 独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画	70
4. 予算	81
5. 所内研究セミナー	82
6. 食品分析リスト	84
7. 海外出張	85
8. 人事異動	88
9. 特別研究員	91
10. 名誉所員	92
11. 客員研究員	93
12. 協力研究員	96

I 研究所概要

1. 平成 23 年度研究・業務の概況

当研究所は、平成 13(2001)年度より独立行政法人となり、平成 23 年度は第 3 期中期計画(～平成 27 年度)の初年度に当たる。人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関として、「特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たす。厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担う」(中期目標)ことが、当研究所に求められる役割である。

こうした目標を達成するために、国の生活習慣病対策等の施策としてより効果的な反映が見込まれる次の研究業務を重点的に行っている。

- ・生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究
- ・日本人の食生活の多様化と健康への影響、及び食生活の改善施策に関する栄養疫学的研究
- ・「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

その他にも、外部の競争的研究資金を獲得して、関連領域の基礎から応用、開発型の研究を行っている。また、今後の新たな研究展開につながるような萌芽的研究を若手研究者を中心に活発に行っている。(下表)

(表) 外部研究費の獲得状況 (単位: 千円)

		競争的研究費		受託研究費			計
		補助金	助成金	受託契約	共同契約	寄付金	
		(件数) 金額	(件数) 金額	(件数) 金額	(件数) 金額	(件数) 金額	
公的機関	主任	(25) 142,318	/	(2) 8,901	(-) -	(-) -	(27) 151,219
	分担	(18) 25,945	/	/	/	/	(18) 25,945
民間企業等	主任	/	(3) 1,475	(4) 4,875	(13) 26,578	(-) -	(20) 32,928
	分担	/	/	/	/	/	/
計		(43) 168,263	(3) 1,475	(6) 13,776	(13) 26,578	(-) -	(65) 210,092

個々の研究内容及び研究成果の発表については、各研究部/センターからの報告及び、研究成果の発表を参照されたい。研究成果の公表実績の一部を下表にまとめた。

(表) 研究成果の公表実績

原著論文		学会発表(招待講演)		学会発表(一般演題)	
英文	和文	国際学会	国内学会	国際学会	国内学会
83	23	0	4	31	133

また、研究の成果を社会に還元し、国民の健康づく

りに役立てていただけるよう、情報センター(情報部門)及び国際産学連携センター(対外部門)、並びに事務部業務課が中心となって、ホームページ等を介した情報提供、NR 事業、セミナー(一般及び専門家向け)、研究所の公開(オープンハウス)等を行った。NR 事業としては、平成 23 年 6 月に第 8 回 NR 認定試験を行い、累計で 4,909 名の NR を世に送り出すとともに、6 年制薬学部在学生の薬学共用試験合格の資格で受験した者(大学卒業の届出により資格を附与する者)として別に、362 名が合格している。

また、有資格者へのフォローアップ研修を行った。

なお、平成 22 年に厚生労働省が行った省内事業仕分けの結果を踏まえ、第三者機関への移管先を一般社団法人日本臨床栄養協会に決定し、移管先と協議を行い、平成 27 年 7 月までに移管を終えることを合意した。

若手研究者の育成という観点からは、お茶の水女子大学、東京農業大学、女子栄養大学、早稲田大学等との連携大学院や、全国の管理栄養士を養成する大学・大学院での特別講義等を通じて、ネットワーク型の人材育成を着実に進めてきた。また、国際協力についてもアジア太平洋諸国との間で栄養調査、栄養改善及び健康づくり等に関する共同研究の中心的な役割を果たすよう取り組んでいる。まず WHO の GEMS/Food プログラム協力機関として食品安全に関連する食品摂取量のデータを提出するとともに、WHO 研究協力センター“Nutrition and Physical Activity”の設置に向けて WHO への協力を強化している。「若手外国人研究者招へい事業」では、マレーシアの研究者を受け入れ、JICA の受託研修としては、「JICA 国別研修(エチオピア)母子栄養改善プロジェクトカウンターパート本邦研修」を受け入れた。外来特別セミナーを 3 回開催し、米国のカルシウムとビタミン D の食事摂取基準策定、韓国の国民健康・栄養調査、オーストラリアの減塩戦略の専門家を招いて意見交換を行った。さらに、平成 24 年 3 月には第 5 回アジア栄養ネットワークシンポジウムを開催し、WHO 西太平洋地域事務局およびマレーシア、ベトナム、パプアニューギニア、日本における母子栄養分野を中心とする Food security (フードセキュリティ) 改善に向けた取り組みについて議論を深めた。

2. 評価委員会

(1) 外部評価委員会

下記の 9 名の委員で構成される国立健康・栄養研究所外部評価委員会については、平成 24 年 3 月 12 日(月)に平成 23 年度業務実績事後評価及び平成 24 年度計画事前評価を行った。

【委員】

五十嵐脩 (神奈川工科大学教授) (委員長)
 伊藤 裕 (慶應義塾大学医学部教授)
 逢坂哲彌 (早稲田大学理工学術院 ナノ理工学研究機構長)
 加藤則子 (国立保健医療科学院統括研究官)
 川島由起子 (聖マリアンナ医科大学病院栄養部長)
 下光輝一 (東京医科大学主任教授)
 林 清 ((独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所長)
 豊田正武 (実践女子大学教授)
 三保谷智子 (女子栄養大学出版部香川昇三・綾記念展示室)

(2) 内部評価委員会

下記により構成される国立健康・栄養研究所内部研究業務評価委員会については、平成 23 年 11 月 10 日(木)に研究部/センター中間報告会を、平成 24 年 3 月 12 日(月)には平成 23 年度事後評価を行った。

【委員】

金井雅利 (理事)
 岡山 明 (監事)
 千村 浩 (研究企画評価主幹)
 森田明美 (栄養疫学研究部長)
 宮地元彦 (健康増進研究部長)
 窪田直人 (臨床栄養研究部長)
 江崎 治 (基礎栄養研究部長)
 石見佳子 (食品保健機能研究部長)
 梅垣敬三 (情報センター長)
 西 信雄 (国際産学連携センター長)
 吉田光男 (事務部長)

3. 研究所主催・共催セミナー

(1) 当研究所主催第 13 回一般公開セミナー

主 題: 健やかな老後を迎えるための食生活と身体活動

日 時: 平成 24 年 2 月 25 日(土)

場 所: よみうりホール(東京都千代田区)

主 催: 独立行政法人国立健康・栄養研究所

後 援: 厚生労働省、文部科学省、消費者庁、東京都、千代田区、国立保健医療科学院、独立行政法人国立国際医療研究センター、独立行政法人国民生活センター、社団法人日本医師会、社団法人日本フィットネス協会、社団法人日本栄養士会、財団法人健康・体力づくり事業財団、特定非営利活動法人日本健康運動指導士会

賛助企業: アサヒ飲料株式会社、株式会社伊藤園、大塚製薬株式会社、オムロンヘルスケア株式会社、花王株式会社、キッコーマン株式会社、協和発酵バイオ株式会社、キリンホールディングス株式会社、サントリー食品インターナショナル株式会社、株式会社ニチレイフーズ、日清オイリオグループ株式会社、日本サプリメント株式会社、日本製粉株式会社、日本豆乳協会、ネスレ日本株式会社、パナソニック株

式会社、富士産業株式会社、不二製油株式会社、フジッコ株式会社、株式会社ヤクルト本社、株式会社山田養蜂場、株式会社リコム、株式会社ルネサンス

プログラム:

○研究所の活動報告(金井雅利)

(基調講演)生活習慣病の予防とつきあい方

(徳留信寛)

(講演 1)元気になる食事

(高田和子)

(講演 2)骨粗しょう症を予防する生活習慣

(石見佳子)

(講演 3)メタボとロコモを予防する運動・身体活動

(宮地元彦)

コーディネーター: 西 信雄

(2) 当研究所主催専門家向けセミナー

日時・場所: 平成 23 年 9 月 1 日(木)(愛知県)

平成 23 年 9 月 5 日(月)(福岡県)

平成 23 年 9 月 26 日(月)(兵庫県)

平成 23 年 10 月 5 日(水)(東京都)

(講義内容)

(講義 1)「栄養摂取状況調査の進め方」

(講義 2)「食品番号表の使用法(食品の選択と番号化について)」

(演習) 食事調査聞き取りのポイント

(講義・演習) 食事しらべの使用法

(質疑応答・意見交換)

4. 意見交換会

【関係団体】

(1) 一般社団法人日本臨床栄養協会

日時: 平成 23 年 9 月 21 日(水)

議題: 栄養情報担当者(NR)および協会のサプリメントアドバイザーの今後について

NR 移管のためのプロセスについて

(2) 独立行政法人国民生活センター

日時: 平成 23 年 11 月 21 日(月)

議題: 国立健康・栄養研究所における健康食品関連の業務について

栄養成分表示検討会のとりまとめについて

国民生活センターにおける健康食品関連の業務について

国立健康・栄養研究所の統合について

葉酸の健康食品について

(3) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食

品総合研究所

日時：平成 23 年 12 月 26 日（月）

議題：平成 23 年度食品総合研究所の動向について
平成 23 年度国立健康・栄養研究所の動向について

(4) 社団法人日本栄養士会

日時：平成 24 年 1 月 27 日（金）

議題：平成 23 年度および平成 24 年度以降の事業協力、連携に関して
東日本大震災での連携に関して
運動基準の普及啓発に関して
健康食品や特別用途食品に関する情報提供の現状報告

(5) 国立保健医療科学院

日時：平成 24 年 2 月 28 日（火）

議題：1 年間の動向について
東日本大震災被災者健康調査における協力について
国際協力の状況について

(6) 財団法人健康・体力づくり事業財団

日時：平成 24 年 3 月 23 日（金）

議題：研究所の動向について
運動基準・指針の改定について
健康日本 21 と特定健診・保健指導の見直しについて

【行政機関】

(1) 厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課

新開発食品保健対策室

日時：平成 24 年 2 月 2 日（木）

議題：研究所が運営している「健康食品の安全性・有効性情報」データベースについて

(2) 消費者庁食品表示課

日時：平成 24 年 1 月 26 日（木）

議題：収去試験について
分析方法の改訂について

(3) 内閣府食育推進室

日時：平成 24 年 3 月 5 日（月）

議題：政府の食育施策推進方針について
食育研究室の今後の研究実施方針について
政府の施策推進に対する食育研究室の技術的支援の可能性について

(4) 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室

日時：平成 24 年 3 月 19 日（月）

議題：運動ガイドライン 2011 の策定について

平成 24 年国民健康・栄養調査について

次期 2015 年版の食事摂取基準の策定について

5. 研究倫理審査委員会

研究倫理審査委員会の各部会において、以下の課題について、研究計画の倫理的妥当性等を審査した。

(1) ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会

・申請なし

(2) 実験動物研究部会

- ・食品中の栄養素等の生理機能の評価並びに表示との関係に関する基礎的調査研究
- ・視床下部腹内側核破壊動物の肥満病態に関する研究
- ・熱産生における脳および消化管ペプチドの役割
- ・睡眠とエネルギー代謝調節の脳機構の研究
- ・男性骨粗鬆症に対する大豆イソフラボン代謝産物の作用とその作用機序の解明
- ・アスリート女性の骨粗鬆症予防のための栄養生理学的研究
- ・健康食品の安心・安全な利用に関する評価検討
- ・肝臓、視床下部とマクロファージにおけるインスリン受容体基質（Irs）の役割について
- ・血管内皮細胞と膵β細胞における IRS-2 の役割について
- ・筋萎縮発症機序の解明
- ・運動による生活習慣病予防機序の解明
- ・肝臓における脂質代謝・合成の制御による生活習慣病予防法の開発
- ・特定栄養素欠乏による脳血管障害への影響およびそのメカニズムの解明
- ・健康食品素材に関する有効性と安全性の検討
- ・抗酸化物質大量摂取時の安全性評価：運動の有用作用に及ぼす影響

(3) 疫学研究部会

- ・日本人の食育の意識に関する研究（食育の文化的な分野の統一の見解分析）
- ・スポーツ選手の身体活動レベルの個人差の要因の検討
- ・施設入所高齢者における栄養摂取量、活動量が身体組成や体力に与える影響
- ・計測者及び器具の違いによる身体計測値の精度の比較
- ・脊髄損傷者の体組成把握を目指したインピーダンス法の応用に関する研究：健常者を対象とした予備的検討
- ・3 次元加速度計による自転車活動の評価法の開発
- ・パプアニューギニアの都市と農村における母子の体格と食事摂取状況の関連
- ・胸部に装着した加速度計・心拍計を用いた身体活動判別法および身体活動強度推定法の検討
- ・妊婦の葉酸サプリメント利用に関するアンケート
- ・日本人糖尿病患者に於ける食事、運動量の評価のた

- めの予備的研究
- ・栄養分野の国際保健協力人材のキャリアパスに関するアンケート調査
 - ・連続的または断続的な身体活動脂質利用及び食欲に及ぼす影響
 - ・東日本大震災被災者健康調査における生活習慣調査票の妥当性及び再現性の研究
 - ・健康食品に対する意識調査

【ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会委員名簿】

- 金井雅利 (理事：委員長)
 稲葉 裕 (実践女子大学教授)
 後藤田貴也 (東京大学医学部附属病院准教授)
 辻 誠治 (日本女子大学附属豊明小学校教諭)
 千村 浩 (研究企画評価主幹)
 森田明美 (栄養疫学研究部長)
 窪田直人 (臨床栄養研究部長)
 江崎 治 (基礎栄養研究部長)

【実験動物研究部会委員名簿】

- 江崎 治 (基礎栄養研究部長：委員長)
 大坂寿雅 (健康増進研究部上級研究員)
 窪田哲也 (臨床栄養研究部栄養療法研究室長)
 永田純一 (食品保健機能研究部食品分析研究室長)

【疫学研究部会委員名簿】

- 森田明美 (栄養疫学研究部長：委員長)
 稲葉 裕 (実践女子大学教授)
 辻 誠治 (日本女子大学附属豊明小学校教諭)
 大前和幸 (慶應義塾大学教授)
 田中茂穂 (健康増進研究部エネルギー代謝研究室長)
 石見佳子 (食品保健機能研究部長)
 窪田哲也 (臨床栄養研究部栄養療法研究室長)
 高田和子 (栄養教育研究部栄養ケア・マネジメント研究室長)

6. 栄養情報担当者(NR)の養成

(1) 第 8 回栄養情報担当者認定試験

- 日 時: 平成 23 年 6 月 12 日(日)
 場 所: 日本大学(東京都千代田区)
 TKP 大阪梅田ビジネスセンター(大阪府大阪市福島区)
 受験者数: 941 名
 合格者数: 583 名

(2) 第 9 回栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験

- 日 時: 平成 23 年 11 月 13 日(日)
 場 所: 日本大学(東京都千代田区)
 関西大学(大阪府吹田市)
 受験者数: 163 名
 合格者数: 68 名

(3) 栄養情報担当者(NR)研修会の開催

- 大阪会場: 平成 23 年 10 月 16 日(日)
 東京会場: 平成 23 年 10 月 22 日(土)
 仙台会場: 平成 23 年 10 月 30 日(日)

- 福岡会場: 平成 23 年 11 月 26 日(土)
 名古屋会場: 平成 23 年 12 月 4 日(日)
 岡山会場: 平成 23 年 12 月 11 日(日)

7. 連携大学院

- (1) 国立大学法人お茶の水女子大学
- (2) 東京農業大学大学院
- (3) 女子栄養大学大学院
- (4) 早稲田大学スポーツ科学学術院
- (5) 名古屋市立大学大学院
- (6) 福岡女子大学
- (7) 東京農工大学
- (8) 聖徳大学

8. 他の研究機関等との連携

- (1) 国民生活センター
- (2) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
- (3) 国立医薬品食品衛生研究所
- (4) 国立極地研究所

Ⅱ 研究・業務の進捗及び成果の概要

栄養疫学研究部

1. 研究部／研究室の概要

(1) 研究部の概要

栄養疫学に関する基礎ならびに応用研究を行い、日本人の食生活の多様化と健康への影響を明らかにするとともに、わが国の公衆栄養行政に不可欠な科学的根拠を提供する。具体的には、国民健康・栄養調査の集計業務を担当するとともに、結果の質の向上をめざした環境整備や基礎研究を行う。また、食事摂取基準の改定において必要とされる学術的資料を作成するとともに、そのための基礎研究を行う。

(2) 研究室の概要

a. 国民健康・栄養調査研究室

- ・当研究所の法定業務である国民健康・栄養調査の集計業務を担当する。
- ・国民健康・栄養調査等における調査精度の向上や技術的・学術的なレベルアップに寄与できる調査・研究等を実施する。
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を中心に関連する事柄について研修や情報提供等の支援業務を行う。

b. 食事摂取基準研究室

- ・5年ごとに改定されている「日本人の食事摂取基準」の策定に必要な栄養学的知見を系統的、かつ、網羅的に収集、蓄積、解読し、策定の効率化と質の向上の一助とする。
- ・日本人の食事摂取基準の策定に資する基礎資料を得るための、ヒトを対象とした栄養疫学研究を実施する。

(3) 構成メンバー

研究部長：

森田明美

研究室長：

西 信雄（国民健康・栄養調査／併任）

笠岡（坪山）宣代（食事摂取基準）

研究員：

野末みほ

猿倉薫子

中出麻紀子

坪田 恵

特別研究員：

今井絵理

客員研究員：

佐々木敏（東京大学）

渡邊 昌（生命科学振興会）

由田克士（大阪市立大学）

中谷友樹（立命館大学）

協力研究員：

黒谷佳代（国立国際医療研究センター）

後藤麻貴（国立国際医療研究センター）

後藤 温（国立国際医療研究センター）

鈴木 望（慶應義塾大学）

河嶋伸久（東京農業大学）

細川裕子（目白大学）

菊池有利子（ミネソタ大学）

技術補助員：

大野尚子、福羅由美、鈴木洋子、峯 恵美（～7月）、中山真樹（12月～）、近藤明子、後藤千春、瀧沢あす香、中村紗矢香（8月～）、吉田和枝（7月～）、工藤廣枝（～6月）

研修生：

小林さより（前年度より）

福元梓（前年度より）

片桐諒子（9月～）

玉木優花（9月5日～22日）

小原尚子（11月～）

伊勢さとみ（8月～）

神田千緩（8月～）

孫田みなみ（11月～）

菅愛実（11月～）

2. 年度計画

a. 国民健康・栄養調査研究室

- ・「健康日本21」の最終評価及び次期「健康づくり運動」の策定に向けて、国民健康・栄養調査の機能強化とデータ利活用を通じて、個人の生活習慣の改善を環境面から支援するための施策に資する研究を行う。
- ・国民健康・栄養調査の集計業務については、より一層の効率化と結果公表までの期間の迅速化を図るとともに、調査対象者への結果の返却を速やかに行うように努める。
- ・国民健康・栄養調査や自治体が独自に実施する健康・栄養調査における調査担当者等に対して、講習や情報提供などを通じて積極的な技術支援を行う。
- ・健康・栄養調査業務支援ソフト「食事しらべ」（2011年版）を作成し、業務の短縮化や経費節減への取り組みを前進させる。
- ・健康・栄養調査全般に関わる高度化並びに精度管理に関する研究を行う。
- ・栄養調査成績を中心とした各種データを用いた疫学研究を行う。
- ・健康・栄養調査と関連した日本人の食事摂取基準の活用に関する研究にも取り組む。

b. 食事摂取基準研究室

- ・日本人の食事摂取基準（2010 年版）の策定において参照された文献について、引き続き各ワーキンググループメンバーから収集・分類・整理し、データベースへの登録・管理作業を行う。
- ・今後の食事摂取基準改定において、策定の効率化および更なる内容の向上を目的として、収集した文献のエビデンステーブルを作成、報告を行う。
- ・国内外の研究者に向けた食事摂取基準の情報発信を目的として、ホームページや書籍等を介した普及啓発を行う。さらに、日本人の食事摂取基準（2010 年版）の世界への発信を目的として、英語版概要の完成を目指す。
- ・2010 年版の食事摂取基準の策定においてエビデンスが不足していた部分についての栄養疫学研究および実験栄養学的研究を他機関と共同で実施し、今後の食事摂取基準の策定に資するエビデンスの構築を進める。
- ・地域在住高齢者及び介護施設入所者の栄養摂取状況やビタミン・ミネラル栄養状態の調査を継続する。

3. 進捗状況（成果）

a. 国民健康・栄養調査研究室

●平成 22 年国民健康・栄養調査の集計

- ・平成 22 年国民健康・栄養調査について、基本集計表一式を平成 23 年 8 月 25 日に厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室へ提出した。すべての自治体からの調査票を受け取ってから、7 か月と 1 日後であった。

●平成 23 年国民健康・栄養調査の集計

- ・平成 23 年国民健康・栄養調査については、各自治体からの調査票の提出を確認後、順次集計作業を開始・継続している。

●健康・栄養調査業務支援ソフトウェア「食事しらべ（2009 年版）（確定版）」の改訂と普及

- ・国民健康・栄養調査を実施する自治体担当者用説明資料を作成するとともに、栄養摂取状況調査ならびに身体状況調査に対応したソフトウェア（「食事しらべ（2009 年版）」（確定版）[®]）を改訂した。本年度は「食事しらべ」を使用してデータを提出するよう厚生労働省から各保健所（自治体）に要請があったため、この改訂版（食事しらべ 2011 年版）の配布を行った。
- ・当研究所のホームページ上に平成 23 年国民健康・栄養調査の円滑な遂行と精度管理ならびに標準化が得られるよう、必要な情報を掲載した。また、「栄養摂取状況調査のための標準的図版ツール（2009 年版）（確定版）」と「重量目安表」、調査対象世帯向けの「国民健康・栄養調査説明のための資料」を改訂し、希望する自治体へ配布した。

●健康・栄養調査技術研修セミナーの開催

- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を対象とした「健康・栄養調査技術研修セミナー」を平成 23 年 9 月から 10 月にかけて東京都、愛知県、兵庫県、福岡県で計 4 回開催し、延べ 231 名の参加があった。

●平成 23 年国民健康・栄養調査及び各自治体等が実施する健康・栄養調査に関する情報提供

- ・保健所を設置している地方自治体、関連学会、関連団

体等に対する技術的支援を行った。

●厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室との連携

- ・平成 23 年国民健康・栄養調査の企画、各種調査票の設計、食品番号表・調査必携の作成並びに厚生労働省が開催している担当者会議の内容等に関して、必要に応じ生活習慣病対策室と連携し、適切な調査が実施されるよう最大限の対応を行った。

b. 食事摂取基準研究室

- ・業務内容を整理・統合し、3 本柱の戦略プランを作成した。

●日本人の食事摂取基準（2010 年版）策定・普及・啓発

- ・食事摂取基準策定に参考にされた文献のデータベースを構築し、昨年 11 月に策定スタッフ向けデータベースを公開した（情報センターとの共同開発）。
- ・次期の「日本人の食事摂取基準」（2015 年版）策定にむけて、食事摂取基準研究事務局を設置し、厚生労働省、各機関と連携し策定方針の検討を開始した。
- ・2010 年版の食事摂取基準の策定においてエビデンスが不足していた部分についての栄養疫学研究および実験栄養学的研究を他機関と共同で実施し、今後の食事摂取基準の策定に資するエビデンスの構築を進めた。
- ・現行の「日本人の食事摂取基準」（2010 年版）の普及・啓発のため、当研究所監修の「ポケット食事摂取基準」を出版した。研究成果発表会（参加者 102 名）の開催、各地方自治体などが主催する講習会への講師派遣、現場レベルでの活用支援も実施した。
- ・世界へ向けた「日本人の食事摂取基準」（2010 年版）の発信を目的として、英語版概要を作成した（3 月公開予定）。

●栄養素摂取状況と健康状態に関する栄養疫学研究

- ・地域在宅高齢者を対象とした高次生活機能低下に関わる要因分析からは、喫煙習慣があること、運動習慣がないことが将来の機能低下の有意なリスク要因となることが、外食行動が機能維持の予防因子となることが判明した。一方、栄養素摂取と高次生活機能低下との関連では、総たんぱく質の高摂取、とりわけ動物由来たんぱく質の高摂取は地域在住高齢者において 7 年後の高次生活機能維持に寄与していた。
- ・介護予防のための健診で、地域在住 75 歳以上高齢者の栄養摂取を検討したところ、食品・栄養素ともおおむね良好な摂取状況であることが明らかになった。
- ・食事摂取基準の活用者である栄養士の職域について諸外国調査を実施し、欧米では病院が主要な職域であったが、日本は事業所や福祉施設が多く、活用内容が異なる可能性が示唆された。
- ・人間ドック受信者を対象とした大規模コホート研究を継続し、約 3,800 名のコホート参加者を得、食事・身体活動・食行動意識、心理的要因・遺伝的要因等と生活習慣病発症との関連性について明らかにした。

●東日本大震災への対応

- ・東日本大震災の対応として、厚生労働省が発出した「避難所における食事提供の計画・評価のために当面の目標とする栄養の参照量（発災 1～3 ヶ月）」、「避難所における食事提供の評価・計画のための栄養の参照

量（発災 3 ヶ月～）」の策定に全面協力した。被災地での活用に向け、栄養参照量に対応した食品構成および食品具体例を作成し、関係機関に配布するとともにHPにて情報発信を行った（研究所内各部署、日本栄養士会等と協力）。

健康増進研究部

1. 研究部／研究室の概要

(1) 研究部概要

健康増進研究部は、(独)国立健康・栄養研究所第三期中期計画に示された、生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究を行う。

これは、運動・身体活動や適切な食事による生活習慣病の一次予防、身体活動や食事といった環境因子と遺伝的因子の相互作用の解明、並びに運動と食事によるテーラーメイド予防法に関して、ヒトや集団を対象とした調査・実験を行うものである。

特に、a. 運動基準・指針、食事摂取基準等の改定のための科学的根拠を提示する、b. 遺伝因子と各栄養素摂取量、身体活動量、エネルギー代謝等との関係を明らかにし、生活習慣病発症の遺伝、環境リスクの相互作用を解明することを目的とする。

(2) 研究室の概要

a. 運動ガイドライン研究室

厚生労働省の「健康づくりのための運動基準」や「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」の策定・改定及びその普及・啓発に資する研究・調査並びに、それらを活用した生活習慣病予防の方策に関する以下の研究・調査を実施する。

- ・「健康づくりのための運動基準ならびに運動指針」作成・改定のための文献収集並びに検討(システムティックレビュー)を行う。
- ・「健康づくりのための運動基準 2006」に示された生活習慣病予防のために必要な身体活動量・運動量・体力の基準の妥当性を検討するための大規模無作為割付介入研究を行う。
- ・身体活動量の多寡に関連する遺伝要因の解明と、環境要因との相互作用について検討する。
- ・肉体疲労あるいは精神疲労を、早期発見あるいは回復経過を明らかに出来るようにし、適切な「休養」を取る事で「運動」による継続的な健康増進が可能となるような研究を行う。

b. エネルギー代謝研究室

厚生労働省の「日本人の食事摂取基準」における推定エネルギー必要量、および「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」における身体活動量・運動量の把握に資する研究として、以下の調査・研究を行う。

- ・エネルギー消費量の推定法、および身体活動・運動の定量化の方法を開発する。
- ・身体活動レベルに寄与する活動強度や活動内容を対象特性別に明らかにする。
- ・身体活動がエネルギー代謝や基質代謝に及ぼす影響を明らかにする。
- ・エネルギー消費と肥満を制御する脳機構を明らかにする。

(3) 構成メンバー

研究部長：

芝池伸彰(5月まで) 宮地元彦(6月から)

研究室長：

宮地元彦(運動ガイドライン研究室長併任)

田中茂穂(エネルギー代謝研究室)

主席研究員：

熊江隆

上級研究員：

高田和子(5月まで)

大坂寿雅

特別研究員：

村上晴香(運動ガイドライン研究室)

中江悟司(エネルギー代謝研究室)

流動研究員：

田中憲子(日本学術振興会特別研究員)

小林澄誉子(日本学術振興会特別研究員)

大河原一憲(日本学術振興会特別研究員)(平成23年12月まで)

客員研究員：

田畑泉(立命館大学)

大森豊緑(名古屋市立大学)

吉武裕(鹿屋体育大学)

真田樹義(立命館大学)

家光素行(立命館大学)

山元健太(南テキサス大学)

福典之(東京都健康長寿医療センター研究所)

谷本道哉(近畿大学)

二見 順(東日本国際大学)

田中千晶(桜美林大学)

引原有輝(千葉工業大学)

緑川泰史(桜美林大学)

大島秀武(流通科学大学)

稲山貴代(首都大学東京)

大河原一憲(電気通信大学)(H24年1月より)

協力研究員：

河野寛(早稲田大学)

片山利恵(NPO 法人健康早稲田の杜)

高山光尚(日本事務器)

島田美恵子(千葉県立保健医療大学)

大森由実(神奈川工科大学)

濱寄秀崇(国立国際医療センター)

森本友紀恵(NPO 法人健康早稲田の杜)

鈴木洋子(株式会社ウェル・ビーイング)

技術補助員：

吉池秀之、広佐古愛湖、川上諒子、佐々木梓、埴

智史、久保絵里子、林美由紀、小暮寛子、三宅理

江子、安藤貴史

研修生：

古泉佳代(横浜国立大学)

2. 年度計画

a. 運動ガイドライン研究室

- ・運動基準やエクササイズガイドで示された運動・身体活動量の妥当性を検討するための大規模介入研究において、1000名以上の被験者登録を達成し、介入・追跡を実施する。
- ・運動基準・エクササイズガイド改定のための系統的文献レビューを実施する。
- ・健康日本 21 の最終評価の結果を次期国民健康づくり運動のプラン策定に活かすために、個人の身体活動量に影響する要因を遺伝と環境の両面から検討する。

b. エネルギー代謝研究室

- ・様々な特性（職業、運動習慣、生活地域、年齢など）を有する成人および小児を対象に、二重標識水法を用いて、1日当たりの身体活動レベルおよび総エネルギー消費量のデータを蓄積する。それにより、食事摂取基準における推定エネルギー必要量の改定に資する資料を提供する。
- ・ヒューマンカロリメーターや活動量計などを用いて、身体活動レベルや総エネルギー消費量およびエネルギーバランスの変動要因を特定することにより、肥満の予防や解消に寄与する知見を獲得する。
- ・ラット及びマウスを用い、エネルギー代謝調節および肥満制御の脳機構を明らかにする。

3. 進捗状況（成果）

a. 運動ガイドライン研究室

- ・運動基準・エクササイズガイド改定のためのシステムティックレビューを実施し、207本の大規模前向きコホート研究を精読し、メタ解析した。その結果をもとに、1)現在の基準値の妥当性の再検討、2)70歳以上の基準の策定の可能性、3)わかりやすい基準の提示、4)全身持久力以外の体力の基準値提示の可能性などを検討している。
- ・運動基準 2006 で示された運動・身体活動量 23Ex の妥当性を検討するための大規模介入研究において、平成 23 年 12 月末日の時点で約 975 名の割り付けと介入が終了し、現在も参加者の増加に取り組んでいる。そのベースラインのデータから、我が国のサルコペニア（筋肉減弱症）基準値を提示し、その簡便な推定法の提案に関する研究が“平成 23 年度日本体力医学会賞”を受賞した。
- ・運動基準 2006 で示された運動・身体活動量 23Ex の妥当性を検討するための大規模介入研究において、2年間の介入期間の分析から、活動量計を用いた介入を受けた身体活動介入群において、身体活動量の平均値が基準値である 23Ex/週を超え、介入期間が過ぎた 2 年目でもその量が維持されていることが明らかとなった。また、2年間の身体活動介入群の腰痛有訴率が対照群より有意に低いことが明らかとなった。
- ・運動基準・エクササイズガイドの身体活動量基準値である週 23Ex が歩数に換算すると 1 日 8500 歩～10000 歩程度であること、1 日 50 分から 1 時間程度の活動時間に相当することを明らかにした。
- ・身体活動の多寡に関連する遺伝的要因を明らかにする

ため、大規模前向き研究参加者の遺伝子多型を網羅的に分析し、脳内における軸索誘導や神経伝達物質の開口、免疫、ステロイド代謝等に関わる遺伝子の多型が候補遺伝子として選ばれた。また、環境要因を検討するために環境と身体活動に関するシステムティックレビューを実施した。

- ・スポーツ選手の疲労と疲労感の評価方法の検討ならびにスポーツ現場での疲労・疲労感の発現に関する研究を実施した。

b. エネルギー代謝研究室

- ・二重標識水（DLW）法によるデータベースに、事務職で運動習慣のない成人のデータを新たに加え、職種・運動習慣・地域特性を考慮した身体活動レベルの推定法の検討を進めている。中学生については、神奈川県に続き、都内と茨城県で DLW 法を用いた調査結果の分析を行っている。また、3次元加速度計を用いて小学生における総エネルギー消費量を、子ども用の質問票を用いて中学生における中強度以上の身体活動量（メッツ・分）や身体活動時間を、比較的正確に推定できることが明らかとなった。
- ・39名の幼児を対象として得られた、10種類の身体活動（座位活動～遊び～歩・走行）における加速度および呼吸分析のデータから、加速度計を用いた活動強度（メッツ）の推定法を検討している。また、成人を対象に、加速度等の生体情報などから、身体活動の強度のみならず活動の種類の種類も可能な活動計の開発を進めている。
- ・歩数は中高強度活動時間の指標となり得るが、職種によって、両者の関係に違いがみられるという結果を得た。また“How many steps are enough? For Children and Adolescents”（＝身体活動ガイドラインの中強度活動時間に相当する歩数）の系統的レビューに加わった。小学生においては、歩・走行以外の生活活動の時間には差がみられず、歩・走行活動時間に男女差がみられた。
- ・糖尿病群の基礎代謝量は、非糖尿病群や境界型群より約 7%高かった。また、最大酸素摂取量の高い者（長距離ランナー）における睡眠時代謝量を、ヒューマンカロリメーターおよび MRI 法を用いた組織・臓器重量の推定により検討している。ヒューマンカロリメーターおよび 3次元加速度計を用いて、食事による産熱の評価法確立のための検討や、身体活動の連続性が脂質酸化量や食欲に与える影響についての検討も進めている。
- ・低酸素環境下での熱産生の抑制と体温低下の脳機構として、視床下部の終板器官周囲部への求心性ノルアドレナリン神経活動の高進と、それによる一酸化窒素放出が重要であることを明らかにした。
- ・視床下部腹内側破壊マウスにおいて腹部臓器の細胞増殖がおきること、肝切除後の再生が促進されることを明らかにした。

臨床栄養研究部

1. 研究部／研究室の概要

(1) 研究部の概要

臨床栄養研究部は、「重点調査研究に関する事項」の「生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究」に対応し、運動・身体活動による生活習慣病の一次予防、食事と遺伝的因子の相互作用の解明並びに運動と食事とによるテーラーメイド予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた研究を行う。近年、我が国において糖尿病患者は増加の一途をたどり、罹患者数は約 890 万人を数えるに到っている。糖尿病は高齢者における主要な疾患の 1 つであり、糖尿病に肥満・高脂血症・高血圧が合併するメタボリックシンドロームは動脈硬化を促進し、心筋梗塞・脳卒中のリスク増大を介して日本人の健康寿命を短縮する最大の原因となっている。糖尿病などの生活習慣病は、複数の遺伝因子に加えて環境要因が組み合わさって発症する多因子病であり、その 1 つ 1 つの因子は単独では生活習慣病を発症させる効果は弱い、複数の因子が組み合わさって生活習慣病を発症させると考えられている。また近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、日本人が欧米人に比べ、膵β細胞のインスリン分泌能が低い(遺伝的素因)のために、高脂肪食などの食事内容の欧米化や運動量の低下といった変化(生活習慣要因)による肥満・インスリン抵抗性状態に対して、膵β細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。このような生活習慣病の特性を踏まえて、本プログラムでは糖尿病や動脈硬化症の発症・進展の遺伝的要因、環境要因並びにその分子メカニズムを解明する。

(2) 研究室の概要

a. メタボリックシンドローム研究室

生活習慣病を効果的に予防するためには、生活習慣病の根本的な分子病態の解明とそれに立脚した生活習慣への介入が必須である。現在急増している 2 型糖尿病は、複数の遺伝因子に加えて環境要因が組み合わさって発症する多因子病である。そこで本プロジェクトは、2 型糖尿病を発症しやすくする遺伝子多型を同定し、その機能が未知のものに対しては、動物モデルを用いて解析する。また半定量食品摂取頻度調査に基づいた個々人の各栄養素摂取量並びに身体活動量と、これまでに同定した 2 型糖尿病を発症しやすくする遺伝子多型の組み合わせが、肥満度や血糖値などの臨床指標にどのように影響を及ぼしているか、コホート集団を対象に調査・解析する。

b. 栄養療法研究室

近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、高脂肪食に代表される食習慣の欧米化や車の普及などによる運動不足といった生活習慣に基因する肥満・インスリン抵抗性に対して、膵β細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。そこで、本プロジェクトでは高脂肪食負荷に伴うインスリン抵抗性と代

償性のインスリン分泌増加の分子メカニズムについてモデル動物を用いて詳細に検討する。

(3) 構成メンバー

研究部長：

窪田直人

室長：

原 一雄 (メタボリックシンドローム研究室)

窪田哲也 (栄養療法研究室)

任期付研究員：

井上真理子

特別研究員：

諏訪内浩紹

客員研究員：

門脇 孝 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

門脇弘子 (国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授)

野田光彦 (国立国際医療研究センター戸山病院糖尿病・代謝症候群診療部長)

協力研究員：

眞鍋一郎 (東京大学医学系研究科循環器内科)

松下由実 (国立国際医療研究センター研究所・国際保健医療研究部国際疫学研究室長)

流動研究員：

高本偉碩 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

粟澤元晴 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

技術補助員：

本村寿子、加藤美智子(5月まで)、

野崎江里子(6月から)

研修生：

泉 和生 (財団法人国際協力医学研究振興財団)

加藤昌之 (財団法人国際協力医学研究振興財団)

勝山修行 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

小島敏弥 (東京大学医学系研究科循環器内科)

浅野智子 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

小畑淳史 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

林 高則 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

岩村智勝 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

佐藤寛之 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

- 桜井賛孝 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)
横田光祐 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科) (6月から)

2. 年度計画

a. メタボリックシンドローム研究室

●新規の2型糖尿病感受性遺伝子の同定と各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

これまでに罹患同胞対法を用いた全ゲノム解析、候補遺伝子アプローチを組み合わせた統合的解析や GWAS によって PPAR γ 遺伝子、アディポネクチン遺伝子、PGC-1 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、HNF4 α 遺伝子、TCF7L2 遺伝子、HHEX 遺伝子、KCNQ1 遺伝子、UBE2E2 遺伝子、C2CD4A/B 遺伝子が、日本人における2型糖尿病感受性遺伝子であることを明らかにした。しかしこれらの遺伝子を含め今までに明らかにされた2型糖尿病感受性遺伝子は、2型糖尿病の発症の25%しか説明することができない。そこで本年度は、さらに未知の2型糖尿病感受性遺伝子を明らかにする。また糖尿病をはじめとする生活習慣病は遺伝素因に環境因子の影響が組み合わさって発症する多因子病であり、個々の易罹患性を予測するためには、個々の遺伝素因と環境因子に加えて遺伝素因・環境因子の相互作用を考慮に入れた解析を行いそのデータに立脚した易罹患性予測式を構築する必要がある。これまでアディポネクチン遺伝子多型は肥満者でより強く血中アディポネクチン値に影響を与えていることを明らかにしているが、本研究室では、これまでに明らかにしたインスリン抵抗性やインスリン分泌、2型糖尿病に関与する遺伝子多型、各栄養素摂取量、身体活動量、それらの相互作用項を説明因子として、肥満度、血糖値、糖尿病の有無などの従属変数をどのように説明するかをロジスティック解析によって検討する。本年度はコホートの対象者について PPAR γ 遺伝子、アディポネクチン遺伝子、PGC-1 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、HNF4 α 遺伝子、TCF7L2 遺伝子、HHEX 遺伝子、KCNQ1 遺伝子に加えて、平成22年度に明らかにした2型糖尿病感受性遺伝子である UBE2E2 遺伝子、C2CD4A/B 遺伝子のタイプングを行い、ロジスティック解析によってインスリン抵抗性、2型糖尿病発症に関与する遺伝素因と環境因子の組み合わせを抽出する。

b. 栄養療法研究室

●糖尿病の研究 (インスリン分泌を中心に)

欧米人と同様、日本人においても2型糖尿病感受性遺伝子であると同定された TCF7L2 遺伝子は、欧米などの解析から、インスリン分泌能の低下と関連していることが報告され、これが糖尿病の発症要因であると考えられている。しかしその機能については全く不明である。これまでに、TCF7L2 の機能を膵 β 細胞で低下させた遺伝子改変モデル動物を作製し解析したところ、膵 β 細胞量の減少に伴うインスリン分泌低下により耐糖能異常を呈していることを明らかにした。そこで本年度は、発生や成長のいつの段階から膵臓の β 細胞量が低下しているのかについて検討する。

●メタボリックシンドロームの研究 (インスリン抵抗

性を中心に)

肝臓は糖・脂質代謝において中心的な役割を果たしている臓器の1つであり、インスリンは肝臓において糖新生を抑制し、脂質合成を促進する。ところが、高脂肪食負荷に伴う肥満・2型糖尿病の肝臓では“インスリン作用における pathogenic paradox”が指摘されている。すなわち、正常な状態の肝臓では摂食後、インスリンによって糖新生は抑制され、脂肪合成が促進される。一方、肝臓特異的インスリン受容体欠損マウスや我々が作製したインスリン受容体基質(IRS)-1/IRS-2 ダブル欠損マウスのように肝臓におけるインスリン作用が完全に欠損した状態では糖新生抑制と脂質合成がともに障害され、高血糖と血中中性脂肪・肝臓中性脂肪含量の低下が認められる。ところが、肥満・2型糖尿病では、糖新生抑制に対してはインスリン作用の低下が認められ、脂肪合成に対してはむしろインスリン作用が亢進している病態が認められる。そこで肥満・2型糖尿病の肝臓において、なぜ糖新生抑制に対するインスリン作用は障害され、脂肪合成に対するインスリン作用はむしろ亢進するのか、その分子メカニズムを明らかにする。

3. 進捗状況 (成果)

a. メタボリックシンドローム研究室

●新規の2型糖尿病感受性遺伝子の同定と各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

これまで2型糖尿病感受性遺伝子を同定するにあたり、2型糖尿病のようなありふれた疾患・形質というものは、その遺伝素因の頻度も高いはずであるという common disease-common variant 仮説にのっとり、全ゲノムによるハップマップを用いた解析あるいは GWAS による解析により、昨年度 UBE2E2 遺伝子、C2CD4A/B 遺伝子が2型糖尿病感受性遺伝子であることを同定した。特に UBE2E2 遺伝子は日本人・東アジア人特有の2型糖尿病感受性遺伝子であり、またオッズ比が1.21と KCNQ1 遺伝子と同様頻度が高く、日本人の糖尿病遺伝素因の中では主要なもののひとつであることが判明した。また欧米人でもこれまでに40もの領域が2型糖尿病感受性領域として同定されている。しかし、common disease の遺伝素因に common variant が寄与する割合は低いことが報告され、最近では common disease の遺伝素因は common variant のみならず、低頻度の variant も担っているという仮説が提唱されている。また次世代シーケンサーの開発により、これまでの GWAS ではカバーされない新規の多型が同定されてきており、これらの多型についても2型糖尿病との関連を調べることで、新規の2型糖尿病感受性遺伝子を同定できる可能性がある。しかしすべての遺伝子をタイプングするには膨大なサンプル数と費用が必要となるため、今回 Imputation 法を用いて、2つのジェノタイプングアレイ間で共通していないマーカーのジェノタイプを補完することで、新規の2型糖尿病感受性遺伝子を同定することを試みた。まず Imputation の精度について検討したところ、実際に直接タイプングした遺伝子型と Imputation による推定遺伝子型の一致率は全体として良好であったが、アリル頻度が1%以下の場合、精度は悪いことが明らかとなった。この方法を用いてまず2型糖尿病 4470人、非糖尿病 3071人の直接ジェノタイプ

した SNP と 1000 ゲノムプロジェクトでジェノタイプした東アジア人 194 人の SNP を解析したところ、新規に疾患感受性領域を同定出来る可能性が示唆された。

b. 栄養療法研究室

●糖尿病の研究 (インスリン分泌を中心に)

TCF7L2 の機能を膵β細胞で低下させた遺伝子改変モデル動物において、発生や成長のいつの段階から膵臓のβ細胞量が低下しているのかを確認するために、まず離乳期について検討した。離乳期では体重には差を認めなかったが、血糖値は有意に高値を示した。また離乳期のマウスに経口糖負荷試験を行ったところ、インスリン分泌低下に伴う耐糖能異常を呈した。この時膵β細胞のインスリン含量は、大人のマウスと同様に有意に低下していた。このことから離乳期からすでに膵β細胞量が低下していると考えられた。そこで次に出生直後のマウスについて検討したところ、すでにこの時点から随時インスリン値はやや低下し、高血糖を呈していた。また膵β細胞のインスリン含量を測定したところ、有意に低下していた。さらにインスリン染色にて膵β細胞量を検討したところ、このマウスでは膵β細胞量が有意に低下していた。このことから TCF7L2 は膵β細胞の発生・分化の段階から膵β細胞量の調節に関与している可能性が示唆された。

●メタボリックシンドロームの研究 (インスリン抵抗性を中心に)

肝臓特異的 IRS-1 欠損(LIRS1KO)マウスと肝臓特異的 IRS-2 欠損(LIRS2KO)マウスに高脂肪食負荷を行ったところ LIRS1KO マウス、LIRS2KO マウスともに普通食に比べ高脂肪食で体重増加を認めたが、コントロールマウスとは差を認めなかった。まず肝臓における IRS-1, IRS-2 の遺伝子発現について検討したところ、IRS-1 の遺伝子発現はコントロールマウス、LIRS2KO マウスいずれにおいても普通食、高脂肪食で変化を認めなかった。一方 IRS-2 の遺伝子発現は、コントロールマウス、LIRS1KO マウスいずれにおいても絶食時、高脂肪食群において約 1/3 に低下していた。この結果から肝臓における IRS 蛋白質に関してコントロールマウスは、LIRS2KO マウスに近い状態に、LIRS1KO マウスはダブル欠損マウスに近い状態になっていること、LIRS2KO マウスでは高脂肪食負荷によって変化がないと考えられた。次に脂肪肝について検討したところ、非常に興味深いことに、LIRS1KO マウスではコントロールマウスに比し脂肪肝が顕著に抑制されていた。一方、LIRS2KO マウスではコントロールマウスと同様に脂肪肝が認められた。実際 oil-red O 染色を行うと、コントロールマウスでは脂肪滴の著明な増加が認められたが、LIRS1KO マウスではこうした増加が明らかに抑制されていた。一方 LIRS2KO マウスでは高脂肪食負荷により脂肪滴の著明な増加が認められた。これと一致して肝臓の TG 含量を測定すると、LIRS2KO マウスはコントロールマウスと同程度であるのに対し、LIRS1KO マウスでは有意に低下していた。次に糖負荷試験を行うと、LIRS1KO マウスでは、コントロールマウスに比し顕著な耐糖能障害が認められた。高脂肪食負荷時にコントロールマウスでも IRS-2 が低下しているにも関わらず LIRS1KO マウスのほうが耐糖能が悪いことから、IRS-2 が低下しているような今回のような状態では、IRS-1 が

糖代謝を一部代償していたと考えられた。一方、LIRS2KO マウスの耐糖能異常はコントロールマウスに比べて軽度にとどまっていた。これと一致してピルビン酸負荷後の血糖値について検討すると、LIRS1KO マウスは普通食では差を認めなかったが、高脂肪食負荷により、著明な血糖値上昇を呈していた。一方 LIRS2KO マウスは普通食、高脂肪食ともに軽度の血糖値上昇を認めた。以上の結果から、高脂肪食などによりインスリン抵抗性が惹起されると、持続する高インスリン血症により、IRS-2 の発現が低下し、高血糖が引き起こされる。この時 IRS-1 の発現は高インスリン血症により変化しないため、IRS-1 を介する脂肪合成は高インスリン血症になった分、増強され、脂肪肝を呈すると考えられた。またこのように IRS-2 が低下した状態では IRS-1 が一部糖代謝も代償していたと考えられた。そのため、このような状態で IRS-1 が欠損してしまうと、著明な高血糖と、一方で脂肪肝の抑制が認められたと考えられた。対照的に LIRS2KO マウスでは、もともと高脂肪食負荷により減っている IRS-2 が完全に欠損しただけであったため、やや耐糖能の悪化は認められたものの、コントロールマウスとあまり変化がなかったと考えられた。

栄養教育研究部

1. 研究部／研究室の概要

(1) 研究部の概要

生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究に関して、運動・身体活動や適切な食事による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用効果等について、特にライフステージ別の課題を実験的、疫学的、文献的な調査及び研究を行う。

また、小児から高齢者までの生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育をより効果的に推進するための調査研究を行い、その成果を専門家（管理栄養士等）のみならず広く国民に情報提供し、行政機関等と協調して食育を推進する。

(2) 研究室の概要

a. 栄養ケア・マネジメント研究室

食事摂取基準や運動基準の策定において、ライフステージ別の目標量策定及びライフステージ別あるいは有疾患者を対象とする場合の活用を推進するための基礎的な研究を行う。また、それぞれのライフステージに応じた適切な栄養ケア・マネジメントを推進するための調査研究を行い、その成果を専門家等に情報提供する。

b. 食育研究室

2011年度からの5年間にむけて策定された第2次食育推進計画に基づいて、各種団体（国、地方自治体、地域ボランティア、生産者、企業など）が展開している食育の実践活動を支援する為の調査研究を行う。また、食育活動展開の為の科学的基盤を得るための調査研究を実施すると共に食育の現状解析と評価法について研究する。

c. 健康・栄養指導研究室

成人期の生活習慣病予防のためのリスク因子抽出・介入方法検討の基礎的基盤を築く。特定健診・保健指導に寄与するため、メタボリックシンドローム予備群・有病者群を減少させる効果的介入の科学的基盤を確立する。肥満者を対象に運動および栄養教育による介入研究を実施し、肥満や生活習慣病の発症にかかる様々な環境要因（食事・生活習慣・社会環境等）や遺伝的要因を総合的に検討し、効果的な栄養教育の方法や成果にかかる評価指標について研究する。また、大規模コホートを設定し、肥満や糖尿病などのリスク因子抽出のための縦断研究を行い、肥満や糖尿病と遺伝的要因や食生活・運動習慣や心理的要因との関連性について解析を行い、肥満や糖尿病予防のための栄養教育法を確立する。

(3) 構成メンバー

研究部長：

阿部重一（併任、2011年7月31日まで）

千村 浩（併任、2011年8月1日から）

研究室長：

阿部重一（併任、栄養ケア・マネジメント研究室

2011年5月31日まで、食育研究室及び健康・栄養指導研究室 2011年7月31日まで）

千村 浩（併任、食育研究室 2011年8月1日から2012年2月29日、健康・栄養指導研究室 2011年8月1日から）

メリッサ・メルビー（食育研究室 2011年4月30日まで）

高田和子（栄養ケア・マネジメント研究室 2011年6月1日から）

奥田奈賀子（食育研究室 2012年3月1日から）

研究員：

山田晃一（健康・栄養指導研究室）

客員研究員：

阿部重一（国立水俣病総合研究センター 2011年8月1日より）

石渡尚子（跡見学園）

水野正一（佐久総合病院）

協力研究員：

別所京子（聖徳大学）

上野（目加田）優子（文教大学）

朴鍾薫（東京大学）

特別研究員：

吉村英一（特別研究）

技術補助員：

坂田晶子、山本久子、吉田美代子、魚住佳代、神

山麻子、吉田明日美、長谷川祐子、竹沢純

研修生

田中祥子、阿部瑞恵

2. 年度計画

a. 栄養ケア・マネジメント研究室

- ・運動基準における高齢者の目標値を設定するための文献的研究を実施する。
- ・運動基準や栄養摂取基準における高齢者に関する基礎的データを得るために、地域在住高齢者の自立度低下に関連する要因に関する敵学的調査および、高齢者のエネルギー及びたんぱく質必要量に関するデータの収集を行う。
- ・有疾患や小児における食事摂取基準等の活用のための基礎的な研究を実施する。
- ・介護保険における栄養改善の改定に貢献する。
- ・自治体、職能団体等の主催による講習会等に協力し、専門家への情報提供に努める。
- ・被災時の適切な栄養ケア・マネジメントに関する調査研究に協力する。

b. 食育研究室

- ・内閣府「食育推進」大会に参加し、食育の普及啓発に

貢献する。

c. 健康・栄養指導研究室

- ・大規模コホートを設定し、肥満および糖尿病のリスク因子解析のためのデータ収集とデータベース作成を行う。特に、肥満および糖尿病の素因としての遺伝子の多型と食事摂取量や食行動との関連性を明確にし、遺伝子要因を考慮したより効果的な栄養教育の在り方について検討する。

3. 進捗状況（成果）

a. 栄養ケア・マネジメント研究室

- ・運動基準における高齢者の目標値を設定するために、高齢者における身体活動量や体力と自立度低下、骨粗鬆症発症、ロコモティブシンドローム発症、認知症発症に関連する 180 文献をレビューし、最終的に 42 文献が採用された。その結果、身体活動量や体力の指標において、高齢者の研究に沿った変更が必要と考えられた。
- ・調査が終了した静岡県のコホート (Shizuoka Study) において、最終の死亡状況と介護認定の把握のために、死亡個票等の突き合わせを行い、データベースが完成した。
- ・地域在住高齢者の新規のコホートとして京都府亀岡市における研究 (Kameoka Study) について、一次調査及び栄養調査を含む詳細な二次調査が終了した。一部の対象について身体計測と体力測定を開始した。
- ・施設入所の高齢者の基礎代謝量の測定及び二重標識水法による総エネルギー消費量について、2 施設での調査を終了し、基礎代謝量、総エネルギー消費量ともに食事摂取基準における高齢者の値よりも小さいことを確認した。
- ・高齢者 1 施設の入所者を対象に基礎代謝量、体力、身体計測、食事調査を実施し、縦断的な追跡調査を開始した。
- ・ALS 患者について二重標識水法による総エネルギー消費量の測定を新規に 10 例実施した。筋ジストロフィー患者については、これまで測定したデータを解析し、体重当たりのエネルギー消費量の違いに影響する要因の検討を行った。人工呼吸器の使用の有無は大きく影響しておらず、運動能力や日中の活動量などについて検討を加える必要性が考えられた。
- ・未就学児の総エネルギー消費量に関するデータを収集するために、測定条件等の検討を開始し、3 名を対象に予備的な検討を行った。
- ・介護保険における栄養改善に関する文献レビューを行い、「栄養改善マニュアル」の改訂に貢献した。
- ・介護保険における栄養ケア・マネジメントを推進するための多職種専門家を対象とした研修会（年間 6 回）（平成 23 年度老人保健事業 委員長：名古屋学芸大学 井形明弘）の講師及び運営、日本健康栄養システム学会による「子どもの栄養ケア・マネジメント研修会」の運営に携わり、栄養ケア・マネジメントの推進に貢献した。うつ・閉じこもり・認知症予防・支援のための調査研究事業（平成 23 年度老人保健事業、委員長：福島県立医科大学 安村誠司）において、栄養改善の介入方法の検討及び結果の解析を担当した。

自治体、職能団体等の主催による講習会の講師を務め、専門家への情報提供に努めた

- ・所内の震災プロジェクトに参加し、高齢者や有疾患者向けのリーフレットの作成と被災者健康調査の食事の質問項目の妥当性研究における栄養調査を主体的に実施した。

b. 食育研究室

- ・内閣府「食育推進大会」（静岡県三島市、6 月 18～19 日）に参加した。

c. 健康・栄養教育研究室

- ・人間ドック受診者を対象とした大規模コホートを確立し、肥満および生活習慣病のリスク因子解析のためのデータ収集を継続した。現在のところ約 3,700 名の登録者と 2,500 名のデータベースを収集した。また、遺伝子抽出を進め、肥満及び糖尿病に関連があると言われている遺伝子の多型解析をさらに行い、グレリン遺伝子多型と食事摂取量や食行動、食嗜好との関連性について明らかにし、論文を投稿した。

基礎栄養研究部

1. 研究部／研究室の概要

(1) 研究部（研究室）の概要

a. 脂質・糖代謝研究室

マクロニュートリエント（脂質、炭水化物、蛋白質、アルコール等）の摂取基準策定のためのレビューを行いながら、マクロニュートリエントの過剰、過少摂取で生じる生活習慣病の発症機序とそれらの予防、治療法に関する研究を行う。

(2) 構成メンバー

研究部長：

江崎 治

研究室長：

三浦進司（脂質・糖代謝研究室）

上級研究員：

山崎聖美

客員研究員：

亀井康富（東京医科歯科大学）

渡辺光博（慶應義塾大学）

高橋真由美（東京医科歯科大学）

技術補助員：

甲斐裕子，上條悦子，榊原圭代子

研修生：

只石 幹（東京農業大学大学院）

2. 年度計画

a. 脂質・糖代謝研究室

・マクロニュートリエント（脂質、炭水化物、蛋白質、アルコール等）の摂取基準策定のためのレビューを行いながら、マクロニュートリエントの過剰、過少摂取で生じる生活習慣病の発症機序とそれらの予防、治療法に関する研究を行う。

(ア) 身体活動量増加による生活習慣病予防機序の解明

身体活動量の増加は、マクロニュートリエントの過剰摂取の悪影響を防止する最も効果的な方法である。運動を行っている人は、糖尿病、肥満、動脈硬化症、癌などの罹患率が少なくなり、死亡率も減少する。その理由として、筋肉でのエネルギー消費が増加し、余分な脂肪の細胞内蓄積を防ぎ、細胞内の代謝を改善することが考えられているが、その機序はほとんどわかっていない。骨格筋での脂肪燃焼機序を、骨格筋特異的に AMPK、LKB-1 活性を抑制したマウス等を用いて、安静時、非常に弱い身体活動時 (NEAT)、弱い運動時、強い運動時別に明らかにする。また、定期的に運動を行う人は、最大酸素摂取量 (心肺能力) が増加し、運動量やエネルギー消費量が亢進しやすくなる。これらの機序を、骨格筋特異的 PGC-1 α アイソフォーム過剰発現マウスを用いて明らかにする。

(イ) 食事バランス、食品成分による生活習慣病予防機序の解明

生活習慣病、過剰脂肪蓄積予防のため、食事摂取基準ではマクロニュートリエントの摂取範囲が集団を対象として策定されている。しかし、それらの基準の多くは観察研究に基づいていて、確実ではない。そこで、基準策定の根拠を提示するため、生活習慣病、過剰脂肪蓄積機序を推定する。人の代謝に良く似たモデルマウスを見だし、食事の中の脂肪エネルギー比変動によって生じる代謝への影響を調べる。

3. 進捗状況（成果）

a. 脂質・糖代謝研究室

日本人の肥満予防に最適な脂肪/炭水化物摂取比率について、疫学、生理学、分子生物学観点からのレビューを行った。

(ア) 身体活動量増加による生活習慣病予防機序の解明

AMPK には約 10 種類の類似タンパク質があり、これら AMPK ファミリーのマスターレギュレーターとして LKB1 が知られている。骨格筋特異的に LKB1 活性を抑制した LKB1-DN マウスにおいて、運動継続能力が著しく低下することや、運動時の酸素摂取量増加が低下することを明らかにした。LKB1-DN の活動筋の脂質代謝やミトコンドリアの呼吸機能に障害は認められなかったが、脂肪酸 β 酸化に関与する酵素機能の障害が疑われた。運動によって発現増加するのはこれまで知られていたアイソフォーム PGC-1 α -a ではなく、新規アイソフォーム PGC-1 α -b と PGC-1 α -c であり、その増加に β 2-AR 刺激が大きく寄与している。運動反応性の高い PGC-1 α -b を骨格筋だけに過剰発現させた PGC-1 α -b マウスの運動継続能力が高いことを明らかにした。この機序として、ミトコンドリア合成、血管新生、脂肪酸輸送機能の増加が示唆された。骨格筋の機能を増加させることにより、運動能力が高まることが示された。

(イ) 食事バランス、食品成分による生活習慣病予防機序の解明

低炭水化物食はインスリン抵抗性のある肥満患者や食後高血糖を示す糖尿病の患者に用いられる。しかし、脂肪エネルギー比は高くなりその影響が危惧されている。食後高脂血症（中性脂肪の高値）は冠動脈疾患の独立した危険因子であり、食後高脂血症の発症機序の解明と予防法の開発が求められている。食事性油脂投与後 3 時間で非常に強い高脂血症を示すマウス系統を見いだした。リポタンパク質の合成亢進と LPL 活性低下が認められ、高脂血症のモデルマウスとなることが示された。

食品保健機能研究部

1. 研究部／研究室の概要

(1) 研究部の概要

中期目標は、健康増進法に基づく業務及び「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究を行う。

○健康増進法に基づく業務

- ・健康増進法第 27 条に基づき収去された特別用途食品、栄養表示された食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。
- ・特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術が確立している食品成分の試験業務は、検体の受理から試験の回答までを 2 ヶ月以内に行うことを目指す。
- ・分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。

○健康食品を対象とした食品成分の有効性及び健康影響評価に関する調査研究

- ・「健康食品」等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、食品表示並びに食品成分の健康影響に関する調査研究を実施する。
- ・「健康食品」摂取の安全性に関しては、動物実験及び細胞実験等による健康影響評価研究を実施し、これらに関する情報発信を行う。

(2) 研究室の概要

a. 食品分析研究室

- ・特別用途食品（病者用食品、乳児用調製粉乳、えん下困難者用食品、特定保健用食品など）許可申請時の食品成分分析を行う。
- ・収去食品の分析を行う。
- ・一般栄養成分及び特定保健用食品関与成分の分析方法の改良を行う。
- ・特定保健用食品の審査において、消費者庁に関与成分分析法について専門的観点から情報を提供する。

b. 食品栄養・表示研究室

- ・食品中の栄養素等の生理機能の評価並びに表示との関係に関する基礎的調査研究を行う。そのうち特に、ビタミン A やビタミン D 等の微量栄養素を中心に、栄養生理学上の研究を行うとともに、健康維持における新しい有用性に関する試験研究を進める。
- ・これらの研究成果をもとに、食品表示のあり方について調査研究を行う。

c. 食品機能研究室

- ・機能性を有する食品の有用性と安全性の評価に関する調査研究を行う。特に、機能性食品の安全な利用

のための評価研究と新規機能性成分の有効性、健康影響評価及び食品素材利用に関する研究を行う。

(3) 構成メンバー

研究部長：

石見佳子

研究室長：

松本輝樹 (食品分析研究室)
石見佳子 (食品栄養・表示研究室／～5月)
山内 淳 (食品栄養・表示研究室／6月～)
永田純一 (食品機能研究室)

研究員：

竹林 純 (精度管理担当 (主任))
山内 淳 (併任／～5月)

特別研究員：

津田治敏
大瀧 (東泉) 裕子

客員研究員：

山田和彦
矢野友啓
太田篤胤
呉 堅
王 新祥
山本祐司
長田恭一

協力研究員：

千葉大成

技術補助員：

鈴木春奈、谷中かおる、小坂谷典子、町野 (中村) 礼、白井智美 (6 月～)、加藤美智子 (6 月～)

研修生：

西出依子
小澤千尋
谷口祐一

2. 年度計画

a. 食品分析研究室

- ・消費者庁の特別用途表示の許可等に関わる申請に基づく試験業務を期間内に実施するとともに、そのヒアリングに適切に対応する。
- ・健康増進法第 27 条に基づき収去された特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の分析業務を期間内に実施する。
- ・栄養表示基準における栄養成分の分析法について、より適切な分析手法の検討を行う。また、試験検査機器の有効利用及び整備の充実を図る。
- ・登録試験機関間の精度管理に関する試験を引き続き実施する。
- ・分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分

について、標準品の開発を行う。

- ・微生物定量法が主たる分析法として設定されている栄養成分に対する効率的な分析法の開発を行い、妥当性確認を行う。また、測定成分の曖昧さにより分析法が整備されていないものに関して、マクロニュートリエントを中心に検討を行う。
- ・抗酸化物質を含有するいわゆる健康食品等について、抗酸化力測定や消費者意識調査等による実態把握を行う。また、いわゆる健康食品中に含まれる抗酸化物質の大量摂取が健康に及ぼす影響について調査する。

b. 食品栄養・表示研究室

- ・「健康食品」の表示並びに「健康食品」に含まれる微量栄養成分の栄養生理学上の調査研究を行う。

c. 食品機能研究室

- ・医薬品の効果や安全性に対する「健康食品」素材の影響を評価する。
- ・疾病モデル動物における「健康食品」素材の健康影響評価を行う。

3. 進捗状況(成果)

a. 食品分析研究室

- ・23年度での申請食品8検体（特定保健用食品7検体、特別用途食品1検体）の分析を遅滞無く行った。
- ・消費者庁への特定保健用食品申請時の関与成分分析に関わるヒアリングに出席するとともに、内閣府食品安全委員会・新開発食品調査会の委員等として特定保健用食品の許可に関わる審査に参画した（ヒアリング：12日/年、調査会・部会：計9回/年）。
- ・消費者庁食品表示課と連携し、食品表示行政における適正な分析法の確立と運用に関する対応を適宜行っている。
- ・次年度以降の収去試験に関して、消費者庁と協議を行った。
- ・栄養表示基準における栄養成分の分析法について、より適切な分析手法の検討として、ナイアシン（ニコチン酸及びそのアミド）分析方法の改良を行い、両化合物を同時に定量できることが示唆された。
- ・各登録試験機関の代表者と協議を行い、管理試料を用いた精度管理を共同して実施するとともに、食品分析技術に関する情報を共有する事について同意を得た。
- ・外部精度管理のための試料として、一般栄養成分（熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム）の試験食品を作製した。
- ・微生物定量法の効率化を目的とした、凍結乾燥菌体（ATCC 9080）の作成を行い、公定法と同等の評価が可能である事を明らかにした。
- ・抗酸化物質大量摂取時の安全性評価として、ビタミンCの大量経口摂取が、運動時の有意な応答（抗酸化酵素の誘導等）を抑制するという先行研究結果を、ラットを用いて検証した。ビタミンCの投与量や運動の強度・期間を振って検討したが、抑制は認められずビ

タミンCの大量摂取時の安全性を危惧する結果は示されなかった。

- ・大豆イソフラボンの有効性・安全性評価並びに分析法の確立と精度管理に関する研究を実施した。

b. 食品栄養・表示研究室

- ・閉経後女性を対象とし、脂溶性ビタミンであるビタミンK2（MK-4）の機能性を評価するための1年間の介入試験を実施した。その結果、ビタミンK2の補給摂取が、閉経後女性の骨質の評価指標を改善する可能性が示唆された。
- ・初期のインスリン抵抗性の指標として注目されているビタミンA結合タンパク質（RBP4）の定量法を確立するために大腸菌を用いた大量調整を行ったところ、His-RBP4発現ベクターを用いることによりRBP4タンパク質を可溶化できることを明らかにした。
- ・βカロテン-ビタミンA転換酵素の遺伝子発現様式を定量的RT-PCRによって観察したところ、ビタミンAによる発現誘導は認められなかった。
- ・ビタミンDによる膜を介した情報伝達系にはビタミンD受容体は関与しない可能性を見出した。
- ・AMPキナーゼ依存的な新規転写因子（AREBP）を同定した。AREBPが糖新生系遺伝子発現を強く抑制することを個体レベルで証明した。
- ・特定保健用食品の許可表示に関して、消費者庁食品表示課への助言等を行った（申請書の事前チェック6日/年、ヒアリング6日/年、調査会6日/年）。
- ・FAO/WHOコーデックス委員会栄養・特殊用途食品部会に出席し、国際食品規格の策定プロセスに関する研究を実施した。
その他、超高齢社会に適用可能な機能性宇宙食の開発とその応用に関する研究を実施した。

c. 食品機能研究室

- ・健康食品と医薬品相互作用について、自然発症高血圧ラットにACE活性阻害作用による降圧剤と類似した作用機序のサーディンペプチドを単独あるいは併用摂取させ、血圧に及ぼす影響や肝機能および腎機能、その他の血液生化学指標に及ぼす影響を調べた。その結果、降圧剤と同様の作用機序を示す機能性食品素材の摂取は、降圧剤の血圧調節作用に影響を認めなかった。肝・腎機能指標値は、ほぼ正常の範囲内で推移し、顕著な病理組織学的な変化も認められなかった。
- ・疾病モデル動物における「健康食品」素材の健康影響評価について、ストレプトゾトシン誘導糖尿病ラットに中鎖脂肪酸（MCT）を含む食用油脂を与えたときの影響を検討した。

情報センター

1. センター／研究室の概要

(1) センターの概要

情報センターは、当研究所の情報発信の中核としての役割を担っており、健康と運動・栄養に関する研究所内の成果、ならびに研究所外から公開されている関連情報を収集・分析し、国民の健康づくりに役立つ情報としてホームページやニュースレターを通じて発信する。また、保健機能食品や特別用途食品に関する基礎的情報、いわゆる健康食品が関連した被害情報など、国の健康や食品・栄養に係わる制度等を効果的に普及させるための取り組みを行う。さらに、インターネット上の種々の仕組みの活用により、国民や専門職等からの意見・要望等の把握、研究所の諸規程や職員の公募等の必要な情報提供を行い、業務の効率化と情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。

(2) 研究室の概要

a. 健康食品情報研究室

健康食品に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止ならびに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、国民ならびに保健医療の専門職に効果的に情報提供する。その情報提供サイトとなる「健康食品」の安全性・有効性情報 (<https://hfnet.nih.go.jp/>) と、特別用途食品・栄養療法エビデンス情報 (<http://fosdu.nih.go.jp/>) は、厚生労働省や消費者庁等との連携により維持・管理し、また、現場の専門家や関係機関との連携が促進できるシステムに充実させる。さらに健康食品の危害防止に関する調査研究を行い、健康食品に関する外部からの電話やメールの問い合わせに適宜対応する。

b. 栄養情報技術研究室

研究所内の他のプログラムとの連携等により、所内の研究成果ならびに国内外の栄養・健康に関連した情報を収集・蓄積し、ホームページ等を通じて国民に継続発信するとともに、必要な情報の更新に努める。また、国民の要望や意見、健康・栄養分野の専門家が必要とする情報について、各種セミナー・シンポジウム等の機会や情報技術を用いて把握する。さらに、ホームページ等を介した業務の効率的な推進に努め、情報システムに係る情報のセキュリティを確保する。健康や栄養に関する外部からの電話やメールの問い合わせに適宜対応する。

(3) 構成メンバー

センター長：

梅垣敬三

研究室長：

千葉 剛 (健康食品情報研究室)

廣田晃一 (栄養情報技術研究室)

研究員：

佐藤陽子 (健康食品情報研究室/1月から)

客員研究員：

橋本洋子 (秋草学園短期大学)

梅國智子 (人間総合科学大学)

江指隆年 (神奈川工科大学)

技術補助員：

鈴木順子、中西朋子、横谷馨倫、狩野照誉、古池直子、細井俊克、佐藤陽子 (～12月)、鈴木佳織 (～12月)、鈴木理絵 (1月から2月)

研修生：

清水かおり (昭和女子大学)

飯島聡美 (東京家政大学)

梅原茉莉 (東京家政大学)

原麻由子 (東京家政大学)

2. 年度計画

a. 健康食品情報研究室

- ・食品成分等に関する公正で科学的根拠のある情報の提供、国が行っている食品制度の普及と正しい生活習慣の推進、いわゆる健康食品が関連した健康被害の発生防止・拡大防止を目的に、最新の健康食品が関連した情報を「健康食品」の安全性・有効性情報 (<https://hfnet.nih.go.jp/>) に継続的に反映させる。また厚生労働省・消費者庁との連携により、健康食品による被害状況を把握し、被害防止に役立てる。
- ・特別用途食品・栄養療法エビデンス情報 (<http://fosdu.nih.go.jp/>) のサイトについて内容を充実させると同時に、サイトに関するアンケート調査を行い、情報の掲載内容や掲載方法の修正を行い、現場の管理栄養士等が利用しやすいようサイトの改善を行う。
- ・外部からの電話やメールの問い合わせについて適宜対応する。

b. 栄養情報技術研究室

- ・外部からの電話やメールでの問い合わせに適切に対応するとともに、問い合わせの多い事項についてはホームページ上のFAQに反映させ、また効率的な対応ができる体制の整備をさらに進める。
- ・国民・栄養専門職等からの意見、要望等を広く効率的に把握するために、「健康・栄養フォーラム」に加えて、新たなインターネット上の取組みを行う。
- ・所内各プログラムにおける研究成果及び研究所内外の関連情報を集約・加工し、国民が適切な運動・食生活を実践できるような情報として提供する。また、これまで収集・蓄積してきた健康・栄養情報の内容を適宜見直して充実させる。
- ・ホームページ等を活用した諸規程、職員の公募等、必

要な情報開示を情報のセキュリティを確保しつつ実施する。

- ・情報セキュリティの確保に努める。

3. 進捗状況（成果）

a. 健康食品情報研究室

- ・『健康食品』の安全性・有効性情報』に関して、ニーズ把握及びデータベースへのデータ追加を行った。作成した情報の内訳は、新規情報が 221 件（基礎知識 2 件、被害関連情報 184 件、素材情報データベース 35 件）、更新・追記情報が 384 件（基礎知識 7 件、素材情報データベース 345 件、話題の食品成分 32 件）である。登録会員への更新情報メールの配信（毎月）、健康食品に関するメールや電話での問い合わせ、新聞などの取材に適宜対応した。サイトへのアクセス数は 8000 件/日以上が維持できていた。
- ・消費者とのリスクコミュニケーションを図るための方策として、NR 協会と協力し、効果的な情報提供法を検討した。昨年度までに行った妊婦のサプリメント利用に関する意識調査で疑問が多かった点をまとめ、健康食品の安全性・有効性情報へ掲載した。この情報は、大手新聞にも紹介された。また、昨年度までに行った『健康食品』の安全性・有効性情報』に関する実態調査結果を論文にまとめ、「臨床栄養」で報告した。
- ・「特別用途食品・栄養療法エビデンス情報 (<http://fosdu.nih.go.jp/>)」のデータベースへのデータ追加を行った。作成した情報の内訳は、新規情報が 11 件、更新・追加情報が 17 件である。また、サイト立ち上げから 2 年が経過し、リンク切れ等が多く見受けられたことから、その修正を随時行った。日本栄養士会等と連携しサイトの利用環境に関して適宜対応している。サイトへのアクセス数は 471 件/日であった。
- ・消費者庁との連携により、PIO-NET 情報のうち、健康食品が関与する情報について解析を行い、健康被害および経済被害の特徴を調べた。この解析情報は、今後の健康食品が関係した被害防止に資する成果となった。外部からの電話やメールの問い合わせ、講演の依頼に適宜対応した。
- ・ダイエットサプリメントに多用されている植物エキスの一つであるコレウス・フォルスコリの安全性をマウスおよびラットの実験系で検討し、コレウス・フォルスコリが肝臓の薬物代謝酵素を強く誘導すること、また、ワルファリンと相互作用を起こすことを明らかにした。

b. 栄養情報技術研究室

- ・平成 23 年 10 月 15 日（土曜日）にオープンハウス（研究所公開）を実施した。食生活診断、健康体力診断、骨密度測定、健康フィットネス体験、講演、所内見学、NR 協会の協力による健康食品相談を実施した。
- ・機関誌「健康・栄養ニュース」（年 4 回）発行に努めた。『健康・栄養ニュース』メールマガジン登録者数は約 1,900 であった。また、研究所内セミナー等の予定を調整した。
- ・当研究所に必要な健康・栄養関連の図書等の情報を調

査し適宜整理した。また、図書業務（契約雑誌の整理・オンラインの閲覧設定、文献取り寄せ（912 件、2/20 現在）、図書検索システム LIMEDIO の整備など）を遂行した。

- ・公式サイト維持管理に努めた。サイトの一日あたりの平均アクセス（ページビュー）数は、栄養研全体で平均 9,000 件/日、「健康・栄養フォーラム」のみで、平均 4,000 件/日であった。マンスリーレポートのデータ登録数は、853 件であった。栄養研 What's New のデータ更新数は、72 件であった。
- ・公式サイトへの問い合わせに適宜対応した。メールによる問い合わせは、242 件、また「健康・栄養フォーラム」での質問は 86 件であった。
- ・最新健康・栄養情報の収集・発信に努めた。最新健康・栄養ニュース（むく鳥通信）へのデータ登録数は、3498 件であり、最新健康食品文献リスト（EBIS）へのデータ登録数は 24,102 件であった。
- ・国民・栄養専門職等からの意見、要望等を広く効率的に把握するための一般向けサイト「健康・栄養フォーラム」に加えて、フェイスブックおよびツイッターにアカウントを設定して情報の収集に努めた。またこれらの機能の効果を高めるために、RSS 機能およびソーシャルボタンをページに適宜付加するなどして利便性を高めた。
- ・「日本人のための食事摂取基準 2010」サイトで策定者向け引用文献データベースを公開した。
- ・情報セキュリティ確保のために、セキュリティ用ハードウェアのアップデートを月 1 回行い監視体制の強化を継続するとともに、年 6 回のセキュリティ講習会（感染研と共同開催）、年 2 回のセキュリティ監査を実施した。また「セキュリティ対策実施手順書」の見直しを行った。

国際産学連携センター

1. センター／研究室の概要

(1) センターの概要

国際産学連携センターは、当研究所の対外部門として、アジア地域をはじめとする国際的な研究ネットワークの構築、海外との学術交流や若手外国人研究者の受け入れ、大学や企業等との連携による研究開発、国際シンポジウムやセミナーの開催など、当研究所が国内外の関係機関等と連携して行うさまざまなプログラムの調整役を担っている。また、WHO の GEMS/Food (地球環境モニタリングシステム／食品) プログラム協力機関として、国民健康・栄養調査の結果等、わが国の食事調査データを発信している。

(2) 研究室の概要

a. 国際栄養プロジェクト

国際栄養プロジェクトは国際的な学術交流(招へい事業、セミナー開催等)、情報提供及び国際機関との協力を行う。具体的には、海外からの研修生の受け入れ(「若手外国人研究者招へい事業」等)、国際シンポジウムの開催、アジア各国との共同研究、WHO など国際機関への協力・連携、海外向け情報発信等を通じて、国際的な研究ネットワーク構築を図ることを目指している。

b. 生物統計研究室

研究所内関連部署との協力を図りつつ産学連携を推進し、生物統計の手法を用いた研究成果等の社会還元に貢献する。具体的には、大学又は民間企業等との連携により、各研究部・センターの協力を得ながら、栄養素等の生活習慣病予防効果をシステムティックレビューまたはメタアナリシスによる評価を行う。また、産学連携による共同研究として、特定保健用食品等の有効性・安全性を評価する臨床試験等の企画立案・実施・統計的解析に参画し、研究成果等の社会還元に努める。

c. 研修・連携推進室

「対外部門」としての国際産学連携センターの中で、講演会・セミナー等を通じた人材育成、栄養情報担当者(NR)の学術的基盤づくり、行政部門との各種調整等を行っている。

栄養情報担当者(NR)事業の学術面(試験、研修等)への対応を行う。NR制度のあり方や研究所の関わりについて検討を行う。

管理栄養士等の専門家を対象としたセミナーの企画・運営、外部団体・機関と連携した各種人材育成プログラムの企画等を、中長期的な視点から行う。研究の成果を社会に還元するため、一般向けセミナーを開催する。社会的ニーズを把握するため関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社会的・行政ニーズを把握する。

d. WHO-CC 推進プロジェクトチーム

WHO-CC 研究協力センター(申請中)として、アジア・太平洋諸国における栄養、身体活動分野の調査研究の中心的役割をはたすことを目指している。

(3) 構成メンバー

センター長:

西 信雄

室長:

三好美紀(国際栄養研究室)

卓 興鋼(生物統計研究室)

上級研究員:

笠岡(坪山) 宣代(併任)

研究員:

野末みほ(併任)

坪田(宇津木) 恵(併任)

客員研究員

溝上哲也((独)国立国際医療研究センター研究所)

芝池伸彰(神奈川県赤十字血液センター)

協力研究員

南里明子((独)国立国際医療研究センター研究所)

武田和歌子(オーストラリア国立大学)

技術補助員:

當間奈月、角倉知子、マサハート由華

研修生:

先崎裕美(東洋大学生命科学部生命科学科)

2. 年度計画

a. 国際栄養研究室

「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」で2名(マレーシア、バングラデシュ)の研究者を受け入れる。また、同事業による過去の招へい研究者と受入研究者との共同研究の推進に努める。「第5回アジア栄養ネットワークシンポジウム」を開催し、アジアの栄養研究所とのネットワークづくりを進める。WHO等との連携・協力関係を強化し、国際協力、支援を推進する。GEMS/Food プログラム協力機関として、国民健康・栄養調査の結果等、わが国の食事調査データの発信に努める。研究所の研究成果、わが国の栄養・運動施策上の重要なガイドライン等について、英語版ホームページを通じて情報発信を行うとともに、データ提供等の支援を行い、海外からのニーズに的確かつタイムリーに対応する。

b. 生物統計研究室

健康の維持・増進、疾病の予防・治療を図るためには、生活習慣病やメタボリックシンドローム等に関連する各種健康・栄養指標の生物統計学的な総合評価が不可欠である。当研究室では、以下のような産学官連携による共同研究・事業の展開を見据えた基礎的・応用的研究を行

う。

- ・システマティックレビューまたはメタアナリシスによる各種健康・栄養指標の総合評価
- ・特定保健用食品（トクホ）等の人における有効性・安全性評価
- ・信頼性の高いエビデンスを確立するための臨床試験等の企画立案、実施、統計的解析

c. 研修・連携推進室

NR認定制度については、第三者機関に移管を行うための問題点について検討を行うとともに第三者機関との移管に向けた意見交換等を行う。また、第三者機関に移管を行うまでの間、有資格者及び資格取得を目指している者の不利益とならないよう、次の事業を実施する。

①NRのアドバイザースタッフとしての質を維持向上するための研修会、②外部有識者の協力を得つつ、適正かつ公正なNR認定試験、NR認定資格確認試験及び登録等関連業務

一般向けの公開セミナー(第13回)を、平成24年2月に東京で開催する。健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等他機関との連携、およびニーズ把握のための意見交換会を年6回程度開催する。

d. WHO-CC 推進プロジェクトチーム

WHO研究協力センター(申請中)としての体制を整え、アジア・太平洋諸国における栄養、身体活動分野での調査・研究ニーズの把握に努める。

3. 進捗状況(成果)

a. 国際栄養研究室

・海外の研究機関との交流・共同研究および国際機関の活動への対応

栄養と肥満に関する共同研究をアジア太平洋地域(ベトナム、パプアニューギニア)の保健省および研究機関等と各国の栄養問題を踏まえた共同研究を実施している。国際機関の活動への対応としては、WHO研究協力センター“Nutrition and Physical Activity”の設置に向けて、関連する国際会議に職員を派遣する等、WHOへの協力を積極的に行った。また、WHOのGEMS/Foodプログラム協力機関として、食品安全に関して食品摂取量把握の部分でデータを提出した。

・海外からの訪問・研修受入

本年度の「若手外国人研究者招へい事業」では、2名のうち1名の研究者をマレーシアより受け入れ、受入研究者との共同研究を進めた(バングラデシュからの研修生は自己都合により辞退)。来年度の招へい研究者1名が決定しており、現在、受入および来日に係る準備手続きを進めている。来年度のフォローアップ事業については、採択された共同研究課題1件の実施に向けて準備を進めている。

また、他機関からの依頼による研修を要請に応じて受け入れている。本年度はJICAより1件(JICA国別研修(エチオピア)カウンターパート本邦研修、平成24年1月23日～2月15日)を研修受託機関として受け入れ、全体調整および講義を実施した。海外からの視察訪

問も随時、要請に応じて受け入れており、本年度は米国、オーストラリア、台湾、韓国等からの研究者の訪問を受け入れ、意見交換を開催した。

・国際シンポジウム・セミナー

研究所が主催する代表的なシンポジウムである「アジア栄養ネットワークシンポジウム」を平成15年度から隔年で開催している。平成22年9月8日に開催した「第4回アジア栄養ネットワークシンポジウム」の講演集をAsia Pacific Journal of Clinical Nutritionの増刊号として発行し、アジアにおける学校給食制度と関連プログラムについて連携を図るとともに海外に向けて情報を発信した。また、「第5回アジア栄養ネットワークシンポジウム(平成24年3月9日)」を開催し、「アジア太平洋地域における母子栄養とフードセキュリティ改善に向けた取り組みについて」をテーマとして、アジア太平洋地域各国の現状および今後の方向性について議論を深めることができた。

米国と韓国からそれぞれ専門家を招いた外来セミナー「米国におけるカルシウムとビタミンDの食事摂取基準策定(平成23年10月25日)」、「韓国における国民健康・栄養調査の概要について(平成23年12月1日)」を開催した。また、特別セミナー“Salt Reduction Strategy in Japan: Implication from Australian Experience(平成24年2月7日)”では、各国の減塩対策についてオーストラリアと日本の専門家間で活発な意見交換を行うことができた。

・広報・情報発信

英語版ホームページを通して、研究所の研究成果、栄養行政の情報を発信している。研究所のニュースレター「健康・栄養ニュース」(年4回発行)の英語版「Health and Nutrition News」を作成し、英語版ホームページに掲載している。英語版ホームページに問い合わせ用メールアドレスを掲載し、海外からの問い合わせに対応している。

b. 生物統計研究室

・大学又は民間企業等との連携により、大豆イソフラボンの骨粗鬆症及び閉経期女性のHot Flashへの予防効果等について、システマティックレビューまたはメタアナリシスによる評価を行った。また、大豆及びその成分、葉酸及びビタミンB、抗酸化サプリメント等の生活習慣病予防効果をシステマティックレビューまたはメタアナリシスによる評価を行い、研究成果の社会への還元を目指す。

・大学等との連携により、日本の特定保健用食品と中国の「保健食品」との審査制度等における比較検討を行い、解説した。

・大学附属病院や企業等との産学連携による共同研究として、大豆たん白質や茶カテキンを関与成分とする特定保健用食品等による生活習慣病等の予防効果を検証する臨床試験等の企画立案・実施・統計的解析に参画し、研究成果等の社会還元を努める。

c. 研修・連携推進室

・NRの養成・認定

公平・公正な制度運用を期すために、外部有識者を加えたNR認定委員会を開催し、厳格な試験を実施した。

平成 23 年度に実施した「第 8 回栄養情報担当者 (NR) 認定試験」(平成 23 年 6 月 12 日実施)では、583 名が合格(受験者数 941 名、合格率 62.0%)し、累計で 4,909 名にNRの資格を附与するとともに、6 年制薬学部在学生の薬学共用試験合格の資格で受験し合格した者(大学卒業の届出により資格を附与する者)として別に 362 名を登録した。また「第 9 回資格確認試験」(平成 23 年 11 月 13 日実施)では、受験者数 163 名、合格者 68 名(合格率 41.7%)であった。

養成講座については、平成 22 年度に引き続き、全国における養成講座数は計 43 講座である。

・NR試験問題作成

資格確認試験(第 9 回;平成 23 年 11 月)、NR認定試験(第 8 回;平成 23 年 6 月、第 9 回;平成 24 年 6 月)の問題作成に関わる進行管理を行った。

・NR研修会の開催

NRのスキルアップの一環として、当研究所が主催するフォローアップ研修会を、全国 6 カ所(仙台、大阪、名古屋、岡山、福岡、東京)で計 6 回開催した。

また、22 年度に引き続き他団体との相互単位認定を行った。

・NR認定制度についての検討など

NR認定制度については、厚生労働省等の判断により第三者機関に移管することとなり、検討したところ、一般社団法人日本臨床栄養協会のサプリメントアドバイザー制度とNR制度を統合する方法で上記協会へNR制度を移管することとし、平成 27 年 7 月までにNR事業を廃止することとした。

・社会ニーズ、意見交換会

健康・栄養に関する機関(一般社団法人日本臨床栄養協会、(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所、(独)国民生活センター、(社)日本栄養士会、国立保健医療科学院、財団法人健康・体力づくり事業財団)との「意見交換会」を年 6 回実施した。また、内閣府食育推進室、消費者庁食品表示課、厚生労働省医薬食品局食品安全部及び健康局総務課生活習慣病対策室との間で、幹部レベルでの意見交換会および実務者レベルでの情報及び意見交換会を行い、行政ニーズに適宜対応した業務体制を整えた。

・セミナー

第 13 回一般向け公開セミナー(テーマ:健やかな老後を迎えるための食生活と身体活動)を平成 24 年 2 月 25 日(土)に開催した。

また、栄養士・管理栄養士の研修や生涯教育のプログラムに対し、職員を積極的に派遣するとともに、それらのプログラムの企画等への支援を行った。

d. WHO-CC 推進プロジェクトチーム

WHO 研究協力センター“Nutrition and Physical Activity”設置に向けて、平成 23 年 4 月からの第 3 期中期計画にともなう組織の変更もふまえて申請書を再提

出し、WHO 栄養担当官による申請書レビューおよび WPRO 内での審査の結果の回答を待っている段階である。

III 研究成果等の公表

1. 業績目録

【著書】

a. 英文

- 1) Nakade M, Aiba N, Morita A, Watanabe S: Determinants of successful body weight reduction. Camilo Gouveia and Diego Melo. Weight Change: Patterns, Risks and Psychosocial Effects. , 2012 , Nova Science Publishers
- 2) Usui C, Taguchi M, Ishikawa-Takata K, Higuchi M: The validity of body composition measurement using dual energy X-ray absorptiometry for estimating resting metabolic rate. , Dual energy X-ray absorptiometry , 2012 , InTech

b. 和文

- 1) 森田明美, 笠岡(坪山)宜代, 田中清, 上西一弘: ポケット食事摂取基準 現場ですぐに役立つ「日本人の食事摂取基準(2010年版)」。(独)国立健康・栄養研究所監修. 2011; , 建帛社
- 2) 笠岡(坪山)宜代: Nブックス 三訂 応用栄養学(日本人の食事摂取基準). ー管理栄養士国家試験改定ガイドライン対応ー. 2011; , 建帛社
- 3) 猿倉薫子: 栄養科学シリーズNEXT 公衆栄養学実習. 金田雅代, 郡俊之, 酒井徹, 山本茂編. 2011; , 講談社
- 4) 西 信雄: 疫学(訳). 科学・技術・倫理百科事典翻訳編集委員会(監訳)・科学・技術・倫理百科事典. 2012; 181-185 , 丸善出版
- 5) 西 信雄: 疫学の方法、スクリーニング、根拠(エビデンス)に基づいた保健対策(EBM). 木村美恵子・徳留信寛・圓藤吟史編. 公衆衛生学(第3版). 2012; 84-91, 化学同人
- 6) 丸藤祐子, 宮地元彦: 6 運動療法、2) 運動療法の実際と指導方法. 門脇孝、真田弘美編、すべてがわかる最新糖尿病 - 治療 ケア 教育. 2011; 125-128, 照林社(東京)
- 7) 宮地元彦: 第3部 まず身体を動かすことから始めます. DVD糖尿病専門医がアドバイザー 血糖を良くする、メタボを良くするヒントとコツ. 2011; , NPO法人川崎糖尿病スクエア
- 8) 田中茂穂: 個人の推定エネルギー必要量の算出方法. 由田克士・石田裕美編 PDCAサイクルと食事摂取基準による栄養管理・給食管理. 2011; 12-16, 建帛社(東京)
- 9) 宮地元彦: コツコツ動こう! 100kcalポケットブック 運動編. 2012; 1-33, 東京法規出版(東京)
- 10) 田中茂穂: 推定エネルギー必要量. 特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修 鈴木公/木戸

康博編 管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 第2巻 食事摂取基準理論と活用(医歯薬出版). 2012; , 東京

- 11) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇 孝: 血管内皮細胞におけるインスリンシグナルの役割. Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌2012. 2012; 19-23
- 12) 江崎 治, 三浦進司: 運動療法の理論. すべてがわかる最新糖尿病 - 治療 ケア 教育 -. 2011; 120-124, 照林社
- 13) 江崎 治: 糖・脂質代謝における骨格筋の役割. 春日雅人編 糖尿病学イラストレイテッド - 発症機序・病態と治療薬の作用機序. 2012; 130-140, 羊土社
- 14) 石見佳子: 総論、大豆イソフラボン他. 上原万里子・石見佳子編 機能性食品の骨・軟骨への応用. 2011; , シーエムシー出版
- 15) 石見佳子: 栄養成分表示. 監修: 横越英彦, 抗ストレス食品の開発と展望II. 2012; , シーエムシー出版
- 16) 梅垣敬三: 特別寄稿 健康食品・サプリメントとのつきあい方. 心臓手術後の生活を考える会編 心臓病との闘い② 再発にそなえて. 2011; 116-132 , 市民かわら版社
- 17) 三好美紀, 吉池信男: 2章 生活習慣の改善 5. 栄養・食生活. 小川哲平・猿田享男・田村政紀編 健診・人間ドッグハンドブック改訂4版. 2011; 71-79, 中外医学社

【原著論文】

a. 英文

- 1) Ando R, Suzuki S, Nagaya T, Yamada T, Okuda A, Yasui T, Tozawa K, Tokudome S, Kohri K: Impact of insulin resistance, insulin and adiponectin on kidney stones in the Japanese population. Int. J. Urol. 2011; 18(2): 131-138
- 2) Wakai K, Hamajima N, Okada R, Naito M, Morita E, Hishida A, Kawai S, Nishio K, Yin G, Asai Y, Matsuo K, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Kawase T, Suzuki T, Tajima K, Tanaka K, Higaki Y, Hara M, Imaizumi T, Taguchi N, Nakamura K, Nanri H, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Kita Y, Turin TC, Rumana N, Matsui K, Miura K, Ueshima H, Takashima N, Nakamura Y, Suzuki S, Ando R, Hosono A, Imaeda N, Shibata K, Goto C, Hattori N, Fukatsu M, Yamada T, Tokudome S, Takezaki T, Niimura H, Hirasada K, Nakamura A, Tatebo M, Ogawa S, Tsunematsu N, Chiba S, Mikami H, Kono S, Ohnaka K, Takayanagi R, Watanabe Y, Ozaki E, Shigeta M, Kuriyama N,

- Yoshikawa A, Matsui D, Watanabe I, Inoue K, Ozasa K, Mitani S, Arisawa K, Uemura H, Hiyoshi M, Takami H, Yamaguchi M, Nakamoto M, Takeda H, Kubo M, Tanaka H: Profile of participants and genotype distributions of 108 polymorphisms in a cross-sectional study of associations of genotypes with lifestyle and clinical factors: a project in the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J. Epidemiol.* 2011; 21: 223-35
- 3) Wang J, Jiang J, Zhao Y, Gajalakshmi V, Kuriki K, Suzuki S, Nagaya T, Nakamura S, Akasaka S, Ishikawa H, Tokudome S: Genetic polymorphisms of glutathione S-transferase genes and susceptibility to colorectal cancer: a case-control study in an Indian population. *Cancer Epidemiol.* 2011; 35: 66-72
- 4) Ueda Y, Wang MF, Irei AV, Sarukura N, Sakai T, Hsu TF: Effect of dietary lipids on longevity and memory in the SAMP8 mice. *J Nutr Sci Vitaminol.* 2011; 57(1): 36-41
- 5) Yamada C, Fujimoto S, Ikeda K, Nomura Y, Matsubara A, Kanno M, Shide K, Tanaka K, Imai E, Fukuwatari T, Shibata K, Inagaki N: Relationship of homocysteine and homocysteine-related vitamins to bone mineral density in Japanese patients with type 2 diabetes. *Journal of Diabetes Investigation.* 2011; 2(3): 233-239
- 6) Takimoto H, Sugiyama T, Nozue M, Kusama K, Fukuoka H, Kato N, Yoshiike N: Maternal antenatal body mass index gains as predictors of large-for-gestational-age infants and cesarean deliveries in Japanese singleton pregnancies. *J Obstet Gynaecol Res.* 2011; 37(6): 553-562
- 7) Tanaka T, Morita A, Kato M, Hirai T, Mizoue T, Terauchi Y, Watanabe S, Noda M (SCOP Study Group): Congener-specific polychlorinated biphenyls and the prevalence of diabetes in the Saku Control Obesity Program (SCOP). *Endocr J.* 2011; 58(7): 589-596
- 8) Sarukura N, Kogirima M, Takai S, Kitamura Y, Kalubi B, Yamamoto S, Takeda N: Dietary zinc intake and its effects on zinc nutrition in healthy Japanese living in the central area of Japan. *J Med Invest.* 2011; 58(3-4): 203-209
- 9) Sarukura N, Takai S, Ikemoto S, Korin T, Ueda Y, Kitamura Y, Kalubi B, Yamamoto S, Takeda N: Effects of dietary zinc deprivation on zinc concentration and ratio of apo/cholesterol-activities of angiotensin converting enzyme in serum of mice. *Auris Nasus Larynx.* 2011;
- 10) Shirai T, Inoue E, Ishimi Y, Yamauchi J: AICAR response element binding protein (AREBP), a key modulator of hepatic glucose production regulated by AMPK in vivo. *Biochemical and Biophysical Research Communications.* 2011;
- 11) Miyake R, Ohkawara K, Ishikawa-Takata K, Morita A, Watanabe S, Tanaka S: Obese Japanese adults with Type 2 diabetes have higher basal metabolic rates than non-diabetic adults. *J Nutr Sci Vitaminol.* 2011; 57(5): 348-354
- 12) Satoh M, Kikuya M, Ohkubo T, Mori T, Metoki H, Hashimoto T, Hara A, T. Utsugi M, Hirose T, Obara T, Inoue R, Asayama K, Kanno A, Totsune K, Hoshi H, Satoh H, Imai Y: Aldosterone-to-renin ratio and nocturnal blood pressure decline in a general population: the Ohasama Study. *J Hypertension.* 2011; 29(10): 1940-1947
- 13) T. Utsugi M, R Ito-Sato, Ohkubo T, Kikuya M, Asayama K, Metoki H, Kurimoto A, Suzuki K, Totsune K, Imai Y: Health behaviors as predictors for declines in higher-level functional capacity in older adults: the ohasama study. *J Am Geriatr Soc.* 2011; 59(11): 1993-2000
- 14) Park J, Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Hikihara Y, Ohkawara K, Watanabe S, Miyachi M, Morita A, Aiba N, Tabata I: Relation of body composition to daily physical activity in free-living Japanese adult women. *Br J Nutr.* 2011; 106(7): 1117-1127
- 15) Imai E, Tsuji T, Sano M, Fukuwatari T, Shibata K: Association between 24 h urinary α -tocopherol catabolite, 2, 5, 7, 8-tetramethyl-2(2'-carboxyethyl)-6-hydroxychroman (α -CEHC) and α -tocopherol intake in intervention and cross-sectional studies. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition.* 2011; 20(4): 507-513
- 16) Shibata K, Imai E, Sano M, Fukuwatari T: The urinary excretory ratio of nicotinamide catabolites was associated with the conversion ratio of tryptophan to nicotinamide in growing rats fed a niacin-free 20% casein diet. *Biosci Biotechnol Biochem.* 2012; 76(1): 186-188
- 17) Nakade M, Aiba N, Suda N, Morita A, Miyachi M, Sasaki S, Watanabe S: Behavioral change during weight loss program and one-year follow-up: Saku Control Obesity Program (SCOP) in Japan. *Asia Pacific J Clin Nutr.* 2012; 21(1): 22-34

- 18) Nakade M, Aiba N, Morita A, Miyachi M, Sasaki S, Watanabe S: What behaviors are important for successful weight maintenance?. *Journal of Obesity*. 2012;
- 19) Miyoshi M, Tsuboyama-Kasaoka N, Nishi N: School-based "Shokuiku" program in Japan: application to nutrition education in Asian countries. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition*. 2012; 21(1): 159-162
- 20) Taguchi M, Ishikawa-Takata K, Tatsuta W, Katsuragi C, Usui C, Sakamoto S, Higuchi M: Resting energy expenditure can be assessed by fat-free mass in female athletes regardless of body size. *J Nutr Sci Vitaminol*. 2010; 57(1): 22-29
- 21) Osaka T: Hypoxia-induced hypothermia mediated by noradrenaline and nitric oxide in the rostromedial preoptic area. *Neuroscience*. 2011; 179: 170-178
- 22) Suzuki Y, Inoue S, Shimizu H, Ishizuka N, Kasahara Y, Takahashi T, Arai K, Kobayashi Y, Kishi M, Imazeki N, Senoo A, Osaka T: Cell proliferation in visceral organs induced by ventromedial hypothalamic (VMH) lesions: Development of electrical VMH lesions in mice and resulting pathophysiological profiles. *Endocrine Journal*. 2011; 58: 247-256
- 23) Ohkawara K, Oshima Y, Hikiyama Y, Ishikawa-Takata K, Tabata I, Tanaka S: Real-time estimation of daily physical activity intensity by triaxial accelerometer and a gravity-removal classification algorithm. *Br J Nutr*. 2011; 105(11): 1681-1691
- 24) Park JH, Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Mekata Y, Tabata I: Effects of walking speed and step frequency on estimation of physical activity using accelerometers. *J Physiol Anthropol*. 2011; 30(3): 119-127
- 25) Miyake R, Tanaka S, Ohkawara K, Ishikawa-Takata K, Hikiyama Y, Taguri E, Kayashita J, Tabata I: Validity of predictive equations for basal metabolic rate in Japanese adults. *J Nutr Sci Vitaminol*. 2011; 57(3): 224-232
- 26) Nakaji S, Hasebe T, Sato J, Kumasaka Y, Saito Y, Osato R, Iwabuchi K, Kumae T, Saito K, Yamada M, Miura M, Nomura T: Overview of cancer and cancer prevention in Japan and worldwide. *J Phys Fit Nutr Immunol*. 2011; 21(2): 54-60
- 27) Takahashi I, Matsuzaka M, Hasebe T, Oonishi M, Totsuka M, Sasaki E, Yamamoto H, Kumae T, Suzukawa K, Kogawa T, Ichinohe T, Wada N: Epidemiological feature of pancreatic cancer in Japan. *J Phys Fit Nutr Immunol*. 2011; 21(2): 94-98
- 28) Okuda M, Yoshitake N, Tanaka S, Kunitsugu I, Tan N, Uechi H, Sasaki S, Hobara T: Validity and reliability of physical activity questionnaire in Japanese students. *Pediatr Int*. 2011; 53(6): 956-963
- 29) Tudor-Locke C, Craig CL, Beets MW, Belton S, Cardon GM, Duncan S, Hatano Y, Lubans DR, Olds TS, Raustorp A, Rowe DA, Spence JC, Tanaka S, Blair SN: How Many Steps/day are Enough? For Children and Adolescents. *Int J Behav Nutr Phys Act*. 2011; 8(1): 78
- 30) Kawahara J, Tanaka S, Tanaka C, Aoki Y, Yonemoto J: Estimation of daily inhalation rate in preschool children using a tri-axial accelerometer: A pilot study. *Sci Total Environ*. 2011; 409(16): 3073-3077
- 31) Zempo H, Tanabe K, Murakami H, Iemitsu M, Maeda S, Kuno S: Age differences in the relation between ACTN3 R577X polymorphism and thigh-muscle cross-sectional area in women. *Genet Test Mol Biomarkers*. 2011; 15(9): 639-643
- 32) Inoue S, Ohya Y, Tudor-Locke C, Tanaka S, Yoshiike N, Shimomitsu T: Time trends for step-determined physical activity among Japanese adults. *Med Sci Sports Sci*. 2011; 43(10): 1913-1919
- 33) Murakami H, Iemitsu M, Sanada K, Gando Y, Ohmori Y, Kawakami R, Sasaki S, Tabata I, Miyachi M: Associations among objectively measured physical activity, fasting plasma homocysteine concentration, and MTHFR C677T genotype. *Eur J Appl Physiol*. 2011; 111(12): 2997-3005
- 34) Lee EY, Inoue S, Senoo A, Shimizu H, Suzuki Y, Ishizuka N, Imazeki N, Sasaki K, Kako M, Osaka T, Miki T: Beneficial effects of ventromedial hypothalamus (VMH) lesioning on function and morphology of the liver after hepatectomy in rats. *Brain Research*. 2011; 1421: 82-89
- 35) Ohkawara K, Oshima Y, Hikiyama Y, Ishikawa-Takata K, Tabata I, Tanaka S: Real-time estimation of daily physical activity intensity by a triaxial accelerometer and a gravity-removal classification algorithm. *Br J Nutr*. 2011; 105(11): 1681-1691
- 36) Ohkawara K, Ishikawa-Takata K, Park J, Tabata I, Tanaka S: How much locomotive activity is needed for an active physical activity level: analysis of total step counts. *BMC Research Notes*. 2011; 4: 512
- 37) Fuku N, Mori S, Murakami H, Gando Y, Zhou H, Ito H, Tanaka M, Miyachi M: Association of 29C>T polymorphism in the transforming growth factor- β 1 gene with lean body mass

- in community-dwelling Japanese population. *Geriatrics & Gerontology International*. 2011;
- 38) Kawano H, Iemitsu M, Gando Y, Ishijima T, Asaka M, Aoyama T, Ando T, Tokizawa K, Miyachi M, Sakamoto S, Higuchi M: Habitual rowing exercise is associated with high physical fitness without affecting arterial stiffness in older men. *J Sports Sci*. 2011;
- 39) Mitsuhashi T, Yamada C, Iida A, Hiratsuka N, Inabe F, Araida N, Moriyama K, Sasamori H, Sasamori N, Miyachi M, Takahashi E: Long-term Detraining Increases the Risk of Metabolic Syndrome in Japanese Men. *Tokai J Exp Clin Med*. 2011; 36(4): 95-99
- 40) Miyatake N, Miyachi M, Tabata I, Numata T: Evaluation of anthropometric parameters and physical fitness in elderly Japanese. *Environ Health Prev Med*. 2012; 17: 62-68
- 41) Miyachi M: Effects of Resistance Training on Arterial Stiffness: a Meta-Analysis. *Br J Sports Med*. 2012
- 42) Kumagai K, Kubota N, Saito TI, Sasako T, Takizawa R, Sudo K, Kurokawa M, Kadowaki T: Generation of transgenic mice on an NOD/SCID background using the conventional microinjection technique. *Biol Reprod*. 2011; 84(4):682-688
- 43) Grarup N, Overvad M, Sparsø T, Witte DR, Pisinger C, Jørgensen T, Yamauchi T, Hara K, Maeda S, Kadowaki T, Hansen T, Pedersen O: The diabetogenic VPS13C/C2CD4A/C2CD4B rs7172432 variant impairs glucose-stimulated insulin response in 5,722 non-diabetic Danish individuals. *Diabetologia*. 2011; 54(4):789-794
- 44) Kobayashi N, Ueki K, Okazaki Y, Iwane A, Kubota N, Ohsugi M, Awazawa M, Kobayashi M, Sasako T, Kaneko K, Suzuki M, Nishikawa Y, Hara K, Yoshimura K, Koshima I, Goyama S, Murakami K, Sasaki J, Nagai R, Kurokawa M: Blockade of class IB phosphoinositide-3 kinase ameliorates obesity-induced inflammation and insulin resistance. *Proc Natl Acad Sci USA*. 2011; 108(14):5753-5758
- 45) Awazawa M, Ueki K, Inabe K, Yamauchi T, Kubota N, Kaneko K, Kobayashi M, Iwane A, Sasako T, Okazaki Y, Ohsugi M, Takamoto I, Yamashita S, Asahara H, Akira S, Kasuga M, Kadowaki T: Adiponectin Enhances Insulin Sensitivity by Increasing Hepatic IRS-2 Expression via a Macrophage-Derived IL-6-Dependent Pathway. *Cell Metabolism*. 2011; 13(4):401-412
- 46) Muraoka T, Aoki K, Iwasaki T, Shinoda K, Nakamura A, Aburatani H, Mori S, Tokuyama K, Kubota N, Kadowaki T, Terauchi Y: Ezetimibe decreases SREBP-1c expression in liver and reverses hepatic insulin resistance in mice fed a high-fat diet. *Metabolism*. 2011; 60(5):617-628
- 47) Endo Y, Suzuki M, Yamada H, Horita S, Kunimi M, Yamazaki O, Shirai A, Nakamura M, Iso-O N, Li Y, Hara M, Tsukamoto K, Moriyama N, Kudo A, Kawakami H, Yamauchi T, Kubota N, Kadowaki T, Kume H, Enomoto Y: Thiazolidinediones enhance sodium-coupled bicarbonate absorption from renal proximal tubules via PPAR γ -dependent nongenomic signaling. *Cell Metab*. 2011;13(5): 550-561
- 48) Mutoh M, Teraoka N, Takasu S, Takahashi M, Onuma K, Yamamoto M, Kubota N, Iseki T, Kadowaki T, Sugimura T, Wakabayashi K: Loss of adiponectin promotes intestinal carcinogenesis in Min and wild-type mice. *Gastroenterology*. 2011; 140(7):2000-2008
- 49) Kurokawa J, Nagano H, Ohara O, Kubota N, Kadowaki T, Arai S, Miyazaki T: Apoptosis inhibitor of macrophage (AIM) is required for obesity-associated recruitment of inflammatory macrophages into adipose tissue. *Proc Natl Acad Sci USA*. 2011; 108(29):12072-12077
- 50) Kataoka K, Sato T, Yoshimi A, Goyama S, Tsuruta T, Kobayashi H, Shimabe M, Arai S, Nakagawa M, Imai Y, Kumano K, Kumagai K, Kubota N, Kadowaki T, Kurokawa M: Evf1 is essential for hematopoietic stem cell self-renewal, and its expression marks hematopoietic cells with long-term multilineage repopulating activity. *J Exp Med*. 2011; 208(12):2403-2416
- 51) Ogawa N, Imai Y, Takahashi Y, Nawata K, Hara K, Nishimura H, Kato M, Takeda N, Kohro T, Morita H, Taketani T, Morota T, Yamazaki T, Goto J, Tsuji S, Takamoto S, Nagai R, Hirata Y: Evaluating Japanese patients with the Marfan syndrome using high-throughput microarray-based mutational analysis of fibrillin-1 gene. *Am J Cardio*. 2011; 108(12):1801-1807
- 52) Mita T, Azuma K, Goto H, Jin WL, Arakawa M, Nomiyama T, Suzuki R, Kubota N, Tobe K, Kadowaki T, Fujitani Y, Hirose T, Kawamori R, Watada H: IRS-2 deficiency in macrophages promotes their accumulation in the vascular wall. *Biochem Biophys Res Commun*. 2011; 415(4):545-550
- 53) Cho YS, Chen CH, Hu C, Long J, Hee Ong RT, Sim X, Takeuchi F, Wu Y, Go MJ, Yamauchi T, Chang YC, Kwak SH, Ma RC, Yamamoto K, Adair LS, Aung T, Cai Q, Chang LC, Chen YT, Hara

- K: Meta-analysis of genome-wide association studies identifies eight new loci for type 2 diabetes in east Asians. *Nat Genet.* 2011; 44(1):67-72
- 54) Kadowaki T, Ueki K, Yamauchi T, Kubota N: SnapShot: Insulin Signaling Pathways. *Cell.* 2012; 148(3): 624-624
- 55) Sato K, Nakamura A, Shirakawa J, Muraoka T, Ogashi Y, Shinoda K, Orime K, Kubota N, Kadowaki T, Terauchi Y: Impact of the Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Vildagliptin on Glucose Tolerance and β -Cell Function and Mass in Insulin Receptor Substrate-2-Knockout Mice Fed a High-Fat Diet. *Endocrinology.* 2012;
- 56) Kadowaki T, Kubota N, Ueki K, Yamauchi T: Physiology of Insulin Signaling. *Cell.* 2012; 148: 834-834
- 57) Yanagihara H, Kobayashi J, Tateishi S, Kato A, Matsuura S, Tsuchi H, Yamada Kouichi, Takezawa Jun, Sugawara K, Masutani C, Hanaoka F, Weemaes CM, Mori T, Zou L, Komatsu K: NBS1 recruits RAD18 via a RAD6-like domain and regulates Pol η -dependent translesion DNA synthesis. *Mol. Cell.* 2011; 43(5):788-797
- 58) Takezawa J, Aiba N, Kajiwarra K, Yamada K: Caffeine Abolishes the Ultraviolet-Induced REV3 translesion Replication Pathway in Mouse Cells. *Int. J. Mol. Sci.* 2011; 12:8513-8529
- 59) Taku K, Melby MK, Nishi N, Omori T, Kurzer MS: Soy isoflavones for osteoporosis: An evidence-based approach. *Maturitas.* 2011; 70(4): 333-338
- 60) Sugita S, Kamei Y, Akaike F, Suganami T, Kanai S, Hattori M, Manabe Y, Fujii N, Takai-Igarashi T, Tadaishi M, Oka J, Aburatani H, Yamada T, Katagiri H, Kakehi S, Tamura Y, Kubo H, Nishida K, Miura S, Ezaki O, Ogawa Y: Increased Systemic Glucose Tolerance with Increased Muscle Glucose Uptake in Transgenic Mice Overexpressing RXR γ in Skeletal Muscle. *PLoS One.* 2011; 6(5): e20467
- 61) Chiba T, Ikeda M, Umegaki K, Tomita T: Estrogen-dependent activation of neutral cholesterol ester hydrolase underlying gender difference of atherogenesis in apoE(-/-) mice. *Atherosclerosis.* 2011; 219(2): 545-551
- 62) Kano Y, Poole DC, Sudo M, Hirachi T, Miura S, Ezaki O: Control of microvascular P02 kinetics following onset of muscle contractions: Role for AMPK. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol.* 2011; 301(5) : R1350-R1357
- 63) Ezaki O: The optimal dietary fat to carbohydrate ratio to prevent obesity in Japanese population: a review of the epidemiological, physiological and molecular evidence. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo).* 2011; 57(6):383-393
- 64) Tadaishi M, Miura S, Kai Y, Kano Y, Oishi Y, Ezaki O: Skeletal Muscle-Specific Expression of PGC-1 α -b, an Exercise-Responsive Isoform, Increases Exercise Capacity and Peak Oxygen Uptake. *PLoS One.* 2011; 6(12): e28290
- 65) Sugita S, Kamei Y, Akaike F, Suganami T, Kanai S, Hattori M, Manabe Y, Fujii N, Takai-Igarashi T, Tadaishi M, Aburatani H, Yamada T, Katagiri H, Kakehi S, Tamura Y, Kubo H, Nishida K, Miura S, Ezaki O, Ogawa Y: Transgenic mice overexpressing RXR γ in skeletal muscle showed increased systemic glucose tolerance with increased muscle glucose uptake. *PLoS ONE.* 2011; 6(5): e20467
- 66) Chiba T, Ito T, Tabuchi M, Ooshima K, Satou T, Ezaki O: Delay of stroke onset by milk proteins in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. *Stroke.* 2012; 43(2): 470-477
- 67) Yamazaki T, Kishimoto K, Miura S, Ezaki O: Dietary β -conglycinin prevents fatty liver induced by a high-fat diet by a decrease in peroxisome proliferator-activated receptor γ 2 protein. *J Nutr Biochem.* 2012; 23(2):123-132
- 68) Virgona N, Yokotani K, Yamazaki Y, Shimura F, Chiba T, Taki Y, Yamada S, Shinozuka K, Murata M, Umegaki K: *Coleus forskohlii* extract induces hepatic cytochrome P450 enzymes in mice. *Food Chem Toxicol.* 2012; 50:750-755
- 69) Han CY, Umemoto T, Omer M, Den Hartigh LJ, Chiba T, LeBoeuf R, Buller CL, Sweet IR, Pennathur S, Abel ED, Chait A: NADPH oxidase-derived reactive oxygen species increases expression of monocyte chemotactic factor genes in cultured adipocytes. *J Biol Chem.* 2012; 287(13):10379-10393
- 70) Tousen Y, Ezaki J, Fujii Y, Ueno T, Nishimuta M, Ishimi Y: Natural S-equol decreases bone resorption in postmenopausal, non-equol-producing Japanese women: a pilot randomized, placebo-controlled trial. *Menopause.* 2011; 18(5):563-574
- 71) Uchida R, Chiba H, Ishimi Y, Uehara M, Suzuki K, Kim H, Matsumoto A: Combined

- effects of soy isoflavone and fish oil on ovariectomy-induced bone loss in mice. *J Bone Miner. Metab.* 2011; 29(4):404-413
- 72) Tousen Y, Abe F, Ishida T, Uehara M, Ishimi Y: Resistant starch promotes equal production and inhibits tibial bone loss in ovariectomized mice treated with daidzein. *Metabolism.* 2011; 60(10):1425-1432
- 73) Tsuda H, Matsumoto T, Ishimi Y: Biotin, niacin, and pantothenic acid assay using lyophilized *Lactobacillus plantarum* ATCC 8014. *J Nutr Sci Vitaminol.* 2011; 57:437-440
- 74) Tsuda H, Kubota K, Matsumoto T, Ishimi Y: Isolation and identification of lactic acid bacteria in traditional fermented sushi, funazushi, from Japan. *Food Science and Technology Research.* 2012; 18(1):77-82
- 75) Watanabe J, Oki T, Takebayashi J, Yamasaki K, Takano-Ishikawa Y, Hino A, Yasui A: Method validation by interlaboratory studies of improved hydrophilic oxygen radical absorbance capacity methods for determination of antioxidant capacities of antioxidant solutions and food extracts. *Analytical Sciences.* 2012; 28:159-165
- 76) Taki Y, Hagiwara E, Hirose C, Shinozuka K, Umegaki K, Yamada S: Effects of Ginkgo biloba extract on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of tolbutamide in protein-restricted rats. *J Pharm Pharmacol.* 2011; 63(9): 1238-43
- 77) Sato Y, Ikeda M, Ito T, Tomita T, Yokotani K, Murata M, Umegaki K: Ascorbic Acid levels and neutrophil superoxide production in blood of pre-, early and late hypertensive stroke-prone spontaneously hypertensive rats. *Clin Exp Hypertens.* 2011; 33(6): 397-403
- 78) Wakuda H, Nejime N, Tada Y, Kagota S, Fahmi OA, Umegaki K, Yamada S, Shinozuka K: A novel method using confocal laser scanning microscopy for sensitive measurement of P-glycoprotein-mediated transport activity in Caco-2 cells. *J Pharm Pharmacol.* 2011; 63(8): 1015-21
- 79) Yoshikawa T, Yamada H, Matsuda K, Nhno H, Sagesaka Y, Kakuda T, Toyozumi K, Matsumoto K, Kosuge K, Uchida S, Onoue S, Yamada S, Umegaki K: Effects of Short-Term Consumption of a Large amount of tea catechins on chromosomal damage, oxidative stress markers, serum lipid, folic acid, and total homocysteine levels: a randomized, double-blind, controlled study. *Jpn J Clin Pharmacol Ther.* 2012; 43(1): 9-16
- 80) Taki Y, Yokotani K, Yamada S, Shinozuka K, Kubota Y, Watanabe Y, Umegaki K: Ginkgo biloba extract attenuates warfarin-mediated anticoagulation through induction of hepatic cytochrome P450 enzymes by bilobalide in mice. *Phytomedicine.* 2012; 19(2): 177-82
- 81) Ohishi W, Fujiwara S, Cologne J, Suzuki G, Akahoshi M, Nishi N, Tsuge M, Chayama K: Impact of radiation and hepatitis virus infection on risk of hepatocellular carcinoma. *Hepatology.* 2011; 53(4): 1237-1245
- 82) Samartzis D, Nishi N, Hayashi M, Cologne J, Cullings HM, Kodama K, Miles EF, Funamoto S, Suyama A, Soda M, Kasagi F: Exposure to Ionizing Radiation and Development of Bone Sarcoma: New Insights Based of Atomic-Bomb Survivors of Hiroshima and Nagasaki. *THE JOURNAL OF BONE AND JOINT SURGERY, INCORPORATED.* 2011; 93(11): 1-8
- 83) Tanaka N, Miyoshi M: School lunch program for health promotion among children in Japan. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition.* 2012; 21(1): 155-158

b. 和文

- 1) 今枝奈保美, 後藤千穂, 加藤利枝子, 服部奈美, 山本和恵, 小田敦子, 田中秀吉, 藤原奈佳子, 徳留裕子, 徳留信寛: ビタミンA, B₁, B₂, Cの食事評価に基づくその他のビタミンの栄養評価への活用. *栄養学雑誌.* 2011; 69(5): 229-240
- 2) 草間かおる, 石川みどり, 野末みほ: 青年海外協力隊栄養士隊員の活動状況について一婦国際員へのアンケート調査の結果から一. *日本栄養士会雑誌.* 2011; 54: 17-24
- 3) 笠岡(坪山)宜代, 桑木泰子, 瀧沢あす香, 田中律子, 藤生恵子, 斎藤トシ子, 恩田理恵, 山岸博之, 江田節子, 木村祐子, 小谷一子, 小田光子, 田代晶子, 池本真二: 諸外国における栄養士養成のための臨地・校外実習の現状に関する調査研究. *日本栄養士会雑誌.* 2011; 54(8): 556-565
- 4) 猿倉薫子: 成人における亜鉛栄養状態評価指標としてのACE活性比の検討. *栄養学雑誌.* 2011; 69(5): 261-266
- 5) 今井絵理, 佐野光枝, 福渡努, 柴田克己: ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラットのトリプトファンニコチンアミド代謝-摂取ビタミン量との関係. *日本栄養・食糧学会誌.* 2011; 64(5): 313-321
- 6) 田中憲子, 笠原靖弘, 森田明美, 宮地元彦: 生体電気インピーダンス法による皮下脂肪厚の推定. *肥満研究.* 2011; (印刷中)
- 7) 石川みどり, 草間かおる, 野末みほ: 青年海外協力隊栄養士の派遣形態(新規、交代)におけ

- る困難な活動内容と改善策に関する検討. 日本公衆衛生雑誌. 2012; 59(2): 92-100
- 8) 野末みほ, 猿倉薫子, 由田克士: 青果物に対する大きさの主観的な認識について. 日本栄養士会雑誌. 2012; 55(3): 200-205
 - 9) 高田和子, 矢作京子, 田中茂穂, 田畑泉: 日本人成人における秤量法によるエネルギー摂取量の推定精度. 栄養学雑誌. 2011; 69(2): 57-66
 - 10) 宮武伸行, 宮地元彦, 村上晴香, 坂野紀子, 鈴江毅, 平尾智広, 沼田健之: 日本人の閉眼片足立ちの評価と運動習慣との関連. 保健の科学. 2011; 53(4): 275-278
 - 11) 高田和子, 別所京子, 田中茂穂, 田畑泉: 日本人成人における秤量法によるエネルギー摂取量の推定誤差. 栄養学雑誌. 2011; 69(2): 57-66
 - 12) 竹内亮, 久保田晃生, 石塚貴美枝, 永田順子, 高田和子, 太田壽城: 地域在住高齢者における生活活動能力及び満足度が3年後の要介護状態に及ぼす影響—静岡県における高齢者生活実態の縦断的調査—. 保健の科学. 2011; 53(5): 353-358
 - 13) 田中千晶, 田中茂穂, 安藤貴史: 日本人幼児における日常の身体活動量と生活環境の関係. 発育発達研究. 2011; 51: 37-45
 - 14) 田口素子, 高田和子, 大内志織, 樋口満: 除脂肪量を用いた女性競技者の基礎代謝量推定式の妥当性. 体力科学. 2011; 60(4): 423-432
 - 15) 松本希, 宮地元彦, 高橋康輝, 安藤裕美, 小堀浩志, 小野寺昇: 週1回の有酸素運動を主体とした特定保健指導の実施が動脈スティフネスに及ぼす影響. 日本生理人類学会誌. 2011; 16(3): 123-132
 - 16) 熊江 隆: 飼育環境ストレスが自由行動ラットの心拍スペクトル解析を用いた心臓自律神経活動に及ぼす影響の検討. 体力・栄養・免疫学雑誌. 2011; 21(3): 183-190
 - 17) 千葉剛, 窪田洋子, 篠塚和正, 梅垣敬三: 同一ラットでの血圧測定における Tail-cuff 法とテレメトリー法との測定比較. 応用薬理. 2011; 80(3/4): 59-63
 - 18) 中西朋子, 佐藤陽子, 狩野照誉, 横谷馨倫, 鈴木佳織, 千葉剛, 梅垣敬三, 阿部重一: 「健康食品」の安全性・有効性情報 Web サイトの認知度と提供情報に関する調査. 臨床栄養. 2011; 119(2): 207-213
 - 19) 松本輝樹, 安食菜穂子, 有福和紀, 川原信夫, 合田幸広: 雪茶製品の 1H NMR メタボローム解析. 日本食品化学学会誌. 2011; 18(1): 43-47
 - 20) 竹林純, 谷中かおる, 松本輝樹, 飯塚太由, 萩原拓幸, 布施浩二, 堀内匠, 美馬晴之, 安河内義和, 吉田幹彦, 山田和彦, 石見佳子: 公定法およびその修正法による食品中ビタミンD定量分析の試験室間共同試験. ビタミン. 2011; 85(12): 645-650
 - 21) 窪田洋子, 渡邊泰雄, 脇 能広, 瀧 優子, 山田静雄, 篠塚和正, 梅垣敬三: ワルファリンの血漿タンパク質結合に及ぼすイチョウ葉エキスの影響. 応用薬理. 2011; 80(1-2): 21-26
 - 22) 松本圭司, 高橋光明, 梅垣敬三, 山田 浩: 健康食品摂取に伴う健康被害報告の因果関係評価法の構築改定評価票による評価者間信頼性評価. 臨床薬理. 2011; 42(4): 2011-214
 - 23) 卓興鋼: 抗酸化サプリメントの有効性・安全性評価. 医と食. 2011; 3(4): 195-200
- 【総 説】**
- a. 和 文**
- 1) 村上晴香: 運動能力を引き出す遺伝と多様性の科学(3)運動能力(筋力・筋パワーおよび持久的能力)と遺伝率. 体育の科学. 2011; 61(6): 441-445
 - 2) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準2006・エクササイズガイド2006の策定およびその普及と活用について. 日本家政学会誌. 2011; 62(7): 473-477
 - 3) 田中茂穂: 日本人の代謝基準値の再評価. 体育の科学. 2011; 61(8): 576-582, 杏林書院
 - 4) 田中茂穂: エネルギー代謝と加齢. 医と食. 2011; 3(4): 180-182, 生命科学振興会
 - 5) 村上晴香: 運動能力を引き出す遺伝と多様性の科学(7)身体活動・運動行動に関連する遺伝子多型から運動能力を考える. 体育の科学. 2011; 61(10): 777-783
 - 6) 宮地元彦: 様々な身体活動と動脈スティフネス. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2011; 19(3): 411-414
 - 7) 宮地元彦: 運動介入によるサルコペニア予防・治療の可能性. Modern Physician. 2011; 31(11): 1359-1361, 新興医学出版社
 - 8) 田中茂穂: アスリートにおける総エネルギー消費量の推定. 日本スポーツ栄養研究誌. 2012; 5: 10-14
 - 9) 窪田直人, 門脇孝: 増殖因子シグナルと隣β細胞量の調節. 細胞. 2011; 43(12): 13-16
 - 10) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: 血管内皮とインスリン感受性. Angiology Frontier. 2011; 10(4): 45-49
 - 11) 原一雄, 門脇孝: 肥満・メタボリックシンドロームの遺伝因子. 月刊糖尿病. 2011; 3(4): 65-72
 - 12) 窪田直人, 門脇孝: メタボリックシンドロームII(後篇)—メタボリックシンドロームの基礎—. 最新医学. 2011; 66: 1276-1283
 - 13) 窪田直人: 【話題の論文】血管内皮細胞のインスリンシグナル障害は、骨格筋におけるインスリン依存性の糖取り込みを低下させる. 血栓と循環. 2011; 19(2): 321-323
 - 14) 諏訪内浩紹, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 腸内細菌叢と肥満. 内分泌・糖尿病・代謝内科. 2011; 33(1): 56-60
 - 15) 勝山修行, 窪田直人, 門脇孝: 【予備群と特定健診】 アクトス(ACT NOW) アクトスを用いた

- 糖尿病予防研究について教えてください(Q&A/特集). Q&Aでわかる肥満と糖尿病. 2011; 10(4): 616-618
- 16) 窪田直人: 生活習慣病 糖尿病治療最前線 毛細血管を標的とした新たな糖尿病治療に向けて. Astellas Square: 明日の医療を考える. 2011; 7(5): 14-16
- 17) 窪田直人, 門脇孝: 膵β細胞維持におけるインスリンシグナルの役割. 胆と膵. 2011; 32(11): 1227-1231
- 18) 窪田哲也, 原一雄, 門脇孝: サルコペニアの診かた: インスリン抵抗性と骨格筋. Modern Physician. 2011; 31(11): 1316-1318, 新興医学出版社
- 19) 窪田直人, 門脇孝: 肝臓におけるインスリンシグナルとエネルギー代謝. BIO Clinica. 2011; 26(14): 25-29
- 20) 窪田直人, 門脇孝: 糖尿病治療薬の作用機序と病態からみた選択一チアゾリジン誘導体一. 糖尿病治療薬の最前線(ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて). 2011; 2: 72-78
- 21) 原一雄, 門脇孝: 肥満症の診断基準の設定における論拠と研究の進歩. Pharma Medica. 2012; 30
- 22) 窪田哲也, 窪田直人, 門脇孝: インスリン受容体について. 医と食. 2012; 4: 2-4, 生命科学振興会
- 23) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリンシグナルの役割. Annual Review. 2012; 19-23, 中外医学社
- 24) 窪田直人, 門脇孝: 【ホルモンによる摂食調節】視床下部でのアディポネクチン作用. 内分泌・糖尿病・代謝内科. 2011; 34(1): 28-33
- 25) 江崎治: 骨格筋: 有酸素運動とレジスタンス運動の抗肥満機序. 最新医学 増刊号 メタボリックシンドロームII(後篇)-メタボリックシンドロームの基礎-. 2011; 66(6): 44-57, 最新医学社(大坂)
- 26) 江崎治: 肥満予防, 治療に最適な脂質/炭水化物摂取比率. 肥満研究. 2011; 17(2): 102-111, 日本肥満学会
- 27) 江崎治, 三浦進司: AMPキナーゼによる糖の取り込みの制御. 内分泌・糖尿病・代謝内科. 2011; 33(2): 86-92
- 28) 江崎治: トランス脂肪酸の疾病リスク. アンチ・エイジング医学. 2011; 7(4): 34-39, メディカルレビュー社
- 29) 三浦進司, 只石幹, 江崎治: 特集 生活習慣病の栄養管理「糖分摂取過剰と生活習慣病」. 成人病と生活習慣病. 2011; 41(11): 1297-1302, 東京医学社
- 30) 江崎治: 特集「最近話題の脂肪酸に強くなる」展望. Q&Aでわかる肥満と糖尿病. 2011; 10(6): 797-799, 丹水社
- 31) 江崎治: 蛋白質負荷・脂肪負荷と血糖の変動の関連. 日本医事新報(4584). 2012; 57-59, 日本医事新報社
- 32) 石見佳子: 日本食品標準成分表2010—活用するために知っておきたいこと. 臨床栄養. 2011; 118(4): 402-407, 医歯薬出版
- 33) 石見佳子: 骨粗鬆症. Functional Food. 2011; 5(1): 63-69, フジメディカル出版
- 34) 石見佳子: イソフラボンと骨粗鬆症. Functional Food. 2011; 5(2): 110-114, フジメディカル出版
- 35) 石見佳子: 食事摂取基準と栄養成分表示の関連. 食事摂取基準 理論と活用. 2012; 2: 103-110, 医歯薬出版株式会社
- 36) 石見佳子: Bone effects: The role of soy isoflavones in menopausal health. Report of The North American Menopause Society/Wulf H. Utian Translational Science Symposium in Chicago, Menopause. 2011; 18(7): 732-753
- 37) 卓興鋼, 大森豊緑, 矢野友啓, 渡邊昌, 賈夢, 馬徳福, 張玉梅, 王培玉: 中国版保健機能食品「保健食品」について. New Food Industry. 2011; 53(10): 1-23

【解説等】

a. 英文

- 1) Yoshiike N, Yamamoto S, Tokudome S, Shimizu M: IUNS Workshop on Capacity and Leadership Development in Nutritional Sciences held in Tokyo 2010. J. Nutr. Sci. Vitaminol. 2011; 57(4): 313-315
- 2) Tokudome S, Nishi N, Tanaka H: Towards a better National Health and Nutrition Survey in Japan. Lancet. 2012;

b. 和文

- 1) 笠岡(坪山)宣代: BOOK REVIFW 「一論文を正しく読み書くための一 やさしい統計学」. 日本栄養士会雑誌. 2011; 54(5): 39-39
- 2) 森田明美: 特別寄稿 避難所における食事提供に係る適切な栄養の参照量について. 臨床栄養 7月号. 2011; 119(1): 78-80
- 3) 坪田(宇津木)恵: 「日常臨床に役立つ高血圧診断のエビデンスー果物高摂取は将来の高血圧発症を予防するー大迫研究」. 血圧. 2011; 18(8): 714-715, 先端医学社
- 4) 笠岡(坪山)宣代: 管理栄養士の活動最前線 「エビデンスベースでの被災地支援ー管理栄養士・栄養士の支援ツールー」. 日本栄養士会雑誌. 2011; 54(9): 36-36
- 5) 笠岡(坪山)宣代: 災害時の健康・栄養支援. 日本栄養士会雑誌. 2011; 54(10): 13
- 6) 高田和子, 三好美紀, 野末みほ, 猿倉薫子, 中出麻紀子, 坪田(宇津木)恵, 笠岡(坪山)宣代: 避難生活で生じる健康問題を予防するための栄養・食生活. 日本栄養士会雑誌. 2011; 54(10): 14-16
- 7) 三好美紀, 高田和子, 野末みほ, 猿倉薫子, 中

- 出麻紀子, 坪田(宇津木)恵, 笠岡(坪山)宜代:
避難生活での衛生管理. 日本栄養士会雑誌.
2011; 54(10): 16-18
- 8) 坪田(宇津木)恵, 笠岡(坪山)宜代, 三好美紀,
野末みほ, 猿倉薫子, 中出麻紀子, 高田和子:
母子における避難生活での栄養・食生活. 日本
栄養士会雑誌. 2011; 54(10): 18-21
- 9) 高田和子, 野末みほ, 猿倉薫子, 中出麻紀子,
坪田(宇津木)恵, 三好美紀, 笠岡(坪山)宜代:
高齢者における避難生活での栄養・食生活. 日
本栄養士会雑誌. 2011; 54(10): 21-24
- 10) 坪田(宇津木)恵: 欧米の循環器疾患予防のため
の食事ガイドラインの現状. 循環器内科. 2011;
70(6): 607-614, 科学評論社
- 11) 坪田(宇津木)恵, 森田明美: セミナー わか
る・使える一やさしい統計 基本のキから ①
「データのみかた考え方」. 臨床栄養. 2012;
120(1): 65-74, 医歯薬出版(株)
- 12) 坪田(宇津木)恵, 森田明美: セミナー わか
る・使える一やさしい統計 基本のキから ②
「代表値とばらつき」. 臨床栄養. 2012;
120(2): 187-198, 医歯薬出版(株)
- 13) 坪田(宇津木)恵, 森田明美: セミナー わか
る・使える一やさしい統計 基本のキから ③
「母集団と標本の考え方」. 臨床栄養. 2012;
120(3): 303-310, 医歯薬出版(株)
- 14) 笠岡(坪山)宜代, 西信雄: 特集 災害後の医療の
課題—東日本大震災の経験を生かして Seminar
5. 災害時における高齢者の食・栄養問題につ
いて. Geriatric Medicine. 2012; 50(3):
297-300, ライフ・サイエンス
- 15) 笠岡(坪山)宜代, 高田和子, 三好美紀, 坪田(宇
津木)恵, 野末みほ, 猿倉薫子, 中出麻紀子: 東
日本大震災への対応2—避難生活者向けリー
フレットと専門職向け解説—. 日本栄養士会雜
誌. 2011; 54(10): 13-24
- 16) 井上茂, 岡浩一朗, 柴田愛, 荒尾孝, 種田行男,
勝村俊仁, 熊谷秋三, 下光輝一, 杉山岳巳, 田
中茂穂, 内藤義彦, 中村好男, 山口幸生, 李廷
秀: 身体活動のトロント憲章日本語版: 世界規
模での行動の呼びかけ. 運動疫学研究. 2011;
13(1): 12-29
- 17) 宮地元彦: メタボリックシンドロームを予防・
改善する運動・身体活動. けんこうぶんか.
2011; 45(Apr): 20-29, 日本健康文化振興財団
(東京)
- 18) 宮地元彦: 筋肉がある人が元気に長生きでき
る!. パトス. 2011; 69: 34-36, (東京)
- 19) 宮地元彦: からだいつまでもイキイキと!. へ
るすさろん、ホンダ健保. 2011; 4(5): 11-12, (東
京)
- 20) 田中茂穂: 基礎代謝が高い体になるには?. NHK
ためしてガッテン. 2011; 11(夏): 26-27, 主婦
と生活社(東京)
- 21) 宮地元彦: サルコペニアの概念と運動による改
善. Practice. 2011; 28(4): 357-359, 医歯薬
出版(東京)
- 22) 田中茂穂: 子どもの身体活動の特徴と評価法.
チャイルドヘルス. 2011; 14(7): 1414-1416,
診断と治療社
- 23) 川上諒子, 宮地元彦: 標準的な質問票の妥当性
は? 特集予備群と特定健診. 肥満と糖尿病.
2011; 10(4): 594-595, 丹水社(東京)
- 24) 宮地元彦: 身体活動から迫るアンチエイジング.
健保連 東京連合会報. 2011; 63(7): 9-11
- 25) 前田清司, 宮地元彦: 運動と動脈硬化. 日本臨
床スポーツ医学会誌. 2011; 19(3): 400
- 26) 宮地元彦: 動脈の抗加齢に効果的な運動. 医と
食. 2011; 3(4): 184-185, (社)生命科学振興
会(東京)
- 27) 宮地元彦: 環境と身体活動. Practice. 2011;
28(5): 454-456, 医歯薬出版(東京)
- 28) 宮地元彦: 自立度低下を予防する運動・身体活
動 からだいつまでもイキイキと!. へるすさ
ろん、ホンダ健保. 2011; 5(9): 9-10, (東
京)
- 29) 田中茂穂: 日本人の食事摂取基準(2010年版).
子どもと発育発達(日本発育発達学会編、杏林
書院). 2011; 9(3): 163-167, 東京
- 30) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準2006・
エクササイズガイド2006の策定およびその普及
と活用. PRACTICE. 2011; 28(6): 552-554, 医
歯薬出版(東京)
- 31) 宮地元彦: 長時間の低強度身体活動は高齢者の
動脈スティフネスを低下させる. Arterial
Stiffness. 2011; 17: 62-63, メジカルレビ
ュー社(東京)
- 32) 宮地元彦: サルコペニアとレジスタンストレー
ニング. 臨床栄養. 2011; 119(7): 732-733, 医
歯薬出版(東京)
- 33) 宮地元彦: 避難生活におけるエコノミークラス
症候群・自立度低下予防の運動・身体活動. NPO
法人健康運動指導士会会報. 2011; (122): 3-7,
東京
- 34) 高田和子: 高齢者の栄養問題を考える. 食品と
容器. 2012; 53(1): 14-21
- 35) 村上晴香: わかるようでわからない遺伝子ナル
ホドトピックス. HEALTH NETWORK. 2012; 5-5
- 36) 宮地元彦: メタボリックシンドロームとロコモ
ティブシンドロームの予防改善のための運動・
身体活動を考える. 別冊 メディカル朝日.
2012; 41(1): 6-6, 東京
- 37) 宮地元彦: 健康寿命を伸ばすための目標 から
だいつまでもイキイキと!. ヘルスサロン、ホ
ンダ健保. 2012; 6(1): 11-12, 東京
- 38) 宮地元彦: 「たるみ」を解消するための運動.
青淵. 2012; (756): 16-18, 渋沢栄一記念財団
(東京)
- 39) 宮地元彦: EMCLを減らしてメリハリのある美ボ
ディラインを. Health & Beauty Review. 2012;
24(3): 30-31, 講談社(東京)
- 40) 梅垣敬三, 中西朋子, 佐藤陽子, 千葉剛: ハー

- ブ系の健康食品素材に関する有効性と安全性の最新情報(第1回) イチョウ葉エキス. 医と食. 2011; 3(2): 104-107
- 41) 千葉剛, 中西朋子, 佐藤陽子, 梅垣敬三: ハーブ系の健康食品素材に関する有効性と安全性の最新情報(第2回) セントジョーンズワート. 医と食. 2011; 3(3): 160-162
- 42) 千葉剛, 梅垣敬三: イチョウ葉エキスと医薬品の相互作用. *aromatopia*. 2011; 20(4): 57-61, *Fragrance Journal Ltd.*
- 43) 千葉剛: 乳製品の摂取は本当に健康に良いのか?. *ファルマシア*. 2011; 47(7): 666-667, 日本薬学会
- 44) 中西朋子, 佐藤陽子, 千葉剛, 梅垣敬三: ハーブ系の健康食品素材に関する有効性と安全性の最新情報(第3回) ノギリヤシ. 医と食. 2011; 3(4): 217-219
- 45) 永田純一: トランス脂肪酸について知る一最新の事情・動向. *臨床栄養*. 2011; 117(1): 91-96
- 46) 梅垣敬三: 健康づくりQ&Aトランス脂肪酸に関する質問. *健康づくり*. 2011; (204): 21-21
- 47) 梅垣敬三: 提言: 幼少期からの食品に関する科学的知識教育の必要性. *食品衛生研究*. 2011; 61(5): 5-5
- 48) 梅垣敬三: 【授乳期・離乳期の食事のウソ?ホント?】子どもとサプリメント. *チャイルドヘルス*. 2011; 14(8): 1478-1481
- 49) 梅垣敬三: サプリメントの有効性と安全性. *日本医事新報*. 2011; (1567): 48-49
- 50) 梅垣敬三: 健康食品の問題点と薬剤師の役割 - 第1回健康食品やサプリメントの実態-. *都薬雑誌*. 2012; 34(2): 12-16
- 51) 梅垣敬三: 健康食品の問題点と薬剤師の役割 - 第2回健康食品やサプリメントによる有害影響-. *都薬雑誌*. 2012; 34(3): 38-42
- 52) 三好美紀: ラオスの子どもの栄養問題と改善を目指して. *月刊新医療*. 2011; 38(8): 26, 産業科学株式会社
- 53) 卓興鋼, 吉田佳督, 大森豊緑: エビデンスに基づく医療 (EBM) の実践ガイドライン—システムティックレビューおよびメタアナリシスのための優先的報告項目 (PRISMA声明). *情報管理*. 2011; 54(5): 254-266
- 54) 西信雄: 日本人の栄養摂取の動向. *循環器内科*. 2011; 70(6): 540-545
- 55) 卓興鋼: 中医食療から見た糖尿病食. *医と食*. 2012; 4(1): 26-30
- 56) 西信雄: 「健康日本21」の最終評価まとまる—栄養・食生活分野を中心に. *臨床栄養*. 2012; 120(3): 321-326
- 研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
- 2) 徳留信寛: 東日本大震災被災者の健康状態等に関する調査, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 厚生労働科学特別研究事業
- 3) 中出麻紀子: 親による子どもの頃の家庭での食育が若手成人の朝食欠食に及ぼす効果, 平成22~平成23年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究 (B)
- 4) 笠岡 (坪山) 宣代: 肥満・生活習慣病に対する魚介類含有アミノ酸の新規機能の解明, 平成23年度研究実施状況報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (C)
- 5) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準・運動指針改定並びに普及・啓発に関する研究, 平成23年度総括研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
- 6) 田中茂徳, 高田和子: エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究, 平成23年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
- 7) 田中茂徳, 高田和子: エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究, 平成21~平成23年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
- 8) 高田和子: 高齢者の経口摂取の維持ならびに栄養ケア・マネジメントの活用に関する研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 長寿科学総合研究事業
- 9) 高田和子: チームによる効果的な栄養ケア・マネジメントの標準化をめざした総合的研究~大学一施設連携による研究基盤・人材育成システムの構築の試み~, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 長寿科学総合研究事業
- 10) 宮地元彦: 生活習慣病予防のための運動を阻害する要因とその原因別の対策に関する研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
- 11) 宮地元彦: 生活習慣病予防活動・疾病管理による健康指標に及ぼす効果と医療費適正化効果に関する研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
- 12) 高田和子: 筋ジストロフィーの治療拠点整備、包括的診療ガイドラインの研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 精神・神経疾患研究委託事業
- 13) 村上晴香: 自発的身体活動・運動行動誘発におけるグレリン遺伝子多型の関連, 平成22~平成23年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費,

【研究報告書】

- 1) 徳留信寛, 森田明美, 笠岡 (坪山) 宣代, 坪田 (宇津木) 恵, 江崎治: 日本人の食事摂取基準の改定と活用に関する総合的研究. 平成23年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学

- 若手研究 (B)
- 14) 田中茂穂: エネルギー消費量の変動要因に関する基礎的研究, 平成22~平成23年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (A)
 - 15) 宮地元彦: 日本人の身体活動量に関する環境・遺伝要因とその相互作用に関する網羅的研究, 平成23年度研究実績報告書, 基盤研究 (A)
 - 16) 大坂寿雅: 終板器官周囲のプロスタグランジンE2発熱機構を制御する神経伝達物質, 平成23年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (C)
 - 17) 大河原一憲: 日常生活下における肥満抑制因子としての非運動性身体活動と24時間脂質酸化能の役割, 平成23年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 特別研究員奨励費
 - 18) 田中憲子: 体幹部骨格筋量の増大がメタボリック症候群の改善および介護予防に及ぼす影響, 平成23年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 特別研究員奨励費
 - 19) 薄井澄誉子: 閉経後における肥満・サルコペニア予防のための運動がエネルギー基質選択に与える影響, 平成23年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 特別研究員奨励費
 - 20) 中江悟司: 食事摂取基準の活用に向けた有疾患小児および健常児におけるエネルギー必要量の評価, 平成23年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 研究活動スタート支援
 - 21) 井上真理子: ピオグリタゾンの抗動脈硬化作用のin vivoにおける分子メカニズムの解明, 平成22~平成23年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究 (B)
 - 22) 窪田哲也: 肝臓におけるIRS-1、IRS-2の生理的・病態生理的役割の解明, 平成21~平成23年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (C)
 - 23) 渡邊 昌, 宮地元彦, 森田明美, 山田晃一: 特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証及び評価手法の開発に関する研究, 平成23年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
 - 24) 渡邊 昌, 宮地元彦, 森田明美, 山田晃一: 特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証及び評価手法の開発に関する研究, 平成21~平成23年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
 - 25) 渡邊 昌: 肥満関連疾患のアジアと米国における遺伝疫学的検討とその対策に関する研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 地球規模保健課題推進研究事業 (国際医学協力研究事業)
 - 26) 三浦進司: 運動によるエネルギー代謝亢進のメカニズム, 平成21~平成23年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (B)
 - 27) 山崎聖美: 肥満・脂肪肝発症予防のためのPPAR組織・サブタイプ特異性に関する網羅的分析, 平成23年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (C)
 - 28) 山崎聖美: 大豆たん白質β-コングリシニンの非アルコール性脂肪肝発症予防・治療効果と作用機序の解明, 大豆たん白質研究 第14回報告会記録, 86-90
 - 29) 竹林純, 加藤美智子: 抗酸化物質大量摂取時の安全性評価: 運動の有用作用に及ぼす影響, 平成23年度総括研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 食品の安全確保推進研究事業
 - 30) 石見佳子, 二川健, 寺尾純二, 笠岡(坪山)宣代, 西信雄, 徳留信寛: 超高齢化社会に適用可能な機能性宇宙食の開発とその応用, JAXA「きぼう」利用社会課題対応テーマF S成果報告書, 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
 - 31) 石見佳子, 笠岡(坪山)宣代, 瀧沢あす香: 栄養・特殊用途食品部会における検討プロセスの開発に関する研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 食品の安全確保推進研究事業
 - 32) 松本輝樹: 機器分析を志向した簡便かつ迅速なビタミンB12分析法の開発と評価, 平成23年度研究実施状況報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究 (B)
 - 33) 石見佳子, 竹林純: ダイズイソフラボンの骨粗鬆症予防効果に関する研究, 農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発, 2012, 農林水産省委託研究事業分担研究報告書
 - 34) 竹林純: 食事からの抗酸化物質摂取総量の推算を可能とする食品の抗酸化能データベースの構築, 平成23年度研究実施状況報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究 (B)
 - 35) 山内 淳: インスリン抵抗性とビタミンA代謝のクロストーク, 平成23年度研究実施状況報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (C)
 - 36) 梅垣敬三: 健康食品の情報提供システム体制の構築と安全性確保に関する研究, 平成23年度総括研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 食品の安全確保推進研究事業
 - 37) 梅垣敬三: 健康食品の情報提供システム体制の構築と安全性確保に関する研究, 平成21~平成23年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 食品の安全確保推進研究事業
 - 38) 梅垣敬三: ダイエット関連植物素材の安全性における主要栄養素の影響評価, 平成23年度研究実施状況報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究 (C)
 - 39) 西 信雄: 健康増進施策推進・評価のための健康・栄養モニタリングシステムの構築, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
 - 40) 西 信雄: 2010年国民健康栄養調査対象者の追

跡開始 (NIPPON DATA2010) と NIPPON DATA80/90

の追跡継続に関する研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

41) 西 信雄: 内臓脂肪蓄積を簡便に推定できる評価モデル式の開発とそのリスク評価に関する縦断研究, 平成23年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

42) 坪田 (宇津木) 恵: パーソナリティが食行動、および将来の身体的健康にどのような影響を及ぼすのか, 平成23年度研究実施状況報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究 (B)

【国際学会等】

a. 特別講演

該当無し

b. シンポジウム等

- 1) Miyachi M: Resistance training and arterial stiffness, Symposium: Resistance training and vascular disease risks. 58th American College of Sports Medicine Annual Meeting. 2011.6.1, Denver, CO, USA
- 2) Tanaka S: Evaluation of Physical Activity in Children. MASO (Malaysian Association for the Study of Obesity) 2011 Scientific Conference on Obesity. 2011.6.28, Kuala Lumpur (Malaysia)
- 3) Kubota T, Kubota N, Kadowaki T: Impaired Insulin Signaling in the Endothelial Cells Reduces Insulin-Induced Glucose Uptake by the Skeletal Muscle. The 3rd Scientific Meeting of Asian Association for the Study of Diabetes, 2011.6.23, Beijing, China
- 4) Ishimi Y: Osteoporosis and Nutrition; Soybean isoflavone and bone health. Lunch Symposium, XI Asian Congress of Nutrition, 2011.7.14, Singapore
- 5) 石見佳子: 健康づくりと食の選択. ILSI Japan 第5回「栄養とエイジング」国際会議, 2011.9.28, 東京大学
- 6) 石見佳子: 日本の栄養表示関連法規および実施状況と管理方法. 日中健康栄養交流会議 2012—国際栄養表示関連法規フォーラム—, 2012.2.3, 北京
- 7) 渡邊昌, 卓興鋼: 高齢者の食と健康. 中国栄養学会, 2011.9. 中国、蘇州
- 8) 渡邊 昌, 卓興鋼: 糖尿病腎症を防ぐ食事療法. 中国栄養学会, 2011.9. 中国、蘇州
- 9) Nishi N: Review of Japanese Nutrition and Health Survey. Workshop on Nutrition and Health Survey, 2011.9.24, Beijing, China
- 10) 卓興鋼: Evidence-Based Nutritional Therapy for Osteoporosis. 中国栄養学会, 2011.9.25, 中国、蘇州

c. 一般講演等

- 1) Goto C, Tokudome Y, Imaeda N, Kuriki K, Tokudome S: Relative validity of a short food frequency questionnaire for assessing nutrient intake vs 3-day weighed diet records in young Japanese women. International Epidemiology Association World Congress of Epidemiology, 2011.8.7, Edinburgh, Scotland, UK
- 2) Nakade M, Furuya K, Kawakami J, Aiba N: Breakfast eating in university students and their mothers' socioeconomic states and dietary education in childhood. International Society for Behavioral Nutrition and physical activity, 2011.6.18, Melbourne
- 3) Tsuboyama-Kasaoka N, Takizawa A, Kuwaki Y: Study on Supervised Professional Practice for Training of Dietitians in the World, XI Asian Congress of Nutrition 2011, 2011.7. singapore
- 4) Miyoshi M, Tsuboyama-Kasaoka N, Nishi N, Job Hawap, Kuratsuji T: Nutritional status of children and their mothers, and its determinants in Port Moresby, Papua New Guinea. XI Asian Congress of Nutrition 2011, 2011.7.15, singapore
- 5) Yoshita K, Arai Y, Nozue M, Nishi N, Miura K, Onishi H, Saitho S, Okayama A, Okuda N, Okamura T, Ueshima H: Relationship of total energy intake to body mass index in representative Japanese population: NIPPON DATA 80/90. XI Asian Congress of Nutrition, 2011.7.13, Singapore
- 6) Tanaka C, Tanaka S: Relationship between daily physical activity and neighborhood environment among Japanese preschool children. American College of Sports Medicine (ACSM) 58th Annual Meeting, 2011.6.2, Denver, Colorado
- 7) Naito Y, Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Harada A, Arao T, Inoue S, Kitabatake Y, Tabata I: Sedentary occupation, its validity and risk for colon cancer. 58th Annual meeting and 2nd World congress on Exercise is medicine, 2011.6.2, USA
- 8) Ando T, Ohkawara K, Tanimoto M, Miyachi M, Higuchi M, Tanaka S: Substrate oxidation after breakfast may Have different roles on body composition than after other meals. American College of Sports Medicine (ACSM) 58th Annual Meeting, 2011.6.3, Denver, Colorado
- 9) Park JH, Ishikawa-Takata K, Tanaka S,

- Oshima Y, Yoshida A, Hirohata M, Kimura T, Tabata I: Validation of accelerometers for measurement of METs during walking in independent and dependent elderly people. American College of Sports Medicine (ACSM) 58th Annual Meeting, 2011.6.3, Denver, Colorado
- 10) Murakami H, Iemitsu M, Sanada K, Gando Y, Kawakami R, Fuku N, Hayashi K, Miyachi M: Genome-Wide Association Study of Physical Activity Level for a Year in Japanese Adults. 58th American College of Sports Medicine, 2011.6.3, Denver, Colorado
- 11) Yoshida A, Ishikawa-Takata K, Fujii M, Totani M: Characteristics affecting the estimation error of energy intake in female university sprinters. XI Asian congress of nutrition, 2011.7.15, Singapore
- 12) Komaki H, Ishikawa-Takata K, Takanoha S, Matsumura T, Shinno S, Kuru S, Tatara K, Sasaki M, Tanaka S, Tabata I: Total energy expenditure (TEE) for patients with Duchenne muscular dystrophy. 16th International World Muscle Society Congress, 2011.10.20, Portugal
- 13) Usui C, Ando T, Ohkawara K, Miyake R, Oshima Y, Hibi M, Tokuyama K, Tanaka S: Prediction of energy expenditure of low-intensity physical activity from triaxial acceleration in indirect human calorimeter. RACMEM 2011 Recent Advances and Controversies in the Measurement of Energy Metabolism, 2011.11.3, Maastricht University (Maastricht)
- 14) Ando T, Ohkawara K, Higuchi M, Tanaka S: Effects of habitual physical activity on the ability to regulate energy balance. RACMEM 2011 Recent Advances and Controversies in the Measurement of Energy Metabolism, 2011.11.3, Maastricht University (Maastricht)
- 15) Tanaka C, Hikiyama Y, Ando T, Oshima Y, Usui C, Ohgi Y, Kaneda K, Tanaka S: Estimation of physical activity intensity with classifying locomotive and nonlocomotive activities by a triaxial accelerometer in young children. RACMEM 2011 Recent Advances and Controversies in the Measurement of Energy Metabolism, 2011.11.3, Maastricht University (Maastricht)
- 16) Yamaguchi S, Hibi M, Mitsui Y, Katashima M, Tokuyama S, Tanaka S: Reproducibility of diet-induced thermogenesis and activity-induced thermogenesis evaluated using triaxial accelerometry and respiratory chamber. RACMEM 2011 Recent Advances and Controversies in the Measurement of Energy Metabolism, 2011.11.3, Maastricht University (Maastricht)
- 17) Kubota N, Kubota T, Kumagai H, Inoue M, Yamauchi T, Ueki K, Kadowaki T: Impaired insulin signaling in the endothelial cells reduces insulin-induced glucose uptake by the skeletal muscle. Scientific Sessions 71th American Diabetes Association, 2011.6.26, San Diego
- 18) Hara K, Fujita H, Horikoshi M, Yamauchi T, Maeda S, Kubo M, Tsunoda T, Nakamura Y, Kadowaki T: Identification of novel susceptibility gene variants associated with type 2 diabetes in the Japanese population by imputation analysis using the 1000 Genomes Project dataset. 69th Scientific Sessions of the American Diabetes Association, 2011.6.26, San Diego, USA
- 19) Nakaya K, Kubota N, Takamoto I, Kubota T, Katsuyama H, Sato H, Hashimoto S, Goto M, Jomori T, Ueki K, Kadowaki T: The Effects of SK-0403, a highly selective DPP-4 inhibitor, on β -cell mass and function in haploinsufficiency of β -cell-specific glucokinase mice on a high-fat diet. 71th American Diabetes Association's Scientific Sessions, 2011.6.26, San Diego, USA
- 20) Hara K, Fujita H, T.A. Johnson, Horikoshi M, Maeda S, Tsunoda T, Kubo M, Nakamura Y, Kadowaki T: Comprehensive evaluation of type 2 diabetes susceptibility in the Japanese population by genome-wide imputation analysis using the 1000 Genomes. 12th ICHG/61th ASHG, 2011.10.12, Montreal, Canada
- 21) Sasako T, Ueki K, Ohsugi M, Kubota N, Tobe K, Kadowaki T: Role of Sdf211, a Novel ER Stress-Related Protein, in the Regulation of Hepatic Insulin Sensitivity. The 16th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus, 2011.10.22, Tokyo, Japan
- 22) Kubota T, Kubota N, Iwamura T, Inoue M, Sato H, Hayashi T, Takamoto I, Yamauchi T, Ueki K, Kadowaki T: Impaired Insulin Signaling in the Endothelial Cells Reduces Insulin-induced Glucose Uptake by the Skeletal Muscle. The 16th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus, 2011.10.22, Tokyo, Japan
- 23) Okada M, Yamauchi T, Iwabu M, Kubota N, Ueki K, Kadowaki T: AdipoR2 in Endothelial Cells and AdipoR1 in Macrophages Play Pivotal Roles in the Prevention of

- Atherosclerosis in Vivo. The 16th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus , 2011.10.22 , Tokyo, Japan
- 24) Hara K: Genetics of Type 2 diabetes in East Asia. 16th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus , 2011.10.22 , Tokyo
- 25) Shinozaki S, Kokame K, Chiba T, Miyata T, Hatori K, Ai M, Kawakami A, Kaneko E, Yoshida M, Shimokado K: Deficiency of Herp, an endoplasmic reticulum stress protein, suppresses atherosclerosis in apoE knockout mice via suppression of inflammatory responses. The 1st Asia-Pacific Vascular Biology Meeting , 2011.12.9 , Tokyo, Japan
- 26) Tousen Y, Fujii Y, Ueno T, Uchiyama S, Nishimuta M, Yamada K, Ishimi Y: Equol Inhibited Bone Loss without Unfavorable Effects in Osteoporotic Mice and Postmenopausal Japanese Women. XI Asian Congress of Nutrition 2011 , 2011.7.15 , Suntec Singapore International Convention & Exhibition Centre (Singapore)
- 27) Nagata J, Machino A, Matsuzuka Y, Kamiya T, Takagaki K: Terminalia bellirica improves serum triglyceride concentration and some kinds of biochemical parameters in mice. XI Asian Congress of Nutrition , 2011.7.15 , Singapore
- 28) Yanaka K, Higuchi M, Ishimi Y: Effects of voluntary exercise and energy restriction on bone mineral density in female rat model. American Society for Bone and Mineral Research 2011 Annual Meeting , 2011.9.19 , San Diego, USA
- 29) Watanabe J, Oki T, Takebayashi J, Yamasaki K, Takano-Ishikawa Y: Improvement of hydrophilic oxygen radical absorbance capacity (H-ORAC) method for determination of antioxidant capacities of antioxidant solutions and food extracts. 2011 The International Conference on Food Factors (ICoFF) , 2011.11.21 , Taipei, Taiwan
- 30) Taku K, Lin N, Cai D, Hu J, Zhao X, Zhang Y, Wang P, Melby MK, Hooper L, Kurzer MS, Mizuno S, Ishimi Y, Watanabe S: EFFECTS OF SOY ISOFLAVONE EXTRACT SUPPLEMENTS ON BLOOD PRESSURE IN ADULT HUMANS: SYSTEMATIC REVIEW AND META-ANALYSIS OF RANDOMIZED PLACEBO-CONTROLLED TRIALS. 7th Asia Pacific Conference on Clinical Nutrition , 2011.6.5 , Bangkok, Thailand
- 31) Miyoshi M, Yoshiike N, Le BM, Do TPH, Khor GL, Velandria F, Kim CI: Database development for situation of obesity, metabolic syndrome and diabetes in Asian countries. XI Asian Congress of Nutrition , 2011.7.14 , Singapore
- 【国内学会等】**
- a. 特別講演**
- 1) 村上晴香: 運動・身体活動の効果の個人差を遺伝子多型から考える. 第19回日本運動生理学会. 2011.8.26 , 徳島
 - 2) 田中茂徳: 日本人の身体活動量の現状 ランチョンセミナー5 健康づくり施策の普及・啓発活動. 第66回日本体力医学会. 2011.9.17 , 海峡メッセ下関 (下関市)
 - 3) 宮地元彦: 動脈スティフネスと運動. 第5回運動循環器病研究会. 2012.1.21 , 順天堂大学 東京
 - 4) 宮地元彦: 運動と動脈スティフネス. 第20回鹿児島スポーツ医学研究会. 2012.1.28 , 鹿児島県医師会館 (鹿児島)
- b. シンポジウム等**
- 1) 徳留信寛: 生活習慣病の予防とコントロール. 第54回日本歯周病学会・日本学術会議共催市民公開シンポジウム. 2011.5.28 , 福岡県福岡市
 - 2) 森田明美: 「高齢者の食事」. 第11回日本抗加齢医学会総会 ワークショップ「日本抗加齢医学栄養運動療法ガイドライン策定に向けて」. 2011.5.27 , 京都市
 - 3) 笠岡(坪山)宣代: エビデンスとガイドライン. 全国研究教育栄養士協議会. 2012.3.4 , 滋賀県
 - 4) 宮地元彦: 健康長寿をめざす運動、ワークショップ: 日本抗加齢医学栄養運動療法ガイドラインの策定に向けて. 日本抗加齢医学会. 2011.5.27 , 京都国際会館 (京都)
 - 5) 田中茂徳: 高齢者のエネルギー出納状態 ワークショップ: 日本抗加齢医学栄養運動療法ガイドラインの策定に向けて. 第11回日本抗加齢医学会総会. 2011.5.27 , 国立京都国際会館 (京都市)
 - 6) 宮地元彦: レジスタンストレーニング、シンポジウム12: 運動の効果とアンチエイジング. 第11回日本抗加齢医学会総会. 2011.5.28 , 京都国際会館 (京都)
 - 7) 宮地元彦: NEXISと佐久コホート研究 シンポジウム: 身体活動および体力と健康に関する運動疫学研究と今後の課題. 第14回運動疫学研究会. 2011.9.15 , 海峡メッセ下関 (下関市)
 - 8) 宮地元彦: 厚生労働省の健康づくり対策「健康日本21」の評価の進捗状況、ランチョンセミナー5 健康づくり施策の普及・啓発活動. 第66回日本体力医学会. 2011.9.17 , 海峡メッセ下関 (下関市)
 - 9) 宮地元彦, 田畑泉, 種田行男, 澤田享, 小熊祐子, 宮武伸行, 高田和子, 田中茂徳: ワークショップ5. 健康づくりのための運動基準の改定について考える. 第66回日本体力医学会. 2011.9.18 , 海峡メッセ下関 (下関市)
 - 10) 田中茂徳: 身体活動量と肥満予防・解消 イブニ

- ングセミナー ヒトを対象としたエネルギー代謝測定の実際と肥満研究へのアプローチ. 第32回日本肥満学会. 2011.9.23, 淡路夢舞台国際会議場
- 11) 宮地元彦: 運動ガイドラインにおける活動強度の表示、シンポジウム2: 健康を維持増進させる運動の強度と指標. 日本健康行動科学会. 2011.10.29, 東海大学湘南校舎ネクサスホール
 - 12) 宮地元彦: メタボリックシンドローム対策を阻害する要因としてのロコモティブシンドローム、シンポジウム7: 長寿化した社会からみえる運動器障害、歩行障害への対策—ロコモティブシンドロームとメタボと認知症—. 日本リハビリテーション医学会学術集会. 2011.11.3, 幕張メッセ (千葉市)
 - 13) 宮地元彦: 生活習慣病施策と運動基準・指針について シンポジウムII 職域における生活習慣の予防・改善と運動療法. 第46回 日本成人病 (生活習慣病) 学会. 2012.1.15, 都市センターホテル (東京)
 - 14) 田中茂穂: 「エネルギー消費量の構成成分と肥満」 シンポジウムII 「職域における生活習慣病予防・改善と運動療法」. 第46回日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会. 2012.1.15, 都市センターホテル (東京)
 - 15) 高田和子: 基礎代謝量を増加させることの是非. 第13回日本健康支援学会年次学術集会. 2012.2.18, 茨城県つくば市
 - 16) 窪田直人: 血管から糖尿病へ～インスリン抵抗性と血管障害の新しい知見～. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011.5.21, 札幌
 - 17) 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷裕紀, 井上真理子, 河合智子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 糖と脂質代謝における肝IRS1とIRS2の生理学的・病態生理学的役割 (Molecular Mechanisms of Glucose and Lipid Metabolism in the Liver The physiological and pathophysiological roles of hepatic IRS1 and IRS2 in the glucose and lipid metabolism). 第53回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011.5.27, 岡山
 - 18) 窪田直人: 血管から糖尿病へ～インスリン抵抗性と血管障害の新しい知見～. 第52回日本脈管学会総会. 2011.10.20, 岐阜
 - 19) 窪田直人, 門脇孝: 生活習慣病と認知症 『糖尿病と認知症』 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と認知症. 第30回日本認知症学会学術集会. 2011.11., 東京
 - 20) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: 糖尿病モデル動物を用いた糖尿病合併症研究『発生工学的手法を用いた糖尿病血管合併症研究—血管内皮細胞を中心に—』. 第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2012.2.17, 名古屋
 - 21) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: 細胞内シグナルによる生体機能調節とその関連疾患: 新しい展開と創薬に向けて『血管内皮細胞のインスリンシグナル障害は骨格筋のインスリン依存性糖取り込み低下を引き起こす』. 第85回日本薬理学会年会. 2012.3. 京都
 - 22) Murai J, Yoshikiyo K, Narita T, Tsurimoto T, Nishihara K, Yamada K, Nakamura J, Sale JE, Pommier Y, Takeda S, Hirota K: DNA polymerase delta efficiently inserts nucleotides opposite abasic sites in vivo. 第34回 日本分子生物学会年会. 2011.12.15, パシフィコ横浜
 - 23) 竹林純: 一般的な野菜・果物のAOU-P値と、野菜・果物からの一日親水性抗酸化物質摂取総量の推算. 日本食品科学工学会第58回大会シンポジウム. 2011.9.10, 仙台
 - 24) 石見佳子: 第33回コーデックス栄養・特殊用途食品部会報告. 日本食物繊維学会産学協議会. 2012.3.16, 東京
 - 25) 梅垣敬三: 機能性食品の臨床薬理的展開と臨床応用 健康食品の安全性情報の正しい伝達の為に. 第32回日本臨床薬理学会年会. 2011.12.2, 浜松
- c. 一般講演等
- 1) 坪内美穂子, 徳留裕子, 後藤千穂, 今枝奈保美, 徳留信寛: 近赤外線分光画像計測法による血中ヘモグロビン測定濃度の妥当性 (2) —地域高齢者と大学生の比較—. 第58回日本栄養改善学会学術総会. 2011.9.10, 広島国際会議場 (広島市)
 - 2) Jiang Jin, Jia Zhifang, Cao Xueyuan, Li Yang, Tokudome S: Association analyses of PTPN11 polymorphisms with *Helicobacter pylori* seropositivity, gastric atrophy and gastric cancer. 第70回日本癌学会学術総会. 2011.10.4, 名古屋国際会議場 (名古屋市)
 - 3) Jia Zhifang, Jiang Jin, Cao Xueyuan, Li Yang, Tokudome S: Association of single nucleotide polymorphisms of DNMT1 gene and risk of gastric cancer in Northeast China. 第70回日本癌学会学術総会. 2011.10.4, 名古屋国際会議場 (名古屋市)
 - 4) Le Tran Ngoan, Tokudome S, Le Bach Mai, Koriyama C, Akiba S, Yoshimura T: Case-control study on stomach cancer risk in relation to *Helicobacter pylori*, GSTM1 and blood ABO types. 第70回日本癌学会学術総会. 2011.10.4, 名古屋国際会議場 (名古屋市)
 - 5) 鈴木貞夫, 永谷照男, 小嶋雅代, 荒井健介, 辻村尚子, 藤田ひとみ, 今枝奈保美, 柴田清, 後藤千穂, 服部奈美, 細野晃弘, 徳留信寛: たばこ値上げ前後における岡崎研究参加者の禁煙率の変化. 第70回日本公衆衛生学会総会. 2011.10.20, 秋田アトリオン (秋田市)
 - 6) 鈴木貞夫, 小嶋雅代, 西山毅, 荒井健介, 辻村尚子, 藤田ひとみ, 今枝奈保美, 服部奈美, 柴田清, 後藤千穂, 安藤亮介, 細野晃弘, 深津満, 山田珠樹, 徳留信寛: 出生体重とメタボリック

- シンドローム関連疾患既往との関連. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 27, 学術総合センター・一橋記念講堂(東京)
- 7) 細野晃弘, 鈴木貞夫, 小嶋雅代, 西山毅, 荒井健介, 辻村尚子, 藤田ひとみ, 今枝奈保美, 服部奈美, 柴田清, 後藤千穂, 安藤亮介, 深津満, 山田珠樹, 徳留信寛: 自覚的な幸福感に関連する要因について. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 27, 学術総合センター・一橋記念講堂(東京)
 - 8) 荒井健介, 鈴木貞夫, 小嶋雅代, 西山毅, 細野晃弘, 辻村尚子, 藤田ひとみ, 今枝奈保美, 服部奈美, 柴田清, 後藤千穂, 安藤亮介, 深津満, 山田珠樹, 徳留信寛: ストレスとサプリメント摂取の関連についての横断研究. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 27, 学術総合センター・一橋記念講堂(東京)
 - 9) 藤田ひとみ, 鈴木貞夫, 小嶋雅代, 西山毅, 荒井健介, 辻村尚子, 今枝奈保美, 服部奈美, 柴田清, 後藤千穂, 安藤亮介, 細野晃弘, 深津満, 山田珠樹, 徳留信寛, 杉浦眞弓: 流産経験者の特性についての検討. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 27, 学術総合センター・一橋記念講堂(東京)
 - 10) 安藤亮介, 鈴木貞夫, 永谷照男, 小嶋雅代, 安井孝周, 今枝奈保美, 服部奈美, 柴田清, 後藤千穂, 細野晃弘, 岡田淳志, 山田珠樹, 郡健二郎, 徳留信寛: 尿路結石の発症に影響をあたえる血清インスリンとインスリン抵抗性に関する臨床疫学研究. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 28, 学術総合センター・一橋記念講堂(東京)
 - 11) 辻村尚子, 鈴木貞夫, 小嶋雅代, 西山毅, 荒井健介, 藤田ひとみ, 今枝奈保美, 服部奈美, 柴田清, 後藤千穂, 安藤亮介, 細野晃弘, 深津満, 山田珠樹, 徳留信寛: 地域住民の転倒経験者の特性. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 28, 学術総合センター・一橋記念講堂(東京)
 - 12) 坪田(宇津木)恵, 大久保孝義, 菊谷昌浩, 福島直美, 栗本鮎美, 今井絵理, 目時弘仁, 浅山敬: 地域在宅高齢者の食事パターンと高次生活機能低下との関連: 岩手県大迫町における7年間の追跡から. 第22回日本疫学会学術総会. 2011. 1. 27, 東京都
 - 13) 笠岡(坪山)宜代, 中西朋子, 佐藤陽子, 瀧沢あす香, 石見佳子, 梅垣敬三, 芝池伸彰: ダイエタリーサプリメントおよびいわゆる健康食品等に関連したリスク情報の諸外国での発信状況に関する研究. 第65回日本栄養食糧学会. 2011. 5. 14, 東京
 - 14) 白鳥明日香, 小林謙一, 山本祐司, 田所忠弘, 山内淳: β カロテンからレチナールへの変換に関わる酵素BCM01のレチノイン酸による遺伝子発現制御機構の解析. 第65回日本栄養・食糧学会大会. 2011. 5. 15, お茶の水女子大学(東京)
 - 15) 関口真理子, 山内淳: ビタミンDのMAPキナーゼを介した作用発現メカニズムの解析. 第65回日本栄養・食糧学会大会. 2011. 5. 15, お茶の水女子大学(東京)
 - 16) 山内淳, 白鳥明日香, 石見佳子: β -カロテン開裂酵素BCM01のレチノイン酸による遺伝子発現制御機構の解析. 日本ビタミン学会第63回大会. 2011. 6. 4, 安田女子大学(広島)
 - 17) 三宅理江子, 大河原一憲, 高田和子, 森田明美, 田中茂穂: 糖尿病患者における基礎代謝量. 第58回日本栄養改善学会学術総会. 2011. 9. 9, 広島
 - 18) 高橋東生, 旭久美子, 猿倉薫子, 高橋博子, 田中弘之, 円谷由子, 西信雄, 原島恵美子, 松下由美, 横山徹爾, 田中平三: 携帯電話による写真撮影映像を用いた24時間食事思い出し法の妥当性. 第58回日本栄養改善学会. 2011. 9. 9, 広島県
 - 19) 山本静香, 下浦美佐子, 荒井裕介, 野末みほ, 猿倉薫子, 西信雄, 由田克士: 健常女性高齢者における栄養素等摂取量・食品群別摂取量と身体状況に関する検討. 第58回日本栄養改善学会. 2011. 9. 10, 広島県
 - 20) 滝沢あす香, 桑木泰子, 細川裕子, 笠岡(坪山)宜代: 諸外国の栄養士制度と健康リスクに関する研究. 第58回日本栄養改善学会. 2011. 9. 10, 広島
 - 21) 西信雄, 中出麻紀子, 猿倉薫子, 野末みほ, 坪田(宇津木)恵, 三好美紀, 卓興鋼, 荒井裕介, 由田克士, 吉池信男: 国民健康・栄養調査データからみた食塩摂取量の地域差に関連する要因. 第70回日本公衆衛生学会総会. 2011. 10. 20, 秋田
 - 22) 中出麻紀子, 野末みほ, 猿倉薫子, 荒井裕介, 由田克士, 西信雄: 国民健康・栄養調査の結果からみた朝食欠食の改善に必要な個人的要因および環境要因. 第70回日本公衆衛生学会. 2011. 10. 20, 秋田県
 - 23) 石川みどり, 草間かおる, 野末みほ, 水元芳, 三好美紀: 青年海外協力隊(JOCV)栄養士の派遣前後の職場の変化と活動内容との関連に関する検討. 第26回日本国際保健医療学会学術大会. 2011. 11. 5, 東京都
 - 24) 今井絵理, 坪田(宇津木)恵, 大久保孝義, 菊谷昌浩, 福島直美, 栗本鮎美, 目地弘仁, 浅山敬, 今井潤: 動物由来たんぱく質摂取と高次生活機能低下との関連: 岩手県大迫町における7年間の追跡から. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 28, 東京都
 - 25) 片桐諒子, 森田明美, 佐々木敏, 渡邊昌, 宮地元彦, 饗場直美, 出浦喜丈: 健診受診者の運動・栄養介入における体重減少に関与した食品群の検討—Saku Control Obesity Program (SCOP) 一—. 第22回日本疫学会学術総会. 2012. 1. 28, 東京
 - 26) 西信雄, 中出麻紀子, 猿倉薫子, 野末みほ, 坪田(宇津木)恵, 三好美紀, 卓興鋼, 由田克士,

- 吉池信男：国民健康・栄養調査の個人単位の協力率。第22回日本疫学会学術総会。2012. 1. 28 , 東京
- 27) 伊藤千夏, 金子佳代子, 高田和子, 古泉佳代, 渡邊桜子, 梅田有希子：小・中・高校生の基礎代謝量、基礎代謝基準値の検討。第65回日本栄養・食糧学会大会。2011. 5. 14 , 東京
- 28) 熊江隆, 古泉佳代, 金子佳代子：ディポサイトカイン濃度に及ぼす影響に関する研究。第65回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集。2011. 5. 15 , お茶の水女子大学（東京都文京区）
- 29) 鎌田裕子, 市原典子, 高田和子, 難波和美, 揚村和英, 藤井正吾：新厚生ALS患者における適正栄養の検討。第65回栄養・食糧学会大会。2011. 5. 15 , 東京
- 30) 熊江隆, 鈴川一宏, 水野増彦：大学短距離選手の生活環境の違いが栄養素摂取状況と強化合宿による主観的疲労度の変動に及ぼす影響。第21回体力・栄養・免疫学会プログラム・抄録集。2011. 8. 27 , 北里大学（東京都港区）
- 31) 梶 忍, 熊江隆, 櫻村修生：東京都S区における基本健康診査受診者の結果から見た中年期の身体特性、血圧、血液生化学検査値及び生活習慣に関する横断研究。第21回体力・栄養・免疫学会プログラム・抄録集。2011. 8. 27 , 北里大学（東京都港区）
- 32) 石井好二郎, 海老根直之, 中江悟, 宮崎亮, 宮崎志帆, 島田淳子：グリセミック指数の高低が1日のエネルギー消費量および酸化基質に及ぼす影響～ヒューマンカロリメーターによる検討～。第66回日本体力医学会大会。2011. 9. 下関市
- 33) 三宅理江子, 井上茂, 石橋弘子, 赤木達規, 高田和子, 田中茂穂：加速度計の装着/非装着の判定法。第66回日本体力医学会大会。2011. 9. 16 , 山口
- 34) 仲立貴, 田中千晶, 引原有輝, 安藤貴史, 薄井澄誉子, 佐々木令子, 田中茂穂：幼児における身体組成と体力特性。第66回日本体力医学会大会。2011. 9. 16 , 下関
- 35) 村上晴香, 家光素行, 真田樹義, 福典之, 丸藤祐子, 川上諒子, 宮地元彦：グレリンおよびレプチンレセプターの遺伝子多型と身体活動・運動行動との関連。第66回日本体力医学会大会。2011. 9. 17 , 山口
- 36) 鎌田裕子, 市原典子, 高田和子, 難波和美, 揚村和英, 藤井正吾：人工呼吸管理下の筋委縮性側策硬化症患者における適正な経管栄養管理方法の検討。第3回日本静脈慶兆栄養学会四国支部学術集会。2011. 9. 17 , 香川
- 37) 古泉佳代, 高田和子, 田中茂穂, 金子佳代子：中学生の身体活動レベルと日常生活における生活活動との関連。第66回日本体力医学会大会。2011. 9. 18 , 山口
- 38) 染谷由希, 藤田淑香, 河合祥雄, 高田和子, 代田浩之, 丸井英二：中高年期における体育学部同窓生の生活習慣と糖尿病。第66回日本体力医学会大会。2011. 9. 18 , 山口
- 39) 緒形ひとみ, 小林英美, 岩山海渡, 日比壮信, 田中茂穂, 徳山薫平：ヒューマン・カロリメーターを用いた安静時代謝に関する基礎的検討。第32回日本肥満学会。2011. 9. 23 , 淡路夢舞台国際会議場
- 40) 鈴木洋子, 石塚典子, 清水弘行, 大坂寿雅, 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝, 井上修二：視床下部腹内側核(VMH)破壊肥満モデルではアディポネクチン(ADN)産生が亢進する。第32回日本肥満学会。2011. 9. 23 , 淡路市
- 41) 川上諒子, 村上晴香, 真田樹義, 田畑泉, 宮地元彦：特定健診の身体活動・運動に関する標準的な質問票による生活習慣病リスクの予測。第62回日本体育学会。2011. 9. 26 , 鹿児島県鹿児島市
- 42) 竹内亮, 久保田晃生, 高田和子, 太田壽城：高齢者における身体および社会活動の継続がQuality of Lifeの変化に及ぼす影響。第70回日本公衆衛生学会総会。2011. 10. 20 , 秋田
- 43) 大坂寿雅：視索前野へのグルタミン酸とGABA注入に対する体温調節系の反応。第39回自律神経生理研究会。2011. 12. 3 , 新宿区
- 44) 西本裕紀子, 惠谷ゆり, 宮谷秀一, 海老根直之, 中江悟, 位田忍：低身長児のエネルギー消費量と三大栄養素の摂取バランスに関する研究(第1報) - 二重標識水法による総エネルギー消費量の測定方法 -。第9回日本小児栄養研究会。2012. 3. 10 , 兵庫県西宮市
- 45) 西本裕紀子, 惠谷ゆり, 宮谷秀一, 海老根直之, 中江悟, 位田忍：低身長児のエネルギー消費量と三大栄養素の摂取バランスに関する研究(第2報) - 二重標識水法を用いた総エネルギー消費量と食事摂取基準値との比較 -。第9回日本小児栄養研究会。2012. 3. 10 , 兵庫県西宮市
- 46) 田中千晶, 田中真紀, 田中茂穂：小学生における日常の身体活動量と体型の関係。日本発育発達学会第10回記念大会。2012. 3. 17 , 名古屋学院大学（名古屋）
- 47) 梶 忍, 熊江隆, 櫻村修生：東京都S区における高齢者の基本健康診査結果と生活機能評価に関する横断研究。日本衛生学雑誌。2012. 3. 25 , 京都大学（京都市）
- 48) 熊江隆, 古泉佳代, 金子佳代子：牛乳摂取が女子大生の体格指標と血漿中アディポサイトカイン濃度に及ぼす影響。日本衛生学雑誌。2012. 3. 25 , 京都大学（京都市）
- 49) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 河合智子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝：中枢のIRS-2の糖代謝調節における役割の解明-脳特異的IRS-2欠損マウスを用いて-。第84回日本内分泌学会学術総会。2011. 4. 22 , 神戸
- 50) 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 井上真理子, 渡部拓, 西村正浩, 山内敏正, 植木浩二郎, 門

- 脇孝: 肝臓の糖・脂質代謝における IRS-1、IRS-2 の役割. 第84回日本内分泌学会学術総会. 2011. 4. 22, 神戸
- 51) 庄嶋伸浩, 原一雄, 堀越桃子, 高橋倫子, 岡畑純江, 藤田逸人, 野田光彦, 油谷浩幸, 大杉満, 窪田直人, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: HIPK3(homeodomain interacting protein kinase 3) のインスリン分泌への影響. 第84回日本内分泌学会学術総会. 2011. 4. 22, 神戸
- 52) 岩部美紀, 山内敏正, 岩部真人, 窪田直人, 植木浩二郎, 門脇孝: アディポネクチン経路の動脈硬化における病態生理的意義の解明. 第84回日本内分泌学会学術総会. 2011. 4. 22, 神戸
- 53) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 大杉満, 窪田直人, 戸邊一之, 門脇孝: 新規小胞体ストレス調節因子 Sdf211 による摂食時の肝臓でのインスリン感受性調節作用の検討. 第84回日本内分泌学会学術総会. 2011. 4. 22, 神戸
- 54) 栗澤元晴, 植木浩二郎, 窪田直人, 山内敏正, 山下聡, 浅原弘嗣, 門脇孝: アディポネクチンによる抗糖尿病作用の新規メカニズム. 第84回日本内分泌学会学術総会. 2011. 4. 22, 神戸
- 55) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 井上真理子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞インスリンシグナル障害はインスリン依存性の骨格筋の糖取り込み障害を惹起する. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 56) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 河合智子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 中枢の IRS-2 の糖代謝調節における役割の解明-脳特異的 IRS-2 欠損マウスを用いて-. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 57) 熊谷洋紀, 高橋雄大, 窪田直人, 窪田哲也, 井上真理子, 河合智子, 門脇孝: プロスタサイクリン誘導体、ベラプロストナトリウムと低用量ピオグリタゾン併用による糖尿病改善作用の検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 58) 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 井上真理子, 渡部拓, 西村正治, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 肝臓の糖・脂質代謝における IRS1、IRS2 の役割. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 59) 渡部拓, 竹内倫徳, 窪田直人, 坂上慎二, 後藤知紗, 窪田哲也, 西村正治, 三品昌美, 門脇孝: インスリン感受性調節におけるインターロイキン33の役割について. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 60) 勝山修行, 大杉満, 田中治彦, 窪田直人, 植木浩二郎, 門脇孝: 内臓脂肪蓄積の指標はクランプ法によるインスリン抵抗性と相関する. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 61) 高本偉碩, 窪田直人, 中屋恵三, 熊谷勝義, 小畑淳史, 勝山修行, 窪田哲也, 北村忠弘, 植木浩二郎, 門脇孝: 膵β細胞の Tcf712 は膵β細胞量維持に重要な役割を果たしている. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 62) 岩部美紀, 山内敏正, 岩部真人, 窪田直人, 植木浩二郎, 門脇孝: AdipoR欠損マウスを用いたアディポネクチン経路の動脈硬化における病態生理的意義の解明. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 63) 中屋恵三, 窪田直人, 高本偉碩, 窪田哲也, 佐藤寛之, 勝山修行, 橋本信嗣, 後藤守兄, 城森孝仁, 植木浩二郎, 門脇孝: DPP-4阻害薬の2型糖尿病モデル動物に対する抗糖尿病作用. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 64) 小畑淳史, 窪田直人, 高本偉碩, 鈴木昌幸, 荻田仁士, 本田清史, 池田幸弥, 植木浩二郎, 門脇孝: 新規 SGLT2 阻害薬 CSG452 の *in vivo* における抗糖尿病作用の解析. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 65) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 岩根亜弥, 金子和真, 小林正稔, 栗澤元晴, 岡崎由希子, 大杉満, 窪田直人, 戸邊一之, 門脇孝: 新規小胞体ストレス調節因子 Sdf211 による肝臓でのインスリン感受性調節作用の検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 66) 栗澤元晴, 植木浩二郎, 金子和真, 窪田直人, 山内敏正, 小林正稔, 岩根亜弥, 笹子敬洋, 山下聡, 浅原弘嗣, 門脇孝: アディポネクチンによる新たなインスリン感受性亢進作用の同定. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 2011. 5. 21, 札幌
- 67) 高本偉碩, 窪田直人, 中屋恵三, 熊谷勝義, 小畑淳史, 勝山修行, 窪田哲也, 植木浩二郎, 門脇孝: 膵β細胞の Tcf712 は膵β細胞量維持に重要な役割を果たしている. 第11回 東京大学生命科学シンポジウム Today BIO 2011. 2011. 6. 1, 東京
- 68) 小畑淳史, 窪田直人, 高本偉碩, 植木浩二郎, 門脇孝: SGLT2 阻害薬の *in vivo* における抗糖尿病作用の解析. 第11回 東京大学生命科学シンポジウム Today BIO 2011. 2011. 6. 1, 東京
- 69) 窪田哲也, 窪田直人, 岩村智勝, 井上真理子, 佐藤寛之, 高本偉碩, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: PGI2アナログは血管内皮細胞のインスリンシグナルを介して肥満モデルマウスの骨格筋のインスリン依存性糖取り込みを改善する. 第29回肥満症治療学会学術集会. 2011. 6. 10, 京都
- 70) 窪田哲也, 窪田直人, 佐藤寛之, 岩村智勝, 井上真理子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: チアゾリジン誘導体の抗動脈硬化作用におけるアディポネクチンの役割の解明. 第32回 日本肥満学会. 2011. 9. 23, 兵庫
- 71) 窪田直人, 窪田哲也, 井上真理子, 岩村智勝, 佐藤寛之, 林高則, 高本偉碩, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 肝臓の糖・脂質代謝における

- IRS1、IRS2 の役割. 第32回日本肥満学会. 2011.9.23, 淡路
- 72) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 大杉満, 窪田直人, 戸辺一之, 門脇孝: 新規小胞体ストレス調節因子 Sdf211 による摂食時の肝臓でのインスリン感受性調節作用の検討. 第32回日本肥満学会. 2011.9.23, 淡路
- 73) 岩部美紀, 山内敏正, 岩部真人, 窪田直人, 植木浩二郎, 門脇孝: アディポネクチン経路の動脈硬化における病態生理的意義の解明. 第32回日本肥満学会. 2011.9.23, 淡路
- 74) 小島敏弥, 眞鍋一郎, 大石由美子, 佐々木努, 窪田直人, 北村忠弘, 門脇孝, 永井良三: 転写因子KLF5 はAgRP を抑制し摂食を調節する. 第32回日本肥満学会. 2011.9.23, 淡路
- 75) 勝山修行, 大杉満, 田中治彦, 高本偉碩, 窪田直人, 植木浩二郎, 門脇孝: 内臓脂肪蓄積の指標は高インスリン正常血糖クランプ法によるインスリン抵抗性と相関する. 第32回日本肥満学会. 2011.9.23, 淡路
- 76) 渡部拓, 竹内倫徳, 窪田直人, 坂上慎二, 後藤知紗, 辻野一三, 窪田哲也, 三品昌美, 門脇孝, 西村正治: インスリン感受性調節におけるインターロイキン33 の役割について. 第32回日本肥満学会. 2011.9.23, 淡路
- 77) 窪田直人, 窪田哲也, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞インスリンシグナル障害はインスリン依存性の骨格筋の糖取り込み障害を惹起する. 第61回日本体質医学会総会. 2011.10.8, 東京
- 78) 高本偉碩, 窪田直人, 小畑淳史, 熊谷勝義, 勝山修行, 窪田哲也, 北村忠弘, 植木浩二郎, 門脇孝: 膵β細胞のTcf712は膵β細胞量維持に重要な役割を果たしている. 第61回日本体質医学会総会. 2011.10.8, 東京
- 79) 庄嶋伸浩, 原一雄, 藤田逸人, 堀越桃子, 高橋倫子, 高本偉碩, 野田光彦, 油谷浩幸, 窪田直人, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: HIPK3 (homeodomain interacting protein kinase 3) のインスリン分泌への影響. 第61回日本体質医学会総会. 2011.10.8, 東京
- 80) 岩部美紀, 山内敏正, 岩部真人, 窪田直人, 植木浩二郎, 門脇孝: アディポネクチン受容体の動脈硬化における病態生理的意義の解明. 第61回日本体質医学会総会. 2011.10.8, 東京
- 81) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 大杉満, 窪田直人, 戸辺一之, 門脇孝: 新規小胞体ストレス調節因子 Sdf211 による肝臓でのインスリン感受性調節作用の検討. 第61回日本体質医学会総会. 2011.10.8, 東京
- 82) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 岩村智勝, 佐藤寛之, 林高則, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 中枢のIRS-2 の糖代謝調節における役割の解明-脳特異的IRS-2 欠損マウスを用いて-. 第61回日本体質医学会総会. 2011.10.8, 東京
- 83) 吉田真梨子, 山口一樹, 松尾祥子, 橋本唯史, 窪田直人, 若林朋子, 門脇孝, 岩坪威: 2型糖尿病とアルツハイマー病を結ぶ分子機構の解明. 第30回日本認知症学会学術集会. 2011.11. 東京
- 84) 高本偉碩, 窪田直人, 中屋恵三, 熊谷勝義, 小畑淳史, 勝山修行, 窪田哲也, 植木浩二郎, 門脇孝: 膵β細胞のTcf712は膵β細胞量維持に重要な役割を果たしている. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2011.11.5, 東京
- 85) 栗澤元晴, 植木浩二郎, 山内敏正, 窪田直人, 小林正稔, 金子和真, 山下聡, 浅原弘嗣, 春日雅人, 門脇孝: アディポネクチンによる抗糖尿病作用の新規メカニズム. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2011.11.5, 東京
- 86) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 河合智子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 中枢のIRS-2 の糖代謝調節における役割の解明-脳特異的IRS-2 欠損マウスを用いて-. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2011.11.5, 東京
- 87) 中屋恵三, 佐藤寛之, 窪田直人, 高本偉碩, 窪田哲也, 勝山修行, 橋本信嗣, 後藤尊兄, 城森孝仁, 植木浩二郎, 門脇孝: 肥満・インスリン分泌不全を呈する2型糖尿病モデル動物に対するDPP-4 阻害薬の長期投与効果. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2011.11.5, 東京
- 88) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 大杉満, 窪田直人, 戸辺一之, 門脇孝: 新規小胞体ストレス調節因子 Sdf211 による摂食時の肝臓でのインスリン感受性調節作用の検討. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2011.11.5, 東京
- 89) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 井上真理子, 河合智子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 骨格筋のインスリン感受性調節における血管内皮細胞のインスリンシグナルの役割の解明. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2011.11.5, 東京
- 90) 岩部美紀, 山内敏正, 岩部真人, 窪田直人, 植木浩二郎, 門脇孝: AdipoR 欠損マウスを用いたアディポネクチン経路の動脈硬化における病態生理的意義の解明. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2011.11.5, 東京
- 91) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 大杉満, 窪田直人, 戸辺一之, 門脇孝: 新規小胞体ストレス調節因子 Sdf211による摂食時の肝臓でのインスリン感受性調節作用の検討. 第47回日本肝臓学会総会. 2011.6. 東京
- 92) 岩村智勝, 窪田直人, 窪田哲也, 井上真理子, 佐藤寛之, 林高則, 高本偉碩, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 肝臓の糖・脂質代謝におけるIRS1、IRS2の役割. 第15回日本病態栄養学会年次学術集会. 2012.1.14, 京都
- 93) 飯塚陽子, 寺井 愛, 諏訪内浩紹, 羽田裕亮, 庄嶋伸浩, 岡崎啓明, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 無βリポ蛋白血症に糖尿病を合併した1例. 第585回日本内科学会関東地方会例会次第. 2012.2.11, 東京

- 94) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 河合智子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇 孝: 中枢のIRS-2は肝臓のインスリン感受性を調節する. 第26回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2012. 2. 17
- 95) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 大杉満, 窪田直人, 戸邊一之, 門脇孝: 新規小胞体ストレス調節因子Sdf211による肝臓でのインスリン感受性調節作用の検討. 第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2012. 2. 17, 名古屋
- 96) 岩部美紀, 山内敏正, 岩部真人, 窪田直人, 門脇孝: アディポネクチン受容体の動脈硬化における病態生理的意義の解明. 第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2012. 2. 17, 名古屋
- 97) 窪田哲也, 窪田直人, 佐藤寛之, 岩村智勝, 井上真理子, 林 高則, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇 孝: チアゾリジン誘導体はアディポネクチン依存性・非依存性に動脈硬化を抑制する. 第26回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2012. 2. 18, 名古屋
- 98) 小畑淳史, 窪田直人, 高本偉碩, 鈴木昌幸, 本田清史, 池田幸弥, 植木浩二郎, 門脇孝: 新規SGLT2 阻害薬Tofogliflozin のin vivo における抗肥満・抗糖尿病作用の解析. 第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2012. 2. 18, 名古屋
- 99) 桜井賛孝, 高本偉碩, 窪田直人, 熊谷勝義, 小畑淳史, 植木浩二郎, 門脇孝: 新たな脂肪細胞特異的Cre 発現マウスの作製と解析. 第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会. 2012. 2. 18, 名古屋
- 100) 横谷馨倫, 瀧優子, 篠塚和正, 山田静雄, 村田容常, 千葉剛, 梅垣敬三: 肝薬物代謝酵素誘導を介した*Coleus forskohlii*エキシとワルファリンの相互作用の検証. 日本薬学会第132年会. 2011. 3. 31, 札幌
- 101) 中西朋子, 佐藤陽子, 横谷馨倫, 千葉剛, 梅垣敬三: 「健康食品」の安全性・有効性情報(HFNet)の提供情報に関する意識調査. 第58回日本栄養改善学会学術総会. 2011. 9. 9, 広島
- 102) 横谷馨倫, 瀧優子, 佐藤陽子, 中西朋子, 千葉剛, 梅垣敬三: *Coleus forskohlii*エキシのマウス肝薬物代謝酵素誘導成分の検索. 第58回日本栄養改善学会学術総会. 2011. 9. 9, 広島
- 103) 佐藤陽子, 中西朋子, 横谷馨倫, 千葉剛, 石長孝二郎, 瀧本秀美, 梅垣敬三: 妊婦のサプリメント利用の実態調査. 第58回日本栄養改善学会学術総会. 2011. 9. 10, 広島
- 104) 只石幹, 三浦進司, 江崎治: 骨格筋PGC-1 α -b過剰発現が運動継続能力、VO₂maxに及ぼす影響. 第66回日本体力医学会大会. 2011. 9. 16, 下関市生涯学習プラザ(山口県)
- 105) 三浦進司, 只石幹, 江崎治: 運動による脂肪酸酸化亢進メカニズム. 第66回日本体力医学会大会. 2011. 9. 17, 海峡メッセ下関(山口県)
- 106) 江崎治, 只石幹, 三浦進司: 運動による脂肪酸酸化亢進メカニズム: 骨格筋LKB1-AMPK情報伝達系の関与. 第32回日本肥満学会. 2011. 9. 23, 淡路夢舞台国際会議場(兵庫県)
- 107) 江崎治, 三浦進司, 野田光彦: NEATの測定意義と脂肪燃焼の分子機序. 第32回日本肥満学会. 2011. 9. 24, 淡路夢舞台国際会議場(兵庫県)
- 108) 只石幹, 三浦進司, 江崎治: 骨格筋特異的PGC-1 α -b過剰発現による脂肪燃焼効率の向上. 第32回日本肥満学会. 2011. 9. 24, 淡路夢舞台国際会議場(兵庫県)
- 109) 亀井康富, 杉田聡, 赤池史子, 菅波孝祥, 金井紗綾香, 服部真季, 眞鍋康子, 藤井宣晴, 三浦進司, 江崎治, 小川佳宏: 骨格筋における核内受容体 RXR γ の糖代謝促進作用. 第32回日本肥満学会. 2011. 9. 24, 淡路夢舞台国際会議場(兵庫県)
- 110) 佐藤陽子, 中西朋子, 千葉剛, 石長孝二郎, 瀧本秀美, 梅垣敬三: 実態の把握を組み合わせた健康食品情報提供の取り組み. 第25回公衆衛生情報研究協議会研究会. 2012. 1. 20, 埼玉
- 111) 亀井康富, 江原達弥, 高橋真由美, 袁勳梅, 金井紗綾香, 山崎聖美, 江崎治, 菅波孝祥, 岡野正樹, 小川佳宏: 新生仔肝臓の脂肪合成遺伝子のDNAメチル化制御. 日本農芸化学会2012年度大会. 2012. 3. 25, 京都女子大学(京都)
- 112) 西出依子, 東泉裕子, 宮浦千里, 石見佳子: 大豆食品に含まれる機能性成分の脂肪細胞分化に対する影響. 第65回日本栄養・食糧学会大会. 2011. 5. 14, お茶の水女子大学(東京)
- 113) 鈴木佳織, 佐々木菜穂, 石見佳子, 梅垣敬三: 飲料ならびに健康食品に含まれる茶カテキン類の分析法について-電気化学検出-HPLC法とUV検出-HPLC法の比較. 第65回日本栄養・食糧学会大会. 2011. 5. 14, 東京
- 114) 竹林純, 沖智之, 松本輝樹, 坪田(宇津木)恵, 卓興鋼, 渡辺純, 後藤一寿, 陳健斌, 佐藤麻紀, 石見佳子: 一般的な野菜・果物及び市販飲料のH-ORAC 値及びそれらからの親水性抗酸化物質質一日摂取量の推算. 第65回日本栄養・食糧学会大会. 2011. 5. 15, お茶の水女子大学(東京)
- 115) 東泉裕子, 安部文子, 石田達也, 上原万里子, 石見佳子: ダイゼインとレジスタントスターチの併用摂取が骨粗鬆症モデルマウスのエクオール産生能および骨量減少に及ぼす影響. 第65回日本栄養・食糧学会大会. 2011. 5. 15, お茶の水女子大学(東京)
- 116) 上野友美, 小野田敦子, 阿比留康弘, 内山成人, 石見佳子: 日本人におけるエクオールの24時間尿排泄量を指標とした生理的範囲に関する調査研究. 第65回日本栄養・食糧学会. 2011. 5. 15, 東京
- 117) 君羅好史, 勝間田真一, 太田篤胤, 石見佳子, 鈴木和春, 上原万里子: フラクトオリゴ糖併用摂取による骨粗鬆症モデルマウスの骨量減少に対する大豆イソフラボン投与量低減の可能性.

- 第65回日本栄養・食糧学会. 2011. 5. 15, 東京
- 118) 松本輝樹, 鈴木春奈, 谷中かおる, 石見佳子: 室間共同試験による食品中ビタミンB12測定法の分析精度について. 日本食品化学学会 第17回総会・学術大会. 2011. 5. 20, 東京
- 119) 津田治敏, 松本輝樹, 石見佳子: 食品中のビタミン測定における微生物定量法の改良. 日本食品科学工学会 第58回大会. 2011. 9. 10, 東北大学
- 120) 東泉裕子, 上原万里子, 石見佳子: 閉経後女性におけるイソフラボン代謝産物の産生能に及ぼすフラクトオリゴ糖の影響—パイロットスタディー—. 第58回日本栄養改善学会. 2011. 9. 10, 広島
- 121) 渡辺純, 沖智之, 竹林純, 山崎光司, 石川(高野) 祐子: 食品の抗酸化能測定のための親油性・親水性抗酸化物質抽出法の検討. 日本食品科学工学会第 58 回大会. 2011. 9. 10, 仙台
- 122) 渡辺純, 竹林純, 沖智之, 山崎光司, 安井明美, 石川(高野) 祐子: 親油性ORAC測定法の改良による分析精度の向上. 日本農芸化学会2012年度大会. 2012. 3. 22, 京都
- 123) 横谷馨倫, 瀧優子, 山崎優子, 志村二三夫, 篠塚和正, 山田静雄, 村田容常, 鈴木佳織, 梅垣敬三: ダイエット関連ハーブ*Coleus forskohlii*のマウス肝臓薬物代謝酵素系に対する影響とその投与条件. 第65回日本栄養・食糧学会大会. 2011. 5. 14, 東京
- 124) 細井俊克, 古池直子, 廣田晃一: コーパスを活用した健康・栄養・運動関連英語ニュース語彙解析の試み. 第15 回日本医療情報学会春季学術大会. 2011. 6. 17, 千葉県千葉市
- 125) 高橋光明, 松本圭司, 鈴木悟, 塩澤圭祐, 豊泉樹一郎, 小菅和仁, 梅垣敬三, 山田浩: 健康食品摂取に伴う健康被害報告の因果関係評価法の構築: 改変評価票による信頼性評価. 第15回医薬品情報学会. 2011. 7. 23, 東京
- 126) 細井俊克, 古池直子, 廣田晃一: 健康関連英文ニュース・コーパスをもとにした英語教育用テキストの作成. 第31回医療情報学連合大会. 2011. 11. 21, 鹿児島県鹿児島市
- 127) 廣田晃一, 古池直子, 細井俊克: 野菜摂取量増加に及ぼす健康ニュースコミュニティサイトの効果. 第31回医療情報学連合大会. 2011. 11. 22, 鹿児島県鹿児島市
- 128) 古池直子, 細井俊克, 金田泰奈, 前島恵, 岡純, 廣田晃一: 若年層向け食育ゲームアプリケーションの開発. 第31回医療情報学連合大会. 2011. 11. 22, 鹿児島県鹿児島市
- 129) 水野勝貴, 豊泉樹一郎, 松本圭司, 中西悦郎, 丸浜伸一朗, 金剛, 塩崎恵美, 横地常広, 小菅和仁, 原田清, 梅垣敬三, 山田浩: パーキンソン病治療薬服用患者におけるリンパ球ビタミンC濃度測定について. 第32回日本臨床薬理学会年会. 2011. 12. 2, 浜松
- 130) 小野彩奈, 高橋光明, 松本圭司, 中西朋子, 佐藤陽子, 横山馨倫, 鈴木佳織, 豊泉樹一郎, 小菅和仁, 梅垣敬三, 山田浩: 健康食品摂取に伴う健康被害報告の因果関係評価法の構築 管理栄養士による信頼性評価. 第32回日本臨床薬理学会年会. 2011. 12. 2, 浜松
- 131) 瀧優子, 横谷馨倫, 山田静雄, 篠塚和正, 窪田洋子, 渡邊泰雄, 梅垣敬三: Warfarinの抗凝固作用に対するイチョウ葉エキスの影響. 第9回日本機能性食品医用学会. 2011. 12. 10, 吹田
- 132) 三好美紀, 山本茂: ベトナムにおける栄養人材養成の現状に関する検討. 第26回日本国際保健医療学会東日本地方会. 2011. 6. 18, 東京
- 133) 三好美紀, 石川みどり: 栄養部門の国際保健協力人材の継続的確保に向けた研修の現状とニーズについて. 第26回日本国際保健医療学会学術大会. 2011. 11. 5, 東京

2. 公的資金による研究

【厚生労働科学研究費補助金】

a. 研究代表者

- 1) 徳留信寛: 日本人の食事摂取基準の改定と活用に資する総合的研究. 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
- 2) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準・運動指針改定ならびに普及・啓発に関する研究. 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
- 3) 田中茂穂: エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究. 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
- 4) 渡邊 昌: 特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備群に対する保健指導効果の検証及び評価手法の開発に関する研究. 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
- 5) 竹林 純: 抗酸化物質大量摂取時の安全性評価: 運動の有用作用に及ぼす影響. 厚生労働省厚生労働科学研究費. 食品の安全確保推進研究事業.
- 6) 梅垣敬三: 健康食品の情報提供システム体制の構築と安全性確保に関する研究. 厚生労働省厚生労働科学研究費. 食品の安全確保推進研究事業.

b. 研究分担者

- 1) 森田明美: 日本人の食事摂取基準の改定と活用に資する総合的研究(研究代表者 徳留信寛). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
- 2) 笠岡(坪山) 宜代: 日本人の食事摂取基準の改定と活用に資する総合的研究(研究代表者 徳留信寛). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.

- 業.
- 3) 坪田 (宇津木) 恵: 日本人の食事摂取基準の改定と活用に資する総合的研究 (研究代表者 徳留信寛). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 4) 江崎 治: 日本人の食事摂取基準の改定と活用に資する総合的研究 (研究代表者 徳留信寛). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 5) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準・運動指針改定ならびに普及・啓発に関する研究 (研究代表者 渡邊 昌). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 6) 森田明美: 健康づくりのための運動基準・運動指針改定ならびに普及・啓発に関する研究 (研究代表者 渡邊 昌). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 7) 山田晃一: 健康づくりのための運動基準・運動指針改定ならびに普及・啓発に関する研究 (研究代表者 渡邊 昌). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 8) 高田和子: エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究 (研究代表者 田中茂徳). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 9) 徳留信寛: 東日本大震災被災者の健康状態等に関する調査 (研究代表者 林 謙治). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 厚生労働科学特別研究事業.
 - 10) 渡邊 昌: 肥満関連疾患のアジアと米国における遺伝疫学的検討とその対策に関する研究 (研究代表者 川上正舒). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 地球規模保健課題推進研究事業 (国際医学協力研究事業).
 - 11) 宮地元彦: 生活習慣病予防のための運動を阻害する要因とその原因別の対策に関する研究 (研究代表者 竹下克志). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 12) 宮地元彦: 生活習慣病予防活動・疾病管理による健康指標に及ぼす効果と医療費適正化効果に関する研究 (研究代表者 津下一代). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 13) 高田和子: 高齢者の経口摂取の維持ならびに栄養ケア・マネジメントの活用に関する研究 (研究代表者 葛谷雅文). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 長寿科学総合研究事業.
 - 14) 高田和子: チームによる効果的な栄養ケア・マネジメントの標準化をめざした総合的研究～大学一施設連携による研究基盤・人材育成システムの構築の試み～ (研究代表者 吉池信男). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 長寿科学総合研究事業.
 - 15) 高田和子: 筋ジストロフィーの治療拠点整備、包括的診療ガイドラインの研究 (研究代表者 小牧宏文). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 精神・神経疾患研究開発費.
 - 16) 石見佳子: 国際食品規格策定に係る効果的な検討プロセスの開発に関する研究 (研究代表者 里村一成). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 食品の安全確保推進研究事業.
 - 17) 西 信雄: 健康増進施策推進・評価のための健康・栄養モニタリングシステムの構築 (研究代表者 吉池信男). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 18) 西 信雄: 2010年国民健康栄養調査対象者の追跡開始 (NIPPON DATA2010) とNIPPON DATA80/90の追跡継続に関する研究 (研究代表者 三浦克之). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
 - 19) 西 信雄: 内臓脂肪蓄積を簡単に推定できる評価モデル式の開発とそのリスク評価に関する縦断研究 (研究代表者 松下由実). 厚生労働省厚生労働科学研究費. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業.
- 【文部科学研究費補助金】**
- a. 研究代表者**
- 1) 笠岡 (坪山) 宣代: 肥満・生活習慣病に対する魚介類含有アミノ酸の新規機能の解明. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
 - 2) 中出麻紀子: 親による子どもの頃の家庭での食育が若手成人の朝食欠食に及ぼす効果. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
 - 3) 村上晴香: 自発的身体活動・運動行動誘発におけるグレリン遺伝子多型の関連. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
 - 4) 田中茂徳: エネルギー消費量の変動要因に関する基礎的研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (A)
 - 5) 宮地元彦: 日本人の身体活動量に関与する環境・遺伝要因とその相互作用に関する網羅的研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (A)
 - 6) 大坂寿雅: 終板器官周囲のプロスタグランジン E2発熱機構を制御する神経伝達物質. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
 - 7) 井上真理子: ピオグリタゾン抗動脈硬化作用の in vivoにおける分子メカニズムの解明. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
 - 8) 窪田哲也: 肝臓における IRS-1, IRS-2の生理的・病態生理的役割の解明. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
 - 9) 三浦進司: 運動によるエネルギー代謝亢進のメカニズム. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
 - 10) 山崎聖美: 肥満・脂肪肝発症予防のためのPPAR

組織・サブタイプ特異性に関する網羅的解析。
文部科学省科学研究費。基盤研究（C）

- 11) 松本輝樹：機器分析を志向した簡便かつ迅速なビタミンB12分析法の開発と評価。文部科学省科学研究費。若手研究（B）
- 12) 竹林 純：食事からの抗酸化物質摂取総量の推算を可能とする食品の抗酸化能データベースの構築。文部科学省科学研究費。若手研究（B）
- 13) 山内 淳：インスリン抵抗性とビタミンA代謝のクロストーク。文部科学省科学研究費。基盤研究（C）
- 14) 梅垣敬三：ダイエット関連植物素材の安全性における主要栄養素の影響評価。文部科学省科学研究費。基盤研究（C）
- 15) 坪田（宇津木）恵：パーソナリティが食行動、および将来の身体的健康にどのような影響を及ぼすのか。文部科学省科学研究費。若手研究（B）
- 16) 大河原一憲：日常生活下における肥満抑制因子としての非運動性身体活動と24時間脂質酸化能の役割。文部科学省科学研究費。特別研究員奨励費
- 17) 田中憲子：体幹部骨格筋量の増大がメタボリック症候群の改善および介護予防に及ぼす影響。文部科学省科学研究費。特別研究員奨励費
- 18) 薄井澄香子：閉経後における肥満・サルコペニア予防のための運動がエネルギー基質選択に与える影響。文部科学省科学研究費。特別研究員奨励費
- 19) 中江悟司：食事摂取基準の活用に向けた有疾患小児および健常児におけるエネルギー必要量の評価。文部科学省科学研究費。研究活動スタート支援

b. 研究分担者

- 1) 宮地元彦：肥満関連遺伝子多型と運動および食事介入効果の検討（研究代表者 真田樹義）。文部科学省科学研究費。基盤研究（B）
- 2) 宮地元彦：遺伝子診断に基づく動脈硬化改善のための運動プログラムの開発（研究代表者 家光素行）。文部科学省科学研究費。挑戦的萌芽研究
- 3) 村上晴香：遺伝子診断に基づく動脈硬化改善のための運動プログラムの開発（研究代表者 家光素行）。文部科学省科学研究費。挑戦的萌芽研究
- 4) 高田和子：看護学生のコミュニケーション能力を高めるコーチング学習プログラムと評価方法の開発（研究代表者 井上清美）。文部科学省科学研究費。基盤研究（C）
- 5) 窪田哲也：新しい動物モデルを用いた心サルコイドーシスの画期的な早期診断法の開発（研究代表者 諸井雅男）。文部科学省科学研究費。基盤研究（C）
- 6) 石見佳子：健康成人における血中ビタミンD濃度と身体活動量及び心肺体力との関連（研究代

表者 曹 振波）。文部科学省科学研究費。基盤研究（C）

- 7) 西 信雄：労働者の健康と疾病休業におよぼすソーシャルキャピタルの意義に関する研究（研究代表者 小田切優子）。文部科学省科学研究費。基盤研究（C）
- 8) 卓 興鋼：アジア治療ネットワーク構築に向けた中国における治験実施体制の整備に関する研究（研究代表者 吉田佳督）。文部科学省科学研究費。基盤研究（B）

【その他の公的研究費】

a. 研究代表者

- 1) 石見佳子，西信雄，笠岡（坪山）宜代：超高齢化社会に適応可能な機能性宇宙食の開発とその応用。JAXAきぼう利用社会的課題対応FS。
- 2) 笠岡（坪山）宜代，高田和子，野末みほ，猿倉薫子：東日本大震災にかかる栄養改善活動。日本栄養改善学会。

b. 研究分担者

- 1) 坪田（宇津木）恵：成人の肥満予防としての共食の健康効果と社会文化的ドメインの日韓比較（研究代表者 饗場直美）。日本学術振興会。韓国との共同研究（NRF）。
- 2) 石見佳子，竹林 純：ダイズイソフラボンの骨粗鬆症予防効果に関する研究（研究代表者 吉川敏一）。農林水産省委託事業「農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発」。

3. 民間企業等の共同研究等

- 1) 石見佳子，森田明美，山内淳：閉経後女性におけるビタミンKの機能性評価に関する研究3。協和発酵バイオ株式会社共同研究。2011
- 2) 森田明美：生体インピーダンス法（BIA）を用いた皮下脂肪厚推定法に関する研究。株式会社タニタ。2011
- 3) 笠岡（坪山）宜代，廣田晃一，西信雄：メタボリックシンドロームを対象とした実食型フードモデルの有効性に関する研究。ニチレイ。2011
- 4) 笠岡（坪山）宜代：災害派遣管理栄養士・栄養士の活動記録調査。日本栄養士会。2011
- 5) 高田和子，朴 鍾薫，別所京子，吉田明日美：エネルギーフレックスから検討した肥満発症要因としてのエネルギーバランス。第8回花王健康科学研究費助成金。2011
- 6) 田中茂穂：エネルギー消費量および身体活動の評価に関する研究。オムロンヘルスケア株式会社。2011
- 7) 田中茂穂：「日常生活における活動量とエネルギー消費量」に関する共同研究。花王株式会社。2011
- 8) 田中茂穂：歩数計の機種の違いによって生じる歩数のずれを換算するシステムの開発。公益財

- 団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団 平成23年度調査研究助成. 2011
- 9) 窪田哲也: 2型糖尿病の肝臓における pathogenic paradox の解明 -肝臓特異的 IRS-1・IRS-2 欠損マウスを用いて-. 2011年 武田科学振興財団 医学系研究奨励金. 2011
 - 10) 窪田哲也: 動脈硬化症における血管内皮細胞のインスリン受容体基質-2の役割の解明. 公益財団法人 万有生命科学振興国際交流財団 研究助成金. 2011
 - 11) 窪田哲也: 2型糖尿病の肝臓における pathogenic paradox の解明 -肝臓特異的 IRS-1・IRS-2 欠損マウスを用いて-. 第20回(平成23年度) 公益財団法人 小野医学研究財団 研究助成金. 2011
 - 12) 山田晃一: 世間一般に流布している「肥満遺伝子」を再検証する -佐久コホートに於ける遺伝子多型解析とメタアナリシス. 平成23年度(財)総合健康推進財団 助成事業費助成金. 2012
 - 13) 三浦進司: 運動によるエネルギー代謝変化および抗肥満効果の分子機構解明. 2011年度武田科学振興財団医学系研究奨励継続助成(生活習慣病). 2011
 - 14) 山崎聖美: 大豆タンパク質 β -コングリシニンの非アルコール性脂肪肝発症予防及び治療効果と作用機序の解明: (財)不二たん白質研究振興財団. 2011
 - 15) 梅垣敬三, 佐藤陽子, 千葉剛: 健康食品事故に係る調査・分析業務. 消費者庁受託研究. 2011
 - 16) 永田純一: 食品機能性成分・栄養成分の生体利用に関する研究. 株式会社東洋新薬. 2011
 - 17) 石見佳子: 大豆イソフラボン代謝産物のエストロゲン欠乏による骨代謝および血管機能低下抑制作用におけるメカニズムの解明. 大塚製薬佐賀栄養研究所共同研究. 2011
 - 18) 石見佳子: 成長期におけるリコピンの骨代謝調節作用の立証. カゴメ総合研究所共同研究. 2011
 - 19) 梅垣敬三: 健康食品として多用されているハーブ類の肝臓薬物代謝酵素系に対する影響の検討. 特定非営利法人日本メディカルハーブ協会. 2011
 - 20) 卓興鋼: 中国における大豆たん白摂取による血中脂質濃度への効果. 不二製油株式会社. 2011
 - 21) 卓興鋼: 中国における大豆たん白摂取による血中脂質濃度への効果: 無作為化比較試験. (財)不二たん白質研究振興財団. 2011
 - 22) 卓興鋼: カテキンの体脂肪に対する効果確認予備試験. 株式会社伊藤園. 2011
 - 2011.5.24, 目白大学、東京
 - 2) 坪田(宇津木)恵: 食事摂取基準 考え方と活用. 藤女子大学 特別講演. 2011.7.22, 北海道
 - 3) 坪田(宇津木)恵: 2010年版食事摂取基準(総合演習II). 東京保健医療大学. 2011.9.13, 東京都
 - 4) 坪田(宇津木)恵: 管理栄養士基礎セミナー. 神奈川工科大学. 2011.12.3, 神奈川県
 - 5) 田中茂徳: 食事摂取基準論-エネルギー-. 女子栄養大学栄養学部二部. 2011.4.25, 女子栄養大学(駒込)
 - 6) 宮地元彦: 厚生労働省の運動・身体活動施策について. 生涯体育スポーツ学概論. 2011.7.21, 鹿屋体育大学
 - 7) 宮地元彦: 栄養疫学における身体活動. 女子栄養大学特別講義. 2011.9.9, 女子栄養大学
 - 8) 村上晴香: 特定保健指導の実際: 運動・生活活動指導のポイント. 国立保健医療科学院. 2011.9.26
 - 9) 村上晴香: 基礎健康科学実習. 静岡県立大学看護学部. 2011.10.4
 - 10) 村上晴香: 基礎健康科学実習. 静岡県立大学看護学部. 2011.11.1
 - 11) 村上晴香: エクササイズ・プログラミング. エクササイズ・プログラミング論. 2011.11.28, 立命館大学
 - 12) 石見佳子: 栄養の基礎. 東京理科大学薬学部特別講義. 2011.7.2, 野田市
 - 13) 竹林純: 活性酸素と食品の抗酸化機能. 生命システム科学特別講義. 県立広島大学, 2011.7.6, 庄原
 - 14) 永田純一: 食品機能学. 土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業. 2011.7.8, 高知大学
 - 15) 石見佳子: 食品機能学1. 神奈川県立保健福祉大学特別講義. 2012.2.11, 横須賀
 - 16) 石見佳子: 食品機能学2. 神奈川県立保健福祉大学特別講義. 2012.2.18, 横須賀
 - 17) 石見佳子: 食品機能学3. 神奈川県立保健福祉大学特別講義. 2012.2.19, 横須賀
 - 18) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメント について. 中部大学保健予防創薬基礎学特別講師. 2011.4.12, 名古屋
 - 19) 梅垣敬三: 特別用途食品・健康食品関連のデータベース活用と医薬品との相互作用. 女子栄養大学特別講義. 2011.6.22, 坂戸
 - 20) 梅垣敬三: 健康食品情報のとらえ方と最新情報. 慶應大学薬学部公開講座B. 2011.6.26
 - 21) 梅垣敬三: 素材成分の有効性のエビデンス -データベースの活用法-. 第4回神戸薬科大学健康食品講座. 2011.8.21, 神戸薬科大学
 - 22) 梅垣敬三: 食生活における機能性食品・健康食品とのつきあい方-将来の食の専門家として理解すべき事項-. 松本大学「食の課題解決に向けた質の高い学士の育成」講演. 2011.10.29, 松本
 - 23) Miyoshi M: Nutritional management in developing countries. JICA地域別研修「アジ

4. 研究所外での講義、講演等

【大学等における特別講義等】

- 1) 笠岡(坪山)宜代: 「食事摂取基準について」. 目白大学短期大学部生活学科「栄養と健康」.

- ア・太平洋州島嶼地域問題解決型の保険専門職人材育成」. 2011.10.25, 鹿児島大学. 鹿児島
- 24) Miyoshi M: "Role of dietitian in Japan" and "Nutritional Assessment in the field: Dietary Surveys". JICA(地域別)「アフリカ地域 女性指導者のための健康と栄養改善」コース, JICA帯広国際センター. 2011.11.24, 東京
- 25) 三好美紀: 世界の栄養問題の現状と課題: 管理栄養士としてどのように貢献できるか?. 千葉県立保健医療大学. 2012.1.19, 千葉市

【大学・研究所における研究セミナー等】

- 1) 徳留信寛: 震災被災者の健康と栄養の支援. 九州大学医学部衛生学教室同門会講演. 2011.5.28, 福岡県福岡市
- 2) 徳留信寛: 国の健康栄養行政と国立健康・栄養研究所. 名古屋学芸大学栄養科学科大学院セミナー. 2011.7.29, 愛知県日進市
- 3) 田中茂穂: 人における総エネルギー消費量の構成成分と肥満. 花王株式会社ヘルスケア食品研究所 社内講演会. 2011.8.8, 花王株式会社墨田事業所(東京)
- 4) 高田和子: 介護予防の立場からみた地域における栄養ケア・マネジメント. 栄養技術講習会、(社)東京都施設給食協会. 2012.1.17, 東京自治会館(東京都府中市)
- 5) 宮地元彦: 栄養情報担当者養成講座 健康科学・栄養学トピック. 2012.1.22, 慶応大学薬学部
- 6) 三浦進司: 身体活動や運動が生活習慣病を予防するメカニズム. 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科リサーチカンファレンス. 2011.10.25, 東京大学

【地方自治体、栄養士会等主催の講演会等】

- 1) 徳留信寛: 国の健康栄養行政と国立健康・栄養研究所. 平成23年度社団法人日本薬局協励会 新東海・愛知合同支部大会. 2011.10.26, 名古屋マリオットアソシアホテル、名古屋
- 2) 徳留信寛: 生活習慣病の予防とコントロール. 第54回日本歯周病学会日本学術会議共催市民講座. 2011.5.28, 福岡国際会議場. 福岡市
- 3) 笠岡(坪山)宣代: 「東日本大震災における被災地支援について」. 社団法人栃木県栄養士会 法人設立40周年記念講演会. 2011.7.9, 栃木県総合文化センター
- 4) 山内淳: 保健機能食品制度について. 東京都栄養士会 栄養指導従事者教育事業. 2011.7.26, 豊島区
- 5) 笠岡(坪山)宣代: 「震災からわかる食の大切さ」. 農林水産省関東農政局東京農政事務所消費生活課 ネットワーク交流会. 2011.7.27, 東京
- 6) 森田明美: 「給食施設における日本人の食事摂取基準を活用した食事計画と活用方法」. 給食施設栄養管理研修会 横浜市旭区福祉保健センター. 2011.9.21, 横浜市

- 7) 森田明美: 「栄養士が知っておきたい最新情報」. 栄養士技術講習会 豊島区池袋保健所健康推進課. 2011.9.28, 東京都豊島区
- 8) 猿倉薫子: 栄養改善推進中央研修会及び健康・栄養調査技術研修会. 2011.9.30, 秋田県
- 9) 野末みほ: 栄養改善推進中央研修会及び健康・栄養調査技術研修会. 2011.9.30, 秋田県
- 10) 猿倉薫子: 健康・栄養調査技術研修会. 2011.10.14, 沖縄県
- 11) 野末みほ: 健康・栄養調査技術研修会. 2011.10.14, 沖縄県
- 12) 猿倉薫子: 食生活における調査研究について. 千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課. 2011.11.30, 千葉県
- 13) 笠岡(坪山)宣代: 「非常時でも考えたい食事摂取基準をベースにした食のあり方」. 平成23年度 特定給食施設等栄養管理講習会 神奈川県鎌倉保健福祉事務所. 2011.12.9, 神奈川県
- 14) 笠岡(坪山)宣代: 「災害時の健康・栄養～食事摂取基準活用の観点から～」. 栃木県美南健康福祉センター 平成23年度第2回管内栄養士研修会. 2011.12.19, 栃木県小山庁舎
- 15) 笠岡(坪山)宣代: 「災害時における栄養食生活支援について～被災地における食生活支援の実際と食事摂取基準の活用～」. 印旛郡市保健指導者研究会栄養士部会研修会. 2012.2.6, 千葉県
- 16) 笠岡(坪山)宣代: 「災害発生時等非常時における栄養-食事摂取基準の観点から-」. 千葉県海匝健康福祉センター 給食施設講習会. 2012.2.27, 千葉県
- 17) 笠岡(坪山)宣代: 「非常時における食事摂取基準の活用の考え方」. 平成23年度宮城県栄養士研修会 宮城県保健福祉部健康推進課. 2012.3.21, 宮城県仙台市
- 18) 宮地元彦: 特定保健指導における運動・身体活動のポイント. 平成23年度特定健診・保健指導実践者育成研修会. 2011.4.26, 静岡県男女共同参画センター, 静岡
- 19) 村上晴香: 特定健診・特定保健指導における運動・身体活動指導. 財団法人 健康・体力づくり事業財団. 2011.5.13
- 20) 宮地元彦: ストレッチング、ウォーミングアップ・クーリングダウン. 平成23年度健康運動指導士養成講習会. 2011.5.25, 戸山サンライズ(新宿)
- 21) 高田和子: 子供のスポーツと食生活について. ぐんまスーパースポーツキッズプロジェクト 2011、(財)群馬県体育協会. 2011.6.11, 群馬県総合スポーツセンター(群馬県前橋市)
- 22) 田中茂穂: 栄養摂取と運動「身体活動量の定量法とその実際(1)(2)」. 平成23年度健康運動指導士養成講習会 前期 東京会場. 2011.6.13, 戸山サンライズ
- 23) 宮地元彦: 身体活動・運動に関する保健指導. 第5回人間ドック健診情報管理指導士研修会.

2011. 6. 17
- 24) 田中茂穂: 子どもの肥満—現状・問題点. 長野県栄養士会2011年度生涯学習研修会. 2011. 7. 23, 松本市総合社会福祉センター
- 25) 高田和子: 学校教育における食育の推進について. 平成23年度パワーアップ研修会、八王子市教育委員会. 2011. 7. 28, 八王子市教育センター (東京都八王子市)
- 26) 宮地元彦: 健康増進と高地環境. 小諸市. 2011. 8. 8, 小諸市役所他
- 27) 高田和子: スポーツ栄養学—食べる内容、量、時間—. 品川区体育指導委員会後期研修、品川区地域振興事業部. 2011. 10. 2, 五反田文化センター (東京都品川区)
- 28) 高田和子: 食生活改善のための保健指導技術. 平成23年度特定検診・保健指導実践者育成研修会、栃木県保険者協議会. 2011. 10. 6, 栃木県国民健康保険団体連合会
- 29) 高田和子: 栄養ケア・マネジメントのポイント. 在宅高齢者の食べることを支援するための栄養ケアチーム研修、平成23年度老人保健事業. 2011. 10. 8, 名古屋学芸大学 (愛知県日進市)
- 30) 宮地元彦: 健康づくりのためのウォーキング. さいたま市健康づくり公開講座. 2011. 10. 23, ラフレさいたま (さいたま市)
- 31) 田中茂穂: エネルギー代謝の計算. 第25回ACSMヘルスフィットネススペシャリスト教習ワークショップ. 2011. 10. 26, 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京)
- 32) 宮地元彦: スポーツ・運動の抗加齢医学的効果. 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会主催講習会. 2011. 11. 6, 大阪千里ライフサイエンスセンター
- 33) 村上晴香: 事例における運動指導のポイント. 公益社団法人 日本人間ドック学会. 2011. 12. 3
- 34) 田中茂穂: 身体活動による生活習慣病予防～エクササイズガイドを利用して～. 社団法人茨城県栄養士会 新生涯学習研修会. 2011. 12. 10, 茨城県立県民文化センター
- 35) 高田和子: 食生活マネジメント—個人の意識と街ぐるみの取り組み. 渋川市健康づくり支援のための市民対象シンポジウム、群馬大学. 2011. 12. 17, 子持社会体育館アリーナ (群馬県渋川市)
- 36) 高田和子: 栄養ケア・マネジメントのポイント. 在宅高齢者の食べることを支援するための栄養ケアチーム研修. 2012. 1. 21, 昭和女子大学 (東京都世田谷区)
- 37) 高田和子: 静岡は住むだけで長生き?. 第6回県民健康公開講座、静岡県総合健康センター. 2012. 2. 23, 静岡県三島市
- 38) 宮地元彦: 健康づくり施策推進のための運動基準・指針改定の方向性と手順. 平成23年度健康運動指導士養成校養成講座、主催 福岡大学スポーツ科学部. 2012. 2. 29, 福岡大学メディカルホール (福岡)
- 39) 高田和子: 運動基準の活用と高齢者のための運動基準. 平成23年度全国研究教育栄養士協議会研修会、日本栄養士会. 2012. 3. 4, 滋賀県彦根市
- 40) 宮地元彦: 健康づくりのための運動基準・運動指針 改定の方向性と手順. 平成23年度全国研究教育栄養士協議会研修会. 社団法人日本栄養士会 全国教育栄養士協議会. 2012. 3. 4, 滋賀県立大学 (彦根)
- 41) 高田和子: もう一度見直そう! 成長期における食生活. 渋川市少年スポーツ指導者研修会、渋川市教育委員会. 2012. 3. 11, 渋川市役所 (群馬県渋川市)
- 42) 千葉剛: 本当に効果があるのか? 「健康食品」～健康食品の有効性と安全性～. 消費生活教養講座、座間市役所. 2011. 10. 11, 座間市
- 43) 千葉剛: 健康食品 (サプリメント) と健康. 白浜町すこやか推進協議会. 2012. 2. 29, 和歌山県白浜町
- 44) 石見佳子: 「日本食品標準成分表2010」について. 東京都栄養士会. 2011. 4. 23, 東京
- 45) 石見佳子: 日本食品標準成分表2010—その活用法—. 島根県栄養士会. 2011. 5. 27, 松江市
- 46) 石見佳子: 日本食品標準成分表2010—内容と留意点—. 安房保健所管内栄養士会. 2011. 5. 31, 千葉県
- 47) 石見佳子: 日本食品標準成分表2010—その活用のために必要な情報—. 南多摩保健所. 2011. 6. 21, 多摩市
- 48) 石見佳子: 日本食品標準成分表2010改正目的から活用まで/栄養成分表示について. 東京都栄養士会栄養指導従事者教育事業. 2011. 7. 26, 豊島区
- 49) 石見佳子: 日本食品標準成分表2010の取扱い改訂のポイント. 東京都教育庁学校栄養職員等研修会. 2011. 8. 3, 豊島区
- 50) 石見佳子: 日本食品標準成分表2010について. 東京都福祉保健財団. 2011. 9. 15, 東京
- 51) 石見佳子: 「日本食品標準成分表2010」の概要. 特定給食施設栄養管理研修会 町田市保健所. 2011. 10. 3, 町田市
- 52) 石見佳子: 日本食品標準成分表の活用法について. 足立区足立保健所. 2011. 10. 13, 北千住
- 53) 梅垣敬三: 食事指導の際に必要なサプリメントに関する知識. 香取保健所管内栄養士会. 2011. 5. 23, 香取市
- 54) 梅垣敬三: 気になるダイエット食品から、食情報の選択を考え、その成分等からダイエットの危険を知ろう!. 杉並区区民生活部 すぎなみ地域大学. 2011. 6. 7, 杉並区
- 55) 梅垣敬三: 健康食品 (サプリメント) の正しい理解について. 和歌山県田辺地区衛生研究会. 2011. 6. 29, 田辺市
- 56) 梅垣敬三: 健康食品の安全性確保とその正しい活用法について. 和歌山県環境生活部県民局健康食品に関する指導者講習会. 2011. 6. 30, 和

- 歌山市
- 57) 梅垣敬三：健康食品の安全性について。東京都施設給食協会栄養技術講習会。2011.7.4，府中市
 - 58) 梅垣敬三：健康食品を過信しないで。横浜市消費生活総合センター消費生活教室。2011.7.29，保土ヶ谷区
 - 59) 梅垣敬三：食品の表示からわかる情報を食教育に生かそう！～情報提供のスキルをみがく～。小平保健所第6回栄養管理講習会。2011.8.2，小平市
 - 60) 梅垣敬三：健康食品の特徴と適切な活用方法。社団法人広島県栄養士会生涯学習研修会。2011.8.27，広島市
 - 61) 梅垣敬三：食品表示を読むために-健康増進法。札幌消費者協会平成23年度食品表示初級セミナー。2011.9.22，札幌市
 - 62) 梅垣敬三：健康食品の機能性、安全性の解釈と情報提供。(社)神奈川県栄養士会平成23年度指導者のための健康栄養セミナー。2011.10.1，横浜
 - 63) 梅垣敬三：今、注目の栄養成分について。足立区保健総合センター食生活講演会。2011.10.6，足立区
 - 64) 梅垣敬三：健康食品に頼りすぎていませんか。さいたま市平成23年度第1回サイエンスカフェ。2011.11.2，さいたま市
 - 65) 梅垣敬三：健康食品との上手なつきあい方。世田谷区消費者カレッジ消費生活講座。2011.11.22，世田谷区
 - 66) 梅垣敬三：健康食品の問題点と薬剤師の役割。社団法人東京都薬剤師会研修会。2011.11.23
 - 67) 梅垣敬三：健康食品の普及啓発方法。港区立消費者センター食の安全連絡会。2011.12.12，港区
 - 68) 梅垣敬三：サプリメントの有効性。特別区職員研修所平成23年度専門研修。2012.1.18，千代田区
 - 69) 梅垣敬三：健康食品の賢い使い方。岐阜市保健所平成23年度食品安全に関する意見交換会。2012.2.17
 - 70) 梅垣敬三：食事とサプリメントについて。大田区保健所地域で活動する栄養士等講習会。2012.3.1
 - 71) 梅垣敬三：健康食品の正しい知識と安全な利用方法とは。杉並区消費者センター消費者講座。2012.3.13，杉並区
- ナー。2011.9.1，愛知県
- 4) 野末みほ，猿倉薫子，大野尚子：食事しらべの使用法。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.1，愛知県
 - 5) 猿倉薫子：栄養摂取状況調査の進め方。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.5，福岡県
 - 6) 野末みほ：食品番号表の使用法（食品の選択と番号化について）。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.5，福岡県
 - 7) 猿倉薫子，野末みほ，大野尚子：食事調査聞き取りのポイント。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.5，福岡県
 - 8) 野末みほ，猿倉薫子，大野尚子：食事しらべの使用法。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.5，福岡県
 - 9) 猿倉薫子：栄養摂取状況調査の進め方。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.26，兵庫県
 - 10) 野末みほ：食品番号表の使用法（食品の選択と番号化について）。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.26，兵庫県
 - 11) 猿倉薫子，野末みほ，大野尚子：食事調査聞き取りのポイント。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.26，兵庫県
 - 12) 野末みほ，猿倉薫子，大野尚子：食事しらべの使用法。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.26，兵庫県
 - 13) 猿倉薫子：栄養摂取状況調査の進め方。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.10.5，東京都
 - 14) 野末みほ：食品番号表の使用法（食品の選択と番号化について）。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.10.5，東京都
 - 15) 猿倉薫子，野末みほ，中出麻紀子，大野尚子：食事調査聞き取りのポイント。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.10.5，東京都
 - 16) 野末みほ，猿倉薫子，中出麻紀子，大野尚子：食事しらべの使用法。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.10.5，東京都
 - 17) 笠岡(坪山)宣代：日本人の食事摂取基準2010年版～エビデンスから震災時の活用まで～。平成23年度栄養情報担当者（NR）研修会。2011.10.22
 - 18) 笠岡(坪山)宣代，坪田(宇津木)恵，今井絵理，森田明美，徳留信寛：日本人の食事摂取基準の理解・教育・活用～災害時の活用例も含めて～。厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「日本人の食事摂取基準の改定と活用」に資する総合的研究」班研究成果発表会。2011.10.10，国立健康・栄養研究所
 - 19) 田中茂穂：食事摂取基準を知るー特にエネルギーを理解するためにー。厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「日本人の食事摂取基準の改定と活用」に資する総合的研究」班研究成果発表会。
- 【研究所が主催・共催するセミナー等】
- 1) 猿倉薫子：栄養摂取状況調査の進め方。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.1，愛知県
 - 2) 野末みほ：食品番号表の使用法（食品の選択と番号化について）。健康・栄養調査技術研修セミナー。2011.9.1，愛知県
 - 3) 猿倉薫子，野末みほ，大野尚子：食事調査聞き取りのポイント。健康・栄養調査技術研修セ

- 2011.10.10, 国立健康・栄養研究所
- 20) 宮地元彦: メタボとロコモを予防・改善する運動・身体活動. 平成23年度栄養情報担当者(NR)研修会. 2011.10.30, フォレスト仙台(仙台市)
- 21) 江崎治: お酒(アルコール)はどの程度飲んでもだいじょうぶ?. 平成23年度 栄養情報者(NR)研修会. 2011.10.22, 日比谷公会堂(東京)
- 22) 石見佳子: 骨粗しょう症を予防する生活習慣. 平成23年度(独)国立健康・栄養研究所公開セミナー. 2012.2.25
- 23) 石見佳子: 食品の栄養・健康表示の現状と課題.(独)国立健康・栄養研究所NR研修会. 2011.12.4, 名古屋

【その他の講演会等】

- 1) 笠岡(坪山)宜代: 「きぼう利用社会課題解決テーマ 栄養状態モニタリングと食事摂取基準策定にむけた解析」. 第7回機能性宇宙食研究会. 2011.4.20, 東京
- 2) 中出麻紀子: IV健康教育(1)健康教育の理念と方法. 全日本病院協会. 2011.6.25
- 3) 笠岡(坪山)宜代: 「現代の食生活をどう考えるかー国際的に見た食の現状と課題ー」. 全国高等学校長協会 家庭部会 平成23年度 産業・情報技術等指導者養成研修. 2011.8.10, 実践女子大学、東京
- 4) 笠岡(坪山)宜代: 「食事摂取基準2010～エビデンスから被災地での活用まで～」. 第6回日本栄養改善学会若手の会夏期研修会「栄養とエビデンスを考える」. 2011.8.27, 金城学園大学愛知県
- 5) 森田明美: 「メタボを上手に改善するには」. 『第15回『人間ドッグの集い』 長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院. 2011.10.22, 長野県佐久市
- 6) 笠岡(坪山)宜代: 「災害時の栄養支援と食事摂取基準の活用」. 平成23年度茨城県高等学校教育研究会家庭部研究大会 茨城県高等学校教育研究会. 2011.11.7, 茨城県教育研修センター茨城県
- 7) 村上晴香: もっとカラダの中から美しく!楽しい健康クリニック. 聖徳大学. 2011.5.10
- 8) 宮地元彦: 特定健診・保健指導の理論と実践、健康運動指導士登録更新基礎講座. (財)健康・体力づくり事業財団. 2011.5.29
- 9) 宮地元彦: 健康づくりのための運動. 品川区保健所品川保健センター. 2011.6.8, 品川保健センター
- 10) 村上晴香: もっとカラダの中から美しく!楽しい健康クリニック. 聖徳大学. 2011.6.14
- 11) 宮地元彦: 避難生活におけるエコノミークラス症候群・自立度低下予防運動理論: 東日本大震災被災者支援講習会(復興支援チャリティー講習). 2011.6.15, 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 12) 宮地元彦: 特定健診・保険指導、介護予防等の理論と実際. (財)健康・体力づくり事業財団. 2011.6.18, 愛知県スポーツ会館
- 13) 宮地元彦: 身体活動からせまるアンチエイジング. 健康保険組合連合会東京連合会. 2011.6.24
- 14) 宮地元彦: 特定健診・保険指導、介護予防等の理論と実際. (財)健康・体力づくり事業財団. 2011.7.12, 国立オリンピックセンター
- 15) 宮地元彦: 特定健診・保険指導、介護予防等の理論と実際. (財)健康・体力づくり事業財団. 2011.8.6, 大阪つるやホール
- 16) 宮地元彦: 特定健診・保険指導、介護予防等の理論と実際. (財)健康・体力づくり事業財団. 2011.9.13, 国立オリンピックセンター
- 17) 宮地元彦: メタボとロコモ予防・改善のための運動・身体活動. セルフメディケーションを支援する会事務局. 2011.9.13
- 18) 宮地元彦: 健康長寿を目指す運動指導の実際. 日本健康文化振興会. 2011.10.7, 六本木アカデミーヒルズ
- 19) 村上晴香: もっとカラダの中から美しく!楽しい健康クリニック. 聖徳大学. 2011.10.11
- 20) 宮地元彦: 保険者の健康づくり-身体活動指導の基礎-. 丸井健康保険組合. 2011.10.20, 丸井健保会館(東京)
- 21) 高田和子: 健康を保持するための運動と栄養の設計. シニアの祭典、第1回シニアの祭典フォーラム・プログラム委員会. 2011.11.15, 幕張メッセ(千葉県幕張市)
- 22) 村上晴香: おいしくて元気になる食事. NPO法人健康早稲田の杜. 2011.11.18
- 23) 村上晴香: もっとカラダの中から美しく!楽しい健康クリニック. 聖徳大学. 2011.11.22
- 24) 高田和子: スポーツ栄養の基礎と栄養指導のポイント. TOKYOヘルスコレクション 日本栄養士会共同企画セミナー「管理栄養士・栄養士のためのスポーツ栄養講座」、日本健康産業新聞. 2012.3.16, 東京ビッグサイト(東京)
- 25) 窪田哲也: 2型糖尿病・メタボリックシンドロームにおける血管と骨格筋のネットワーク. 第4回臓器間ネットワークと血管生物学から読み解くメタボリックシンドローム研究会. 2011.5.7, 東京
- 26) 窪田直人: 血管内皮細胞に着目した新規骨格筋インスリン抵抗性の分子機構. 第4回北東北インスリン糖尿病学研究会. 2011.5.28, 盛岡
- 27) 窪田哲也: イベント予防のための包括的研究はどこまで進んだか: 筋肉における新たな糖取り込み調節機構の解明. Trans-BEAT no.13 [FOLLOW-UP] 本誌TOPICSのその後の展開を探る. 2011.6.1
- 28) 窪田直人: 高血圧治療の現状と課題. Young Physician Conference. 2011.6.8, 東京
- 29) 窪田直人: インスリン受容体基質(IRS)-2の血管合併症における役割ー血管内皮細胞を中心にー. 第17回糖尿病性神経障害を考える会.

- 2011.8.26, 東京
- 30) 窪田直人: 非アルコール性脂肪肝 (NAFLD) とインスリン抵抗性の分子機構. *Metabolic Digestive & Liver Diseases* 研究会. 2011.9.1, 東京
- 31) 窪田直人: 2型糖尿病の分子機構の解明に向けて. 臨床医のための基礎研究講座. 2011.9.21, 東京
- 32) Kubota T: Impaired Insulin Signaling in the Endothelial Cells Reduces Insulin-Induced Glucose Uptake by the Skeletal Muscle. *The 3rd Asian PAD Workshop*. 2011.10.8, Gyeongju, Korea
- 33) 窪田直人: 血管内皮細胞を介する骨格筋インスリン感受性機構の解明. *Diabetes Conferences for Clinicians*. 2011.10.14, 東京
- 34) 窪田直人: 糖尿病の疫学と最近のトピックス. 医師臨床研修「地域保健・医療」. 2011.10.28, 東京
- 35) 窪田直人: 2型糖尿病の分子機構—インスリン作用を中心に—. 臨床医のための基礎研究講座. 2011.10.29, 長野
- 36) Kubota T: Impaired Insulin Signaling in the Endothelial Cells Reduces Insulin-Induced Glucose Uptake by the Skeletal Muscle. *EPS Montreal International Diabetes Conference 2011*. 2011.11.20, Montreal, Canada
- 37) 窪田直人: 2型糖尿病の分子機構の解明に向けて. *Diabetes mellitus and Metabolism and Endocrine Update Meeting*. 2011.12.15, 千葉
- 38) 窪田直人: 2型糖尿病の病態と治療戦略—インクレチン関連薬の位置づけも含めて—. 第24回糖尿病病態代謝懇話会. 2012.2.18, 弘前
- 39) 窪田哲也: 2型糖尿病・メタボリックシンドロームにおける血管と骨格筋のネットワーク. 第31回 *Osaka Diabetes Forum -Evolution of Diabetes-*. 2012.2.23, 大阪
- 40) 窪田直人: 血管から糖尿病へ—インスリン抵抗性と血管障害の新しい知見—. 第46回糖尿病学の進歩. 2012.3.1, 盛岡
- 41) 窪田直人: 2型糖尿病の治療戦略—アクトスを中心に—. 練馬区医師会糖尿病治療研究会. 2012.3.21, 東京
- 42) 窪田直人: 2型糖尿病の治療戦略—経口糖尿病薬を中心に—. *糖尿病EXPERT MEETING*. 2012.3.23, 徳島
- 43) 窪田直人: 厳格な血糖管理を考える. *Young Physician Conference*. 2012.3.26, 東京
- 44) 江崎治: 運動の体内代謝改善効果—メカニズムとエビデンスをめぐる最新情報—. 第19回スポーツ栄養学研究会. 2011.5.14, お茶の水女子大学 (東京)
- 45) 千葉剛: 健康食品は効くのか?—健康食品の有効性・安全性—. ふくい・くらしの研究所. 2012.3.10, 福井市
- 46) 石見佳子: 食事・栄養指導法—骨づくりとカルシウム. 日本スポーツ栄養研究会. 2011.6.4, 東京
- 47) 竹林純: 食品の「抗酸化力表示」普及の課題と問題点. 健康博覧会 2011 ステージイベント (パネルディスカッション). 2011.6.7, 東京
- 48) 石見佳子: 健康づくりとビタミン・ミネラル—その有効性と安全性—. 第23回健康食品フォーラム 医療経済研究・社会保険福祉協会. 2011.6.15, 東京
- 49) 石見佳子: 機能性食品の動向. 日本食品分析センター技術成果発表会記念講演会. 2011.10.19, 渋谷区文化総合センター
- 50) 石見佳子, 二川健: 超高齢社会に適用可能な機能性宇宙食の開発とその応用. 日本航空宇宙学会第55回宇宙科学技術連合講演会. 2011.12.1
- 51) 梅垣敬三: 現代の食生活と健康食品. 日本創造経営協会. 2011.6.1, 東京
- 52) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの実態. 福岡市浦添クリニック第7回睡眠障害セミナー (市民公開講座). 2011.7.2, 福岡
- 53) 梅垣敬三: 健康食品. 日本エグジビションエキスポS65+トクホ振興特別企画「トクホ・フォーラム」. 2011.11.15, 千葉
- 54) 梅垣敬三: アドバイザリースタッフに関する調査研究. 医療経済研究・社会保険福祉協会第25回健康食品フォーラム. 2012.2.6

5. 政府関係機関審議会、委員会等

【厚生労働省等政府関連】

- 1) 笠岡(坪山)宣代: 厚生労働省 管理栄養士国家試験委員. 厚生労働省. 2011
- 2) 森田明美: 日本人の食事摂取基準策定検討委員. 2011
- 3) 森田明美: 国民・栄養調査企画解析検討会構成員. 2011
- 4) 森田明美: 食品安全委員会添加物専門委員. 2011
- 5) 高田和子: 介護予防マニュアル改定委員会. 厚生労働省. 2011
- 6) 田中茂穂: 幼児期運動指針策定委員会委員. 文部科学省. 2011
- 7) 宮地元彦: 厚生科学審議会次期国民健康づくりプラン策定専門委員. 厚生労働省. 2011
- 8) 宮地元彦: 健診・保健指導のあり方に関する検討会. 厚生労働省. 2011
- 9) 石見佳子: 食品安全委員会新開発食品専門調査会専門委員. 内閣府食品安全委員会. 2011
- 10) 石見佳子: 科学技術・学術審議会資源調査分科会専門委員. 文部科学省. 2011
- 11) 石見佳子: 薬事・食品衛生審議会臨時委員新開発食品調査部会員. 厚生労働省. 2011
- 12) 石見佳子: 消費者委員会新開発食品調査部会専門委員. 内閣府. 2011
- 13) 梅垣敬三: 薬事・食品衛生審議会臨時委員. 2011

- 14) 梅垣敬三: 消費者委員会専門委員. 2011
- 15) 梅垣敬三: 食品安全委員会専門委員. 2011
- 16) 西信雄: 次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会 (厚生科学審議会専門委員会). 厚生労働省. 2011
- 17) 西信雄: 健康日本 21 評価作業チーム. 厚生労働省. 2011
- 18) 西信雄: 国民健康・栄養調査企画解析検討会. 厚生労働省. 2011
- 19) 西信雄: 東日本大震災被災者の健康状態等に関する調査ワーキンググループ. 厚生労働省. 2011

【地方自治体等】

- 1) 田中茂穂: 「子供の体力向上調査分析部会」委員. 東京都教育庁. 2011
- 2) 田中茂穂: 東京都統一体力テスト分析委員. 東京都教育庁. 2011
- 3) 梅垣敬三: 東京都食品安全情報評価委員会委員. 2011

【その他】

- 1) 江崎治: 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所における人間を対象とする生物医学的研究倫理委員会 倫理委員会委員. 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所. 2011
- 2) 梅垣敬三: 独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員. 2011

6. 関連学術団体等への貢献

【理事等の役員】

- 1) 笠岡(坪山)宣代: 日本栄養士会 研究運営部会 部会長. 2011
- 2) 高田和子: 日本スポーツ栄養研究会理事. 2011
- 3) 高田和子: 東京都栄養士会監事. 2011
- 4) 熊江隆: 体力・栄養・免疫学会 理事. 2011
- 5) 熊江隆: 日本衛生学会 評議員. 2011
- 6) 石見佳子: 日本栄養改善学会理事. 2011
- 7) 石見佳子: 日本食物繊維学会常務理事. 2011
- 8) 石見佳子: 日本栄養・食糧学会関東支部常任幹事. 2011
- 9) 梅垣敬三: 日本栄養・食糧学会. 2011
- 10) 梅垣敬三: 岩手生物工学研究センター(特別参与・研究推進委員). 2011
- 11) 卓興鋼: (社)生命科学振興会 理事. 2011
- 12) 西信雄: 日本疫学会監事. 2011

【学会誌等の雑誌編集委員】

- 1) 坪田(宇津木)恵: Public Health Nutrition 雑誌編集委員. 2011
- 2) 笠岡(坪山)宣代: 日本栄養士会 論文委員. 2011
- 3) 森田明美: 臨床栄養 編集委員 医歯薬出版(株). 2011

- 4) 熊江隆: 体力・栄養・免疫学雑誌 編集委員. 2011
- 5) 高田和子: 日本栄養改善学会編集委員. 2011
- 6) 江崎治: 日本肥満学会誌「肥満研究」編集委員. 2011
- 7) Ezaki O: 「International Journal of Obesity」Editorial Board. 2011
- 8) Yamazaki T: Journal of Applied Toxicology, Editorial Board. 2012
- 9) 永田純一: 栄養学雑誌編集委員. 2011
- 10) 石見佳子: Journal of Bone and Mineral Metabolism, Editorial Board. 2011
- 11) 石見佳子: 栄養学雑誌編集委員. 2011
- 12) Taku K: Maturitas 編集委員. 2011
- 13) 西信雄: 日本疫学会雑誌 Journal of Epidemiology 編集委員. 2011
- 14) 西信雄: 日本公衆衛生雑誌編集委員. 2012

【その他】

- 1) 笠岡(坪山)宣代: 日本栄養士会 研究教育協議会 副協議会長. 2011
- 2) 笠岡(坪山)宣代: 日本栄養士会 栄養士制度検討会臨地実習500時間カリキュラムワーキング委員. 2011
- 3) 森田明美: 科学研究課題及び学術研究助成対象者の選考審査における専門委員財団法人すかいらくフードサイエンス研究所. 2011
- 4) 森田明美: 日本微量元素学会 栄養・毒性評価委員会評議員. 2011
- 5) 山内淳: 脂溶性ビタミン総合研究委員会委員. 2011
- 6) 笠岡(坪山)宣代: 日本栄養士会 国際交流委員. 2011
- 7) 高田和子: 日本体力医学会将来構想検討委員. 2011
- 8) 江崎治: 東京農芸大学大学院農学研究科学位論文審査委員. 2011
- 9) 西信雄: 日本行動医学会理事・評議員選挙 選挙管理委員. 2011

7. 併任、非常勤講師等

【厚生労働省等との併任】

該当無し

【大学の客員教授・非常勤講師等】

- 1) 野末みほ: 女子栄養大学 非常勤講師. 2011
- 2) 山内淳: 日本女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻(生化学). 2011
- 3) 笠岡(坪山)宣代: 人間総合科学大学大学院 非常勤講師 科目名: 分子栄養学特講. 2011
- 4) 森田明美: 人間総合大学人間科学部健康栄養学科 科目名: 「生活と環境」及び「生活習慣と健康」. 2011
- 5) 熊江隆: 関東学院大学人間環境学部非常勤講師. 2011

- 6) 熊江隆：東京農業大学 客員教授 東京農業大学短期大学部 客員教授. 2011
- 7) 宮地元彦：国立大学法人鹿屋体育大学客員教授. 2011
- 8) 宮地元彦：静岡県立大学非常勤講師（運動生理学）. 2011
- 9) 宮地元彦：早稲田大学生命医療工学研究所招聘研究員. 2011
- 10) 田中茂穂：お茶の水女子大学大学院 客員准教授. 2011
- 11) 田中茂穂：仙台大学 非常勤講師. 2011
- 12) 田中茂穂：公立大学法人首都大学東京 非常勤講師. 2011
- 13) 田中茂穂：早稲田大学スポーツ科学学術院 客員教授. 2011
- 14) 宮地元彦：筑波大学生命領域学際研究センター 客員研究員. 2011
- 15) 江崎治：広島大学医歯薬学総合研究科 非常勤講師. 2011
- 16) 江崎治：東京大学大学院総合文化研究科 客員教授. 2011
- 17) 三浦進司：首都大学東京 客員准教授. 2011
- 18) 三浦進司：首都大学東京大学院 非常勤講師. 2011
- 19) 石見佳子：東京農工大学客員教授. 2011
- 20) 石見佳子：早稲田大学スポーツ科学学術院客員教授. 2011
- 21) 石見佳子：東京理科大学薬学部客員教授. 2011
- 22) 梅垣敬三：十文字学園女子大学. 2011
- 23) 梅垣敬三：慶應大学薬学部. 2011
- 24) 梅垣敬三：日本薬科大学. 2011
- 25) 梅垣敬三：茨城大学. 2011
- 26) 三好美紀. お茶の水女子大学. 非常勤講師. 2011
- 27) 三好美紀：県立広島大学大学院. 非常勤講師. 2011
- 28) 三好美紀：聖母大学. 非常勤講師. 2011
- 29) 西信雄：国立大学法人東京大学医学部非常勤講師. 2011
- 30) 西信雄：国立大学法人愛媛大学非常勤講師. 2011

【その他】

- 1) 石見佳子，松本輝樹，山内淳：消費者庁業務協力. 2011
- 2) 熊江隆：財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター 平成23年度産業廃棄物に関する講習会講師. 2011
- 3) 田中茂穂：（独）科学技術振興機構 知財活用促進ハイウェイ評価委員会外部専門委員. 2011
- 4) 江崎治：独立行政法人国立国際医療研究センター病院 運動栄養肥満外来医師. 2011
- 5) 山崎聖美：独立行政法人国立環境研究所 客員研究員. 2011
- 6) 石見佳子：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 大課題評価会議外部

評価委員. 2011

- 7) 西信雄：日本疫学会第1回疫学サマーセミナー. コーディネーター. 2011

8. 国際貢献

【海外への派遣による科学・技術協力】

該当無し

【海外からの研究者の受け入れ・指導】

- 1) 田中茂穂：三次元加速度計を用いた子どもの日常生活における身体活動の評価. 若手外国人研究者招へい事業. 2011
- 2) 三好美紀，西信雄，宮地元彦，田中茂穂：平成23年度JICA国別研修（エチオピア）「母子栄養改善プロジェクトカウンターパート研修」. 独立行政法人国際協力機構 東京国際センター. 2012

【国際会議への対応】

- 1) 石見佳子：栄養・特殊用途食品部会及び物理的作業部会. FAO/WHO合同食品規格委員会（コーデックス委員会）. 2011，ドイツ
- 2) 三好美紀：Japan-WHO Regional Consultation for Promoting Healthier Dietary Options for Children. WHO西太平洋地域事務局と国立保健医療科学院共催. 2012，埼玉

【その他】

該当無し

9. 知的財産権等

該当無し

IV 資 料

1. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標

独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 29 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所が達成すべき業務運営に関する目標(以下「中期目標」という。)を次のとおり定める。

平成 23 年 3 月 1 日

厚生労働大臣 細川律夫
内閣総理大臣 菅 直人

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所(以下「研究所」という。)は、人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関であることから、国民の健康・栄養状態及び QOL(生活の質)の向上に直接あるいは間接的に寄与することのできる調査及び研究を効率的に行い、国民の健康と福祉のために貢献することが重要である。

そのため、特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たすことを求める。

また、厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担うことを期待する。

第 1 中期目標の期間

独立行政法人通則法(以下「通則法」という。)第 29 条第 2 項第 1 号の中期目標の期間は、平成 23 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 3 号の国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項は、次のとおりとする。

1. 研究に関する事項

(1) 国の生活習慣病対策等の施策としてより効果的な反映が見込まれる研究に関する事項

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省及び地方自治体等における健康づくり施策に必要な科学的知見を集積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行うこと。

- ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究
- イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響、及び食

- 生活の改善施策に関する栄養疫学的研究
- ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究
- エ 科学技術基本計画に沿って、研究機関として独自性の高い基礎的・応用的研究を行うこと。
- オ 研究の成果をより広く社会に還元するために、食育推進基本計画に資する調査研究を推進し、専門家(管理栄養士等)への情報提供を行うこと。

(2) 研究水準及び研究成果等に関する事項

- ア 健康・栄養に関する施策、ガイドライン等の科学的根拠につながる質の高い研究を行い、研究成果を論文等を通じて社会に発信・還元を行うこと。
- イ 健康・栄養関連の専門家を対象としたセミナー、一般向けの講演会等を開催すること。
- ウ 研究所の一般公開を実施するとともに、中学校・高等学校等からの見学にも積極的に応じること。

(3) 研究実施体制等の整備に関する事項

- ア 独立行政法人という組織形態の利点を最大限活かした研究資金等の運用及び人的資源の配置により、研究・業務の効率化を図ること。
- イ 国内外の産業界を含む健康・栄養・食品関係の機関との共同研究の拡充等を目的として、研究所研究員の派遣及び他機関等の研究員の受入れをより積極的に行うこと。
- ウ 大学及び民間企業等との連携・協力により、研究者の交流を進め、人材の養成と資質の向上を図ること。
- エ 調査及び研究の円滑な実施が図られるよう、適切な措置を講ずるとともに、他機関との共同研究及び受託研究において、双方の研究施設及び研究設備の稼働状況に応じた共同利用を図ること。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項

- ア 国民健康・栄養調査の実施に関する事務のうち、集計事務については、「健康日本 21」、都道府県健康増進計画等の政策ニーズに適時対応して、迅速かつ効率的に集計を行うこと。

また、外部委託のより積極的な活用、高度集計・解析システムの活用等により効率化を図る。

イ 健康増進法第27条第5項(同法第29条第2項、第32条第3項及び第32条の3第3項において準用する場合を含む)の規定により収去した食品の試験業務を的確に実施すること。対応可能な試験(収去試験を含む。)について積極的に民間の登録試験機関の活用が図られるよう、検査方法の標準化、検査精度の維持・管理に一層重点的に取り組むこと。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項

ア 関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社会的・行政ニーズを把握すること。

イ ホームページ等を通じて国民からのニーズを把握すること。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項

ア 国際協力の対外的な業務については、政府関係部局との連携を強め、国際栄養協力体制を充実強化し、特にWHO研究協力センターとして指定を受けて、アジア地域における国際貢献と学術的ネットワークの構築を行うことにより、国際社会における役割を果たすこと。

イ 産学連携の対外的な業務については、政府関係部局との連携を強め、産学連携推進機能の強化により、産学連携をより一層進め、研究成果の社会への還元と知的財産の獲得を目指すこと。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項

栄養情報担当者(以下「NR」という。)認定制度については、既存の資格取得者の取扱い等について検討の上、第三者機関への業務移管を行うこと。

3. 情報発信の推進に関する事項

- (1) 研究所として総合的な情報発信を行うための体制を強化し、対外的な業務の推進を図ること。
- (2) 研究所の活動状況に関する情報をホームページを介して広く公開すること。
- (3) 研究所の諸活動及び研究業績については、研究所報告やニュースレターの刊行及び電子メディアでの配信により公開すること。
- (4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報の提供は、ホームページ等を活用し積極的に行うことにより、その充実を図ること。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

通則法第29条第2項第2号の業務運営の効率化に関する事項は次のとおりとする。

1. 運営体制の改善に関する事項

- (1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡を密にし、内部統制を強化すること。
- (2) 研究企画及び評価に関わる機能及び体制の強化を図り、研究業務の包括的、計画的な実施を進めること。
- (3) 業務の確実な実施のため、各研究・業務に関する内部進行管理及び評価を行うこと。
- (4) 法人運営に関して透明性を確保するとともに、国

民に向けての説明責任を全うするため、広報体制を強化し、迅速な情報公開に努めること。

- (5) 外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経費節減や現況資源の有効利用を進めること。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項

- (1) 業務効率化の観点から、研究部組織体制の見直しを行い、その最適化を図ること。
- (2) 民間団体、大学、地方公共団体、他府省等における調査研究との相互補完を図る観点から、重複・類似する研究を排除して研究の効率化を目指すとともに、他の研究機関との連携のあり方について検討を行い、連携・交流を強化することにより組織・研究の活性化を図ること。

3. 職員の人事の適正化に関する事項

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づく業務に対して適切に職員を配置し、効率的に研究業務を行うこと。なお、収去食品の試験業務における民間登録試験機関での試験導入に伴う要員の見直し及び、研究所におけるNR認定制度業務の廃止に伴う要員の合理化を図ること。
- (2) 研究職員の個人評価の結果を昇給・昇任等、給与面に反映させること。
- (3) 研究職員の流動化計画に沿って原則公募制・任期制により採用を行い、研究者層の向上を図ること。
- (4) 事務職員についても適切に評価を行い、資質の向上と業務の効率化を図ること。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項

- (1) 業務の効率化を図るため、事務書類の簡素化、電子化、事務作業の迅速化を進めるとともに、定型的な業務でアウトソーシング可能なものについては外部委託を行うこと。
- (2) 事務職員については、研修会やマネジメントセミナー等を通じ、研究所経営への参加意識を高めるとともに、業務意識の高揚を図ること。
- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図ること。

5. 評価の充実に関する事項

- (1) 毎年度内部評価委員会において、主要な研究業務に関して内部評価を実施すること。
- (2) 第三者による外部評価委員会により、年度計画の事前及び事後評価を行うこと。
- (3) 評価に関する結果は、ホームページで公開すること。
- (4) 研究職員について自己点検・評価を行うとともに、できるだけ客観的な指標に基づく評価を毎年実施すること。

6. 業務運営全体での効率化

- (1) 一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費は除く。)については、中期目標期間の最終年度までに、平成22年度を基準として10%以上の削減を達成すること。
- (2) 人件費については、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)、「経済財政運営と構造改革に関する基本

方針 2006」(平成 18 年 7 月 7 日)に基づき平成 18 年度からの 5 年間で平成 17 年度を基準として 5%以上削減するとした人件費改革の取組を平成 23 年度まで継続すること。また、総人件費についても、政府における総人件費削減の取組を踏まえ、厳しく見直すこと。

併せて、研究所の給与水準については、国家公務員の給与水準も十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、目標水準・目標期限を設定してその適正化に計画的に取り組むとともに、その検証結果や取組状況を公表すること。

(3) 業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、中期目標期間の最終年度までに、平成 22 年度を基準として 5%以上の削減を達成すること。

(4) 契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)に基づく取組を着実に実施すること。

なお、研究事業に係る調達については、透明性が高く効果的な契約の在り方を追求すること。

第 4 財務内容の改善に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 4 号の財務内容の改善に関する事項は、次のとおりとする。

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項

- (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金については、中期目標期間の最終年度までに研究資金の 50%以上の獲得を達成すること。
- (2) 各種研究から生じる知的財産(特許権等)の有効活用及び研究成果等の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の増加を図ること。

2. 経費の抑制に関する事項

- (1) 各部門において、常勤職員の人件費も含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図ること。
- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の節減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費の削減を図ること。

第 5 その他の業務運営に関する重要事項

通則法第 29 条第 2 項第 5 号のその他の業務運営に関する重要事項は、次のとおりとする。

(1) セキュリティの確保

「第 2 次情報セキュリティ基本計画」等の政府の方針を踏まえ、適切な情報セキュリティ対策を推進すること。

2. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画

独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第29条第1項の規定に基づき、平成23年3月1日付けをもって厚生労働大臣及び内閣総理大臣から指示のあった独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標を達成するため、同法第30条の規定に基づき、次のとおり、独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画を作成する。

平成23年3月31日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 徳留 信寛

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所(以下「研究所」という。)は、人々の健康・栄養状態及びQOL(生活の質)の向上への貢献という目的を踏まえ、短期的・中期的・長期的な視点から重点的に行う研究課題を選択するとともに、研究所の社会的役割を踏まえつつ、独自性の高い研究や将来に向けて発展が期待される萌芽的・創造的な研究の推進に努める。

特に、生活習慣病予防対策等、国民の健康づくり施策に科学的根拠を提供するための調査・研究を重点的に行うとともに、アジア諸国における健康科学・栄養学の発展に貢献すべく中心的役割を果たすよう努める。

第1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 国の生活習慣病対策等の施策としてより効果的な反映が見込まれる研究に関する事項を達成するための措置

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省及び地方自治体等における健康づくり施策に必要な不可欠な科学的知見を集積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行う。

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

運動・身体活動や適切な食事による生活習慣病の一次予防、身体活動や食事といった環境因子と遺伝的因子の相互作用の解明、並びに運動と食事とによるテーラーメイド予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた実験を行う。特に安全で効果的かつ実効性のある一次予防策開発に資する調査及び研究に特化・重点化する。

- a 運動・身体活動や適切な食事による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用効果等について、実験的、疫学的、文献的な調査及び研究を行う。これにより食事摂取基準、運動基準等を策定するための科学的根拠を提示する。
- b ヒトを対象として、遺伝因子と各栄養素摂取量、身体活動量、エネルギー代謝等との関係を明らかにし、生活習慣病発症の遺伝、環境リスクの相互作用を解明する。
- c 遺伝子改変動物を用いて、運動や食事指導によ

ってメタボリックシンドローム及び生活習慣病がいかにより予防されるのかを、遺伝子解析等による分子レベルでの機序解明を試み、運動と食事指導による生活習慣病のテーラーメイド予防法の開発に資する科学的根拠を提示する。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響、及び食生活の改善施策に関する栄養疫学的研究

日本人の食生活の多様性を科学的に評価するための指標及び調査手法を開発し、それが健康に及ぼす影響について疫学的な調査及び研究を行う。また、それらに基づく食生活改善法の開発と施策への提言を行う。特に日本人の食事摂取基準等の科学的根拠となるデータの蓄積と「健康日本21」の評価及び次期「健康づくり運動」策定への応用を目指す。

a 栄養に関する実践において最も基本的かつ重要な指針である「食事摂取基準」について、平成25年度に予定される改定作業開始に向け、系統的レビューを平成24年度まで重点的に行う。また、今後の改定に向けて、ヒトを対象とした疫学的研究及び基本的情報の収集等を継続的に行う。

b 「健康日本21」の最終評価及び次期「健康づくり運動」の策定に向けた、効果的で実効性のある運動・食事指導プログラムの開発と普及、国及び地方自治体等の施策の推進に資する研究を行うことが重要であることから、これらの手法の開発、国民健康・栄養調査の機能強化及びデータ活用に資する検討を行う。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

「健康食品」に含まれる食品成分の有効性及び健康影響に関して、実社会における使用実態等を把握するとともに、ヒトに対する影響を評価する手法を開発する。その結果を幅広く公開し、「健康食品」に関わるリスクコミュニケーションに資するデータベースの更新及び充実に継続して行う。

- a 「健康食品」等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、食品表示並びに食品成分の健康影響に関する調査研究を実施する。
また、「健康食品」摂取の安全性に関しては、動物実験及び細胞実験等による健康影響評価研究を実施し、これらに関する情報発信を行う。
- b 「健康食品」に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、それらの情報を効果的に国民に提供する。また、

「健康食品」の利用実態や有害事例に関連した調査研究を行う。

- エ 研究所の研究能力を向上させ、将来、その応用・発展的な展開を可能とするために、関連研究領域における基礎的・独創的・萌芽的研究を行う。
- オ 小児から高齢者までの生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育をより効果的に推進するための調査研究を行い、その成果を専門家（管理栄養士等）のみならず広く国民に情報提供し、行政機関等と協調して食育を推進する。

(2) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

調査及び研究の成果の普及を図るため、学術誌への学術論文の投稿、シンポジウム、学会等での口頭発表を行う。

これらについては、中期目標期間内に、学術論文の掲載を 400 報以上、口頭発表を 1,000 回以上行う。

なお、口頭発表は、海外においても積極的にを行う。

イ 講演会等の開催

健康・栄養関連の専門家向けのセミナー、幅広い人々を対象とした講演会等をそれぞれ年 1 回以上開催し、調査及び研究の成果を社会に還元する。

また、関係団体が実施する教育・研修プログラムへの職員の派遣を積極的に推進する。

一般及び専門家からの電話、メール等による照会等に対し、適切に対応する。

ウ 開かれた研究所への対応

幅広い人々に研究所の業務について理解を深めてもらうことを目的に、年 1 回オープンハウスとして研究所を公開する。

また、健康と栄養に興味を抱かせ、将来、栄養学研究を担う人材の育成に資するよう、「総合的な学習の時間」による中学・高校生等の見学を積極的に受け入れる。

(3) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

- ア 研究・業務の効率的な実施という観点から、研究員、研究補助員の配置を戦略的に行うとともに、重点化する調査研究及び法定業務に研究業務費を適切に配分し、確実な業務の執行に努める。

- イ 民間企業、大学、他の研究機関等との間で従前から実施している共同研究に加え、新たな共同研究等を積極的に推進するため、民間企業、大学等へ研究所研究員を派遣するとともに、資質の高い研究員を受け入れる。

また、非公務員化の利点を活用し、研究所が所有する知的財産の活用、又は所有する情報等を用いた共同研究を民間企業及び大学等と積極的に行うこととし、中期目標期間内に 60 件以上を目標とする。

- ウ 連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員を年間 100 名以上受け入れ、研究所が所有する情報・技術等を提供するとともに、研究員を広く大学院や関係機関等に年間 100 名以上派遣し、研究所の持つ情報・技術等を社会に還元する。

また、国内外の若手研究員等の育成に貢献するため、博士課程修了者、大学院生、他機関に属する研究員等を継続的に受け入れるための体制の充実を図る。また、連携大学を増やし、兼任教授の派遣を行うとともに、若手研究員の指導・育成を行うため、求めに応じ、研究所研究員を他機関へ派遣する。

- エ 施設・設備について、自らの研究実施のために実効的に活用するとともに、「独立行政法人国立健康・栄養研究所設備等利用規程」に基づき、大学、他研究機関との共同研究等での外部研究者等の利用に供する。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

- ア 国民健康・栄養調査の集計事務については、政策ニーズに対応した迅速かつ効率的な集計を行う。具体的には、当該年度の集計事務を調査票のすべてを受理してから 7 ヶ月を目途（ただし、調査項目に大幅な変更が生じない場合に限る。）に行う。

また、外部委託、高度集計・解析システムの活用等により、効率的な集計を行うことにより、経費の削減を図る。

さらに、都道府県等が行う健康・栄養調査に対する支援を含めて関連する技術的な事項について、研究所がより積極的に対応する。

- イ 健康増進法第 27 条第 5 項（同法第 29 条第 2 項、第 32 条第 3 項及び第 32 条の 3 第 3 項において準用する場合を含む。）の規定により収去した食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。

上記の試験並びに特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術の確立した試験については、登録試験機関における検査の精度管理に努める。

また、分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分への技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。さらに栄養表示基準における栄養成分について、分析方法の改良を行う。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

- ア 健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等から直接的に研究所に対する要望等を伺う機会を年 6 回程度設け、社会的ニーズを把握する。さらに、業務関連行政部局との間で、定期的な情報及び意見等を交換する場を設け、行政ニーズを把握する。

また、国、地方自治体、国際機関等より、専門的な立場からの技術的な協力、指導等の求めには積極的に応じて研究員を派遣し、研究所における調査及び研究の成果が適切に施策等に反映できるよう努める。

- イ 研究所に対する意見、要望等をホームページやセミナー等の参加者を通じて把握し、その内容を検討し、可能な限り業務に反映させる。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア アジア諸国との間で、栄養調査、栄養改善及び健康づくり等に関する共同研究において中心的な役割を果たすとともに、国際協力の対外的業務について政府関係部局との連携を強め、国際栄養協力体制を充実強化する。特に WHO 研究協力センター（現在申請中）の機能として、WHO 西太平洋地域における栄養調査の実施ならびに食事摂取基準や運動ガイドラインの策定等の技術支援を行う。

また、研究者養成及び共同研究の促進を図るため、「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」により、年間 2 名程度の若手研究者に研究所での研修機会を提供するとともに、アジア地域の研究者を交えたシンポジウムの開催等を行い、アジア地域における栄養学研究基盤の強化に寄与する。

イ 政府関係部局との連携を強め、民間企業、大学等の複合的な連携を強化する。

これにより、研究所の研究成果と社会ニーズの橋渡し、新たな展開・応用を図るとともに、知的財産の獲得を積極的に行う。

また、調査及び研究の成果については、それらが知的財産につながるかどうかのスクリーニングを行い、中期目標期間内に 20 件以上の特許等の出願を行う。

取得した特許権の実施を図るため、特許権情報のデータベースをホームページ上に公開する。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項を達成するための措置

栄養情報担当者(以下「NR」という。)認定制度については、既存の資格取得者、資格取得を目指している者及び栄養情報担当者養成講座の取扱い並びに移管に伴う経過措置等について検討し、第三者機関へ業務を移管する。

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措置

(1) 総合的な情報発信を効果的に実施するための内部組織の連携を充実させ、対外的な業務の推進を図るための組織整備を行う。

(2) ホームページによって研究所の活動状況を積極的に発信し、利用対象者を考慮した掲載内容の充実に努める。ホームページアクセス件数は、中期目標期間中、毎年 300 万件程度を維持させる。

(3) 研究所の諸活動及び研究業績については、毎年度 1 回研究報告としてとりまとめるとともに、最新の研究成果やトピックス等を紹介したニュースレターを年 4 回刊行する。

また、これらについては、ホームページ上で公開するとともに、電子メディアでの配信も行う。

(4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報の提供は、ホームページ等の充実を図り、積極的に行う。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

(1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡調整を密にし、内部統制を強化する。

また、研究所運営に対する研究所職員の意識を高めるため、研究所運営に関する必要な情報の共有化を図る。

(2) 研究部門間での連携を強め、異なる研究分野からの情報や研究手法を積極的に利用して戦略的な事業の立案・実施を図る。

(3) 調査及び研究業務の効率的かつ確実な推進を図るため、所内報告会等により各業務の進捗状況を把握し、適切な評価を行い、その結果を計画的・効率的な業務の遂行に反映させる。

また、所内イントラネットを活用し、業務の進捗状況管理等の効率化を図る。

(4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成 13 年法律第 140 号)に則り、積極的な情報公開を行う。

(5) 研究所の経営基盤の安定化のため、外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経費の節減や研究所の所有する設備等の有効利用を進める。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

(1) 重点化する調査研究及び法定業務に関して、業務量や集中的に遂行すべき時期等を勘案しながら研究及び業務チームを組織する。

非公務員型の利点を生かして柔軟に組織の見直し・改編を行うこととし、研究所の組織や研究内容を国民により分かりやすくするため、従来のプログラム、プロジェクト体制を研究部、研究室に改組する。

また、組織の見直し・改編後、毎年、その効果を検証するとともに検証結果を公表する。

(2) 民間団体、大学、地方公共団体、他府省等における調査研究との相互補完を図る観点から、重複・類似する研究を排除して研究の効率化を図る。他の研究機関との連携のあり方について検討を行い、研究員の連携・交流を進め、人材の養成と資質の向上に努めることにより、組織・研究の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

(1) 重点化する調査研究及び法定業務に対して適切に職員を配置し、効率的に研究業務を行う。

なお、収去食品の試験業務における民間登録試験機関での試験導入及び NR 認定制度業務の廃止に伴う要員の見直しや合理化を図る。

(2) 非公務員型のメリットを最大限に活かした柔軟な人事システムを構築し、研究職員の個人評価の結果を昇給・昇任等の処遇及び給与面に反映させる。

- (3) 研究員の採用に当たっては、「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、原則として公募制、任期付の採用を行う。

研究所が重点的に推進する調査及び研究業務が着実に成果が挙げられるよう、資質の高い人材を広く求める。また、資質の高い人材については、任期中の実績評価に基づき、任期を付さない形で採用を行う。

さらに、外国人及び女性研究者が業務に従事しやすい環境づくりを推進し、外国人及び女性研究者の採用も可能な限り行う。

- (4) 事務職員の質の向上を図るため、研究員と同様に評価を行うこととし、その評価システムとして研究所の人事評価制度に基づく総合的評価を行い、その結果を昇給・昇任等に反映する。

※人事に関する指標

期末の常勤職員数は、期初の 100% を上限とする。

(参考 1) 期初の常勤職員数 45 名

期末の常勤職員数 45 名 (以内)

(参考 2) 中期目標期間中の人件費総額

2,139 百万円 (見込)

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

- (1) 業務効率化の観点から、事務の迅速化、簡素化、電子化等を推進する。さらに、定型的な業務で外部委託が可能なものについては積極的に進める。
- (2) 事務職員については、研究所で働く者として必要な法令・知識を習得するための各種研修会やセミナー等への参加を充実させ、職員が働きやすく自己能力を最大限発揮できるような職場環境の整備を推進する。

これにより、研究所経営への参加意識を高め、職員の資質の向上及び業務効率化の一層の推進を図る。

- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図る。

5. 評価の充実に関する事項を達成するための措置

- (1) 毎年度内部評価委員会を開催し、主要な研究業務に関して、内部評価を実施し、研究業務の確実な実施及び効率化に資する。
- (2) 柔軟かつ競争的で開かれた調査及び研究環境の実現や経営資源の重点的・効率的配分に資するため、外部の専門家等の評価者による外部評価を毎年度 2 回程度実施する。
- (3) 内部及び外部評価結果は、ホームページ上で公表するとともに、組織や施設・設備の改廃等を含めた予算・人材等の資源配分に反映させる等、調査及び研究活動の活性化・効率化に積極的に活用する。
- (4) 研究員については、自己点検・評価を行うとともに、可能な限り客観的な指標に基づき評価を行う。また、理事長は自ら全研究員との面談を行い、

適切かつ公平な評価を行う。

さらに、評価の結果は各職員にフィードバックするとともに、所内イントラネットを活用して、各研究の研究業績を公開し、評価の透明性の確保に努める。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

- (1) 一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費を除く。)については、中期目標期間中、毎年度、2%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成 22 年度を基準として 10%以上の削減を達成する。

- (2) 人件費については、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成 18 年法律第 47 号)、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」(平成 18 年 7 月 7 日)に基づき平成 18 年度からの 5 年間で平成 17 年度を基準として 5%以上削減するとした人件費改革の取組を平成 23 年度まで継続する。また、平成 24 年度以降の総人件費についても、政府における総人件費削減の取組を踏まえ、厳しく見直すとともに、毎年度 1%以上の削減を行う。ただし、以下の人員に係る人件費は、上述の人件費改革における削減対象から除外する。

① 国からの委託費及び補助金により雇用される任期付研究者

② 運営費交付金により雇用される任期付研究者のうち、国策上重要な研究課題(第三期科学技術基本計画(平成 18 年 3 月 28 日閣議決定)において指定されている戦略重点科学技術をいう。)に従事する者及び若手研究者(平成 17 年度末において 37 歳以下の研究者をいう。)

さらに、給与水準については、国家公務員の給与水準も十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、その適正化に計画的に取り組む。なお、職員の給与水準については、21 年度の対国家公務員指数が 97.4 であることを踏まえ、この水準を引き続き維持することとして、その検証結果や取組状況を公表する。

- (3) 業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、中期目標期間中、毎年度、1%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成 22 年度を基準として 5%以上の削減を達成する。
- (4) 契約については、以下の取り組みによりその適正化を推進する。

ア 契約は、原則として一般競争入札等によることとする。

イ 「随意契約等見直し計画」に基づく取組を着実に実施し、その取組状況を公表する。

ウ 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、特に企画競争や公募を行う場合には、競争性、透明性が十分確保される方法により実施する。

エ 会計監事による定期的な監査により、入

- 札・契約の適正な実施について点検を受ける。
オ 契約監視委員会において、契約方式の妥当性及び競争性確保のための改善方策の妥当性等を事前審査する。

第3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

- (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金については、中期目標期間中、研究資金の50%以上を目標に積極的な獲得を図り、外部研究資金、その他の競争的資金の募集等に積極的に参加し、その増加に努める。
- (2) 各種研究から生じる知的財産(特許権等)の有効活用並びに研究成果、さらには国民健康・栄養調査結果等の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の増加を図る。

また、「独立行政法人国立健康・栄養研究所施設・設備等利用規程」に基づき、地域住民等への施設開放を行い、研究所の設備等の効率的な利用に努め、併せて自己収入の増加に寄与する。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

- (1) 各部門において、常勤職員の人件費を含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図る。
- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の削減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費の削減を図る。

第4 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙1のとおり。

2. 収支計画

別紙2のとおり。

3. 資金計画

別紙3のとおり。

第5 短期借入金の限度額

1. 限度額

100,000,000円

2. 想定される理由

- ア 運営費交付金等の受入れの遅延等による資金の不足
- イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給
- ウ その他不測の事態により生じた資金の不足

第6 重要な資産を譲渡、又は担保に供するときは、その計画

該当なし。

第7 剰余金の使途

- ア 研究環境の整備に係る経費
- イ 職員の資質向上に係る経費
- ウ 知的財産管理、技術移転に係る経費 等

第8 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

(1) セキュリティの確保

情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。

(2) 施設及び設備に関する計画

該当なし。

(3) 積立金処分に関する事項

該当なし。

(別紙 1)

中期計画 (平成 23 年度～平成 27 年度) の予算

(単位：百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	3,446
手数料収入	26
受託収入	316
栄養情報担当者事業収入	32
寄附金収入	42
雑収入	24
計	3,886
支出	
人件費	2,520
うち 基本給等	2,413
退職手当	107
一般管理費 (光熱水料、図書館関係経費等)	397
業務経費	553
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	50
食品収去試験等業務	19
栄養疫学プログラム	69
健康増進プログラム	68
臨床栄養プログラム	31
基礎栄養プログラム	50
食品保健機能プログラム	40
国際栄養協力事業	37
健康食品安全情報ネットワーク事業	102
健康栄養情報事業	87
受託経費	416
特別用途食品表示許可試験費	26
受託経費	316
栄養情報担当者事業経費	32
寄附研究事業費	42
計	3,886

[人件費の見積り] 期間中総額 2,139 百万円を支出する。

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

[運営費交付金の算定ルール] : 別紙 1-1

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 1-1)

運営費交付金の算定ルール

平成 23 年度以降、次の算定式による。

$\text{運営費交付金} = \text{人件費} + \text{一般管理費} + \text{業務経費} + \text{特殊要因} - \text{自己収入}$

- 人件費 = 1 人当たりの基本給等 (A) + 任期付若手研究者に係る人件費 (A') + 退職手当 (S)
 A : 基本給、諸手当、共済組合負担金等の人件費 (退職手当及び任期付若手研究者に係る人件費を除く) をいい、次の式により算出する。

$$A = \{[(P1 \times \alpha \times \beta) + (P2 \times \beta) + P3] \times \gamma 1\}$$

A : 当該年度基本給等

P1 : 前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けるもの

P2 : 前年度の基本給中給与改定の影響を受けるもの

P3 : 前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けないもの

 α : 運営状況等を勘案した昇給原資率 β : 運営状況等を勘案した給与改定率 $\gamma 1$: 効率化係数 (人件費) 0.9898

A' = 任期付若手研究者に係る人件費

S = 当年度の退職予定者及び前年度以前の予定外退職者に応じた当年度分退職手当額

- 一般管理費 = (一般管理費 (B) $\times \gamma 2 \times \delta$)

B : 前年度一般管理費

 $\gamma 2$: 効率化係数 (一般管理費) 0.979 δ : 消費者物価指数

- 業務経費 = (業務経費 (C) $\times \gamma 3 \times \delta$)

C : 前年度業務経費

 $\gamma 3$: 効率化係数 (業務経費) 0.9898 δ : 消費者物価指数

- 特殊要因 = 法令等の改正等に伴い必要となる措置又は現時点で予測不可能な事由により発生する資金需要であって、毎年度の予算編成過程において決定する。

- 自己収入 = 設備使用料収入、印税収入等の直接事業を実施しない収入について、過去の実績を勘案し決定する。

〔注記〕

1. α 、 β 、 δ については、各年度の予算編成過程において、当該年度における計数値を決める。
2. 中期計画全般にわたる予算の見積りに際しては、
 - ① α 、 β 、 δ については、伸び率を 0 と仮定した。
 - ② $\gamma 1$ (人件費の効率化係数) については、節減額 5% 分を 0.9898% と仮定した。
 - ③ $\gamma 2$ (一般管理費の効率化係数) については、節減額 10% 分を 0.979% と仮定した。
 - ④ $\gamma 3$ (業務経費の効率化係数) については、節減額 5% 分を 0.9898% と仮定した。

(別紙 2)

平成 23～27 年度収支計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
費用の部	3,910
経常費用	3,910
人件費	2,520
うち 基本給等	2,413
退職手当	107
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	397
業務経費	553
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	50
食品収去試験等業務	19
栄養疫学プログラム	69
健康増進プログラム	68
臨床栄養プログラム	31
基礎栄養プログラム	50
食品保健機能プログラム	40
国際栄養協力事業	37
健康食品安全情報ネットワーク事業	102
健康栄養情報事業	87
受託経費	416
特別用途食品表示許可試験費	26
受託経費	316
栄養情報担当者事業経費	32
寄附研究事業費	42
減価償却費	24
収益の部	3,910
運営費交付金収益	3,446
手数料収入	26
受託収入	316
栄養情報担当者事業経費	32
寄附研究事業費	42
雑収入	24
資産見返物品受贈額戻入	6
資産見返運営費交付金戻入	18
純利益	—
目的積立金取崩額	—
総利益	—

[注記] 当法人における退職手当については、役員退職手当支給基準及び国家公務員退職手当法（昭和 28 年法律第 182 号）に準じて支給することとなるが、その全額について運営費交付金を財源とするものと想定している。

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙3)

平成23～27年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	3,886
業務活動による支出	3,886
投資活動による支出	0
資金収入	3,886
業務活動による収入	3,886
運営費交付金による収入	3,446
手数料収入	26
受託収入	316
栄養情報担当者事業経費	32
寄附研究事業費	42
雑収入	24
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

3. 独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画

平成 23 年度の業務運営について、独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 31 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画を次のとおり定める。

平成 23 年 3 月 31 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 徳留信寛

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 国の生活習慣病対策等の施策としてより効果的な反映が見込まれる研究に関する事項を達成するための措置

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

a 運動基準、食事摂取基準等の改定のための科学的根拠の提示

①運動基準 2006 で示された身体活動量、運動量、体力の基準の妥当性について検討するための、大規模無作為割り付け介入研究を実施する。

②健康づくりのための運動基準 2006、エクササイズガイド 2006 改訂に資するための文献的研究を実施する。

③食事摂取基準に資するために、様々な生活習慣病と栄養摂取に関する文献的研究を実施する。

④「特定保健指導」における身体活動量評価ならびに身体活動・運動介入のプログラムを構築する。

⑤様々な特性(職業、運動習慣、生活環境、年齢など)を有する成人および小児を対象に、二重標識水法を用いて、1 日当たりの身体活動レベルおよび総エネルギー消費量のデータを蓄積する。それにより、食事摂取基準における推定エネルギー必要量の改定に資する資料を提供する。平成 23 年度は、特に座位中心の職業従事者や中学生における身体活動レベルの評価法を確立することを主な課題とする。

⑥ヒューマンカロリーメーターや活動量計などを用いて、特に幼児・小学生の身体活動内容(特に強度や歩行活動)を特定すること、身体活動がエネルギーバランスに与える影響を検討することにより、肥満の予防や解消に寄与する知見を獲得する。

⑦人間ドック受診者を対象とした大規模コホート研究を実施し、食事・身体活動・食行動意識、心理的要因等と生活習慣病発症との関連性や、運動と食事の保健指導効果について検討する。

b 生活習慣病発症における遺伝、環境リスクの相互作用の解明

①罹患同胞対法を用いた全ゲノム解析で 2 型糖尿病感受性領域としてマップされ、遺伝子の同定に至っていない染色体領域の解析や GWAS を用いて新たな 2 型糖尿病感受性遺伝子を同定する。

②複数のコホート研究において、これまでに明らかになった肥満や糖尿病関連遺伝子の生活習慣病発症への

寄与や、栄養・運動や食習慣との相互作用について明らかにする。

c 遺伝子改変運動等を用いたテーラーメイド予防法開発にむけた科学的根拠の提示

①高脂肪食が、糖尿病・メタボリックシンドロームを発症する分子メカニズムを解明するために、既に作製した遺伝子操作動物あるいは脂質過剰摂取生活習慣病モデル動物を用いてインスリン分泌のメカニズムや肝臓のインスリン抵抗性メカニズムについて検討する。さらに運動におけるインスリン抵抗性改善メカニズムについて検討し、糖尿病・メタボリックシンドロームの改善や予防法の開発につなげる。

②マクロニュートリエント(脂質、炭水化物、蛋白質等)の過剰、過少摂取で生じる生活習慣病の発症機序とそれらの予防、治療法に関する研究を行う。身体活動量増加とマクロニュートリエント摂取バランス、食品成分による生活習慣病予防機序の研究を中心に行う。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響、及び食生活の改善施策に関する栄養疫学的研究

a 食事摂取基準策定のための栄養疫学研究及び基本的情報の収集

①「食事摂取基準」に資するために、2010 年版策定時までの関係基礎資料をすべて収集・分類・解読し、データベースに登録する。また、策定の効率化や内容向上を目的として、文献のエビデンステーブルを作成する。今後の策定や普及・啓発事業において、当該データベースが十分活用されるよう、ホームページへの掲載および厚生労働省及び関係諸機関に必要十分な資料や技術の提供を行う。

②「日本人の食事摂取基準」(2010 年版)の普及・啓発事業に積極的に参画するとともに、普及啓発のための、ホームページ・書籍・資料・パンフレット等を作成する。また、海外への発信も含めて、報告書や資料の英訳等を進める。

③食事摂取基準の策定に資する基礎資料を得るための、ヒトを対象とした以下の栄養疫学研究および実験栄養学研究を実施する。

・地域在住高齢者及び介護施設入所者の栄養摂取状況やビタミン・ミネラル栄養状態を調査する。

・妊産婦の栄養摂取状態と骨代謝に関して、横断的・縦断的に検討する。

④栄養摂取状態の適切なアセスメント法を開発するための研究を実施する。

⑤食事に関連する生体指標(バイオマーカー)を確立するために、栄養成分の健康影響について以下の研究

を実施する。

・ビタミン A 及びビタミン D に着目して分子レベルで検討し、生体指標としての可能性を探る。

・閉経後女性を対象に、ビタミン K2 の骨代謝マーカー及びその他の生体指標に及ぼす影響を検討する。

b 国民健康・栄養調査の機能強化及びデータ活用に関する検討

「健康日本 21」の最終評価及び次期「健康づくり運動」の策定に向けて、効果的で実効性のある運動・食事指導プログラムの開発と普及を行うとともに、国民健康・栄養調査の機能強化とデータ活用を通じて、個人の生活習慣の改善を環境面から支援するための施策に資する研究を行う。

国や地方自治体の要請や必要性に応じて、国民健康・栄養調査ならびに自治体が独自に実施する健康・栄養調査の機能強化やデータ活用に関する技術支援を引き続き行う。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

a 「健康食品」等の素材成分に関する情報収集及び健康影響に関する調査研究

①抗酸化物質を含有するいわゆる健康食品等について、抗酸化力測定や消費者意識調査等による実態把握を行う。また、いわゆる健康食品中に含まれる抗酸化物質の大量摂取が健康に及ぼす影響について調査する。

②微生物定量法が主たる分析法として設定されている栄養成分に対する、効率的な分析法の開発を行い、妥当性確認を行う。また、測定成分の曖昧さにより分析法が確立されていない成分に関して、三大栄養素を中心に検討を行う。

③「健康食品」の表示並びに「健康食品」に含まれる微量栄養成分の栄養生理学上の調査・研究を行う。

④疾病モデル動物における「健康食品」素材の健康影響評価を行う。また、医薬品の効果や安全性に対する「健康食品」素材の影響を評価する。

⑤「健康食品」に利用されている成分の論文情報を収集し、メタ分析等によりその健康影響を評価する。

⑥食事条件との関連でダイエット関連のハーブの安全性を検討する。

b 「健康食品」に関する公正な情報の提供

①『「健康食品」の安全性・有効性情報 (hfnet)』サイトの掲載情報を継続的に更新するとともに、それらの情報の効果的な発信等に関連した調査研究を行う。また妊婦のサプリメント利用に関する調査と情報提供を行う。

②『特別用途食品・栄養療法エビデンス情報 (fosdu)』のサイトについても掲載情報を更新する。

エ 研究能力の向上のための措置

・他の研究機関における研究者との共同研究及び若手研究者の責任ある立場での研究への参画を積極的に促すことにより、研究所の研究能力を向上させ、その応用・発展的な展開を図る。

オ 効果的な栄養教育手法の開発

①内閣府における第 2 期食育推進計画の実施について、生涯にわたるライフステージに応じた食生活の問題点について、調査分析を行い、より効果的な食育施策の

形成・提示に努める。

②食育や栄養教育を推進する職能団体や自治体の事業に対し、効果的な食育や栄養教育に関する情報を提供しその活動を支援する。

(2) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

①研究成果については、できるだけ国際的な場での発表を目指し、査読付き学術論文 80 報以上、口頭発表 200 回以上を行う。

その際、原著論文については、インパクトファクターが 2.0 以上の学術誌に、30 報以上掲載されることを目指す。

なお、若手研究者による優れた研究成果の発表に対しては、競争的な事前審査により課題を選定し、海外渡航費の付与を行う。

②研究成果に係る著書・総説・解説を年間 200 報以上行う。

③国民の健康増進に寄与するため、調査研究の成果を発表するための講演を 200 回以上行うほか、マスメディアによる報道が、50 件以上となるよう報道情報の収集に努める。

イ 講演会等の開催

①「日本人の食事摂取基準 (2010 年版)」の普及・啓発のための講習会等にひきつづき講師を派遣するとともに、資料提供・企画支援を行う。

②一般向けの公開セミナー (第 13 回) を東京で開催する。研究で得られた成果を社会に還元するため、専門家向けのセミナーを他機関との連携による開催を含め 2 回程度行う。

③管理栄養士・栄養士等の研修や生涯教育のプログラムに対し、職員を積極的に派遣するとともに、連携も含めそれらのプログラムの企画等への支援を 3 回程度行う。

④外部からの電話やメールを介した問い合わせに適切に対応するとともに、問い合わせの多い事項についてはホームページ上の FAQ に反映させ、効率的な対応ができる体制の整備をさらに進める。

ウ 開かれた研究所への対応

・オープンハウス (研究所公開) を実施し、運動実験施設等における体験コーナーや食事・体力診断等を含めて、当研究所の研究・業務内容をより多くの人々に身近に知ってもらえるよう努める。また、所内見学等に積極的に対応し、小学生や中高生が健康や栄養に関して高い関心を持ち、正しい知識が普及出来る取り組みを行う。

(3) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

ア 研究業務を効率的に実施するための効果的な人員・予算の調整・確保

①法律に基づく業務及び重点調査研究の担当部門に対して、効率的に特別研究員や研究補助員を配置するとともに的確な予算配賦を実施し、戦略的かつ効率的な研究に取り組み着実な研究成果を求める。

②調査研究業務に付随する事務的作業の効率化を促進するために事務部内の研究支援体制の充実を図る。

③運営費交付金をはじめ競争的資金などの予算について、各研究業務の進捗状況及び費用並びに新たな課題を勘案しながら柔軟に配賦を行うなど効果的な取り組みを行う。

イ 産学連携の推進

①共同研究等を積極的に推進するため、民間企業、大学等へ研究所研究員を派遣するとともに、資質の高い研究員を受け入れる。

②研究所が所有する知的財産の活用、又は所有する情報等を用いた共同研究を民間企業及び大学等と積極的に行うこととし、年間に 12 件以上を目標とする。

ウ 将来の研究人材の育成

①連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員等を年間 100 名程度受け入れるとともに、当研究所の研究員を大学院や関係機関等に年間 100 名程度派遣し、研究所の持つ情報・技術等を社会に還元する。

②連携大学院について、引き続き拡大を図るとともに兼任教員を派遣し、互いの強みを活かした研究協力を行う。

③流動研究員制度や連携大学院制度を活用し、博士課程修了者等の若手研究者や大学院生を積極的に受け入れることにより、将来の研究人材の育成に資するとともに、研究所の研究機能の強化を図る。

エ 施設・設備の有効活用

①測定室、RI 室、動物飼育室、運動トレーニング室等の各プログラムで共同で使用する施設・設備については、効果的に研究ができるよう環境を確保する。

②「独立行政法人国立健康・栄養研究所設備等利用規程」に従い、当研究所の施設・設備を利用して、他研究機関の研究者・運動指導者と共同して運動による健康増進効果に関する共同研究を実施する。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

ア 健康・栄養調査の効率的実施

国民健康・栄養調査の集計業務については、引き続き、正確かつ効率的な集計を通して、結果発表までの期間の迅速化を図る。また、データ収集に携わる行政の担当者等に対して、技術講習、情報提供、研修教材等の提供、標準的な調査ツールの提供などを通じて、積極的な技術支援を行う。さらに、健康・栄養調査の効率化を目指した専用ソフト（名称：食事しらべ）をアップデートして自治体へ配布し、調査の全体の効率化も目指す。

イ 特別用途食品及び収去食品等の分析

①消費者庁の特別用途表示の許可等に関わる申請に基づく試験業務を期間内に実施するとともに、そのヒアリングに適切に対応する。

②健康増進法第 27 条第 5 項の規定に収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の分析業務を、期間内に実施する。

③栄養表示基準における栄養成分の分析法について、より適切な分析手法の検討を行う。また、試験検査機

器の有効利用及び整備の充実を図る。

④登録試験機関間の分析精度管理体制を確立するための組織を構築する。

⑤分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分について、標準品の開発を行う。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

ア 社会的・行政ニーズの把握

①社会的ニーズを把握するため、健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等との意見交換会を年 6 回程度実施し、連携を強化する。とくに、当研究所は国民生活に密着した分野を対象としており、国民に研究成果を還元することが重要であることから、第一線で活躍している管理栄養士等から、具体的なニーズ等の把握に努める。

②行政ニーズを適時把握するために、厚生労働省生活習慣病対策室・食品安全部、消費者庁食品表示課、内閣府食育推進担当等と情報・意見交換を 1 回以上行い、研究・業務等に公正中立な立場で適正に反映させる。

③国、地方自治体、国際機関等からの技術的な協力依頼に応えるとともに、行政ニーズを把握するため、各種審議会、検討会の専門委員等として職員を積極的に派遣する。

イ ホームページを活用した国民ニーズの把握

・国民、栄養専門職等からの意見、要望等を広く効率的に把握するため、インターネット上の種々の仕組みを活用した取り組みを行う。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア アジア地域における学術的ネットワークの構築

①WHO 研究協力センター（申請中）としての体制を整え、アジア・太平洋諸国における栄養、身体活動分野での調査・研究ニーズの把握に努める。その一環として、WHO 等との協力関係を強化し、関連する国際会議に研究員を派遣する。

②アジア諸国との間で、栄養学研究の発展につながる共同研究及び人材育成を積極的に行う。研究交流を推進する観点から、国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業を活用し、年間 2 名（バングラディッシュ 1 名、マレーシア 1 名を予定）の若手研究者を受け入れる。また、フォローアップ共同研究助成事業により、これまで受け入れた研修生との共同研究や情報提供などを引き続き推進する。

③第 5 回アジア栄養ネットワークシンポジウムを開催し、アジア諸国の研究機関との学術交流を通じたネットワークづくりを進める。

④GEMS/Food プログラム協力機関として、国民健康・栄養調査の結果等、わが国の食事調査データの発信に努める。

⑤アジア諸国における栄養士制度・栄養士養成の現状について調査・検討を行う。

⑥当研究所の研究成果、わが国の栄養、運動施策上の重要なガイドライン（食事摂取基準、エクササイズガイド等）について、英語版ホームページ上で情報発信するとともに、データ提供等の支援を行い、海外からのニーズに的確かつタイムリーに応える。

イ 産学連携等による研究成果等の社会還元

・健康・栄養や食品開発等に関連する研究機関、民間企業等との共同研究や受託研究、特許等の実用化等により、当研究所の研究成果やノウハウを具体的な商品開発やサービスを通じて、社会に還元できるよう努める。

・宇宙航空研究開発機構（JAXA）と連携して立ち上げた「機能性宇宙食研究会」を産学連携のもと発展させ、超高齢化社会に適用可能な機能性宇宙食の開発とその応用を目的として、国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟において機能性宇宙食を開発するためのフィージビリティ研究を開始する。

・知的財産権取得に適した研究について、その成果の学会及び論文発表の前に掘り起こしを行い、戦略性を持って年間4件程度の特許等の出願を行う。また、当研究所の特許等に関する情報を、ホームページ上に公開し、民間企業等へ積極的に技術の紹介を行う。

(4) 栄養情報担当者（NR）制度に関する事項を達成するための措置

①栄養情報担当者（以下「NR」という。）認定制度については、第三者機関に移管を行うための問題点について検討を行うとともに第三者機関との移管に向けた意見交換等を行う。

②また、第三者機関に移管を行うまでの間、有資格者及び資格取得を目指している者の不利益とならないよう、次の事業を実施する。

・NRのアドバイザースタッフとしての質を維持向上するための研修会

・外部有識者の協力を得つつ、適正かつ公正なNR認定試験、NR認定資格確認試験及び登録等関連業務

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措置

(1) 総合的な情報発信及び対外的な業務の推進

・外部に情報発信している複数のページについて、閲覧対象者ならびに研究所内の業務を考慮した見直しを行う。また、そのための委員会等の活動を充実させる。

(2) ホームページによる活動状況の配信

・提供情報を利用する団体や組織との連携を図ることにより、ホームページの閲覧回数の増加に努める。

(3) 研究・業務実績の情報提供

・研究所の活動及び研究業績については、ホームページを介して迅速に情報提供するとともに、年1回研究報告としてまとめて刊行する。トピック的な内容については『健康・栄養ニュース』を年4回(季刊)刊行し、その電子媒体による配信により情報提供する。

(4) ホームページ等を活用した積極的な情報開示

・ホームページ等を活用して、研究所の諸規程、その他の必要な情報開示を積極的に行う。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

(1) 効率的な組織運営のための内部統制の強化

①研究所の意思決定と運営を機動的にかつ効率的に行

うことができるよう、以下の常設の会議及び委員会を定期的にまたは必要に応じて開催し、研究業務の円滑な推進を図る。

- ・幹部会議
- ・運営会議
- ・研究企画委員会
- ・研究倫理審査委員会
- ・利益相反（COI）委員会
- ・所内セミナー

②研究業務遂行における内部統制の強化を図るため、会計監査役員による定期的監査及び理事長による各研究部・研究室、センターに所属する研究員に対する研究状況に関するヒアリングを行う。

③研究所内の情報共有と伝達を強化するため、上記会議・委員会の内容及び必要な情報等につき速やかに所内LANにより研究所各員に周知を図る。

④研究所における危機管理体制の強化を図るため、理事長より各研究員に至る緊急の連絡体制を整え、年1回以上、訓練を行いその機動の確認を行う。

(2) 研究の企画及び評価機能の強化

①研究部門間での連携を強め、戦略的な事業の立案・実施に役立てるとともに国内外の最新の研究成果を知ることができるよう、研究所セミナーを毎月1回以上開催する。

②研究企画委員会を定期的に開催し、研究部門間の相互の意志疎通を図るとともに戦略的な事業の立案、推進に役立てる。

(3) 円滑な組織運営のための業務の進捗管理及び評価

①各研究室における研究及び業務については、各研究部長及びセンター長が研究企画委員会或いは運営会議で必要な報告を行う。

②各研究部、センター及び研究室の研究・業務の進行状況等については年1回または2回、所内公開の報告会を行いその成果について評価を行う。

③各研究・業務に関する内部進行管理を強化するため、理事長による各研究部・センター及び研究室の研究員に対するヒアリングを年1回以上行う。

④所内LANの活用により、業務の進捗状況管理を行うとともに、各研究部・センター間、事務部門との情報の共有を促進する。

(4) 情報公開による透明性の確保

・独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）に則り、文書を適正に管理するとともに、適正な情報公開を行う。

(5) 積極的な外部資金の獲得及び資源の有効活用

・競争的研究資金や受託研究など外部資金の積極的獲得に取り組むとともに経費の節減や研究所が所有する設備等の有効利用を推進する。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

(1) 効率的な調査研究業務を実施するための組織の最適化

①研究所の組織や研究内容を国民にわかりやすくするため、従来のプログラム、プロジェクト体制を研究部、研究室体制に改組する。（別紙1のとおり）

②研究部、センター及び研究室体制のほか、特別な研究及び業務については必要に応じて臨時にプロジェクトチームを組織することにより業務の効率的遂行を期する。

③また、組織の改組後はその効果の検証を行い、その検証結果を公開する。

(2)民間団体、大学、地方公共団体、他府省等における調査研究との相互補完を図る観点から、重複・類似する研究を排除するとともに、当研究所の特長を生かした研究を推進することにより、研究の効率化を図る。他の研究機関との連携のあり方について検討を行い、研究員の連携・交流を進め、人材の養成と資質の向上に努めることにより、組織・研究の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

(1) 重点化する調査研究及び法定業務に対応するための適正な人員配置

①重点化する調査研究及び法律に基づき着実に実施すべき業務については、研究補助員等を適切に配置するなど効果的な運用を行い、研究・業務の推進を図る。

②一部の職員への過重な負担とならないよう、研究・業務等の適正配分に努めるとともに、必要に応じて見直しを行い、職員の健康の維持・増進につながる職場環境づくりを目指す。

また、収去食品の試験業務における民間登録試験機関での試験導入及びN R 認定制度業務の廃止に伴う要員の見直しや合理化については、検討状況の推移を踏まえつつ対応する。

(2) 研究員の業務の適正な評価

①大学、民間企業等との多様な形態の連携が可能となるよう、起業を含め、民間企業、団体等との兼業についても、当研究所の目的、理念に合致したものについては積極的にを行い、成果の社会還元を促進する。

②各研究員の個人業績及び各プロジェクトの実績を適正に評価し、昇給・昇任等に反映させる。

(3) 有能な研究員の登用

①「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、研究員の採用にあたっては、引き続き原則公募制、任期付の採用を行う。

②任期付研究員については、任期中の実績評価を適正に行い、任期を付さない職員としての採用を検討する。任期付研究員の採用にあたっては、流動化計画に則る一方、当研究所の長期的な展望との均衡を図りつつ、研究や業務の性質、行政及び社会的ニーズに応じて、柔軟な運用を行う。

③外国人研究者や女性研究者の採用を積極的に行うとともに、研究業務に従事しやすい環境づくりとして、引き続きフレックスタイム制の活用をはじめ、産休や育児休業等の各種制度の活用を進める。

(4) 事務職員の適正な評価

・事務職員についても、あらかじめ自己の達成目標を設定させるとともに、達成目標を含む業務全般に対しての自己評価を含む総合的な人事評価制度に基づき、個人面接を行い、直属上司及び総括上司の二段階評価を実施する。評価の結果は、昇給・昇任等に反映させ

る。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

(1) 事務業務の効率化

・業務の効率化を図るため、各種事務手続きの簡素化、迅速化、電子化を図るとともに、業務内容を見直し、外部委託が可能な業務については、費用対効果を勘案しつつ積極的に推進する。

(2) 事務職員の資質向上

・事務職員の資質向上を図るため、業務上必要とされる知識(知的財産、安全管理、会計・契約等)の技術取得ができるよう、自己啓発や能力開発のための研修に積極的に参加させる。また、職員が働きやすく自己能力が最大限発揮できるよう、職場環境の整備を引き続き図る。

(3) 業務システムの効率化

・業務の効率化を推進するため情報総括責任者(CIO)を中心に業務・システムの最適化・効率化を図る。

5. 評価の充実に関する事項を達成するための措置

(1) 内部評価の実施

・各研究部、センター及び研究室の研究・業務については年1回または2回、報告会とともに評価を行う。評価結果については、毎年度内部評価委員会を開催してその結果についての総括を行い、研究業務の確実な実施と効率化を期する。

(2) 外部評価の実施

・外部の専門家等の評価者による外部評価について、毎年度2回程度実施する。

(3) 評価結果の公表

①内部及び外部評価の結果はホームページ上で公表するほか、評価結果の内容については部や室の範囲にとどまらず、非常勤職員を含めた全員に結果を伝え、研究所に求められている方向性や課題等の共通理解を促し、研究及び業務の内容改善等につなげる。

②理事長等役員及び管理職は、これらの評価結果を踏まえ、予算や人材等の研究資源の配分等に反映させ、調査・研究活動を効率・活性化させる。

(4) 研究業績等の自己点検及び評価

①各研究員においては、社会及び当研究所で求められている自らの役割を充分認識した上で、当該年度における自らの調査研究及び業務の成果について、点検を行う。その際、成果を客観的に整理・分析するために、所内LANによる「業績等登録システム」を活用する。

②各研究員の評価は、人事評価マニュアルに基づき、主に研究部内での貢献及び十分な成果の達成という視点から各部長/センター長、研究企画評価主幹及び理事長が行う。なお、任期付研究員については、任期中の実績評価を行い、その結果をその後の採用等に反映させる。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

・一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費は除く。)については、事務消耗品の一括購入などにより削減に努め、平成22年度実績に比べ

2%以上の削減を図る。

・人件費（退職手当及び法定福利費等を除く。）については、適正な人事配置に努め、平成22年度実績に比べ1%以上の削減を図る。

また、給与水準についても平成21年度のラスパイレ指数（地域・学歴勘案）が97.4であることを踏まえ、この水準を引き続き維持するとともにその結果を公表する。

・業務経費（運営費交付金を充当して行う事業に係るもの）については、研究の重点化に伴い、業務の効率化、コストの削減に努め平成22年度実績に比べ1%以上の削減を図る。

・契約については、以下の取り組みによりその適正化を推進する

ア 原則一般競争入札を行い、随意契約を行う場合は真にやむを得ない場合とする。

イ 「随意契約等見直し計画」に基づく取組を着実に実施し、その取組状況を公表する。

ウ 一般競争入札により契約を行う場合であっても、競争性、透明性が十分確保される方法により実施する。

エ 会計監事による定期的な監査により、入札・契約の適正な実施について点検を受ける。

オ 契約監視委員会において、契約方式の妥当性及び競争性確保のための改善方策の妥当性等を事前審査する。

第3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

(1) 外部研究資金の獲得

①厚生労働省、文部科学省等の各府省や科学技術振興機構等の機関が実施する公募型研究への課題の応募を積極的に行う。その際、当研究所の目的等を勘案して、競争力の高い研究課題であるか、また、他の研究機関等との共同研究の中核であるかを重視する。

②健康・栄養に関する調査・研究及び国や民間企業等からの受託研究や共同研究、その他の業務については、当研究所の目的やその後の発展性及び交付金事業として行う研究を勘案しながら、それらに合致するものについては積極的に受け入れ、自己収入の増加を図る。

なお、外部研究資金の獲得にあたっては、過去2カ年平均の80%以上の件数の確保を目標とする。

(2) 知的財産の活用等による自己収入の確保

①知的財産については、その出願や維持に係る費用を勘案しながら、実施につながる可能性の高いものについて必要な維持を行い自己収入につなげる努力を行う。

②研究成果及び国民健康・栄養調査結果および食事摂取基準等の社会還元を目的に出版（研究所監修による書籍、マニュアル、テキスト等）を行うことにより、自己収入の確保につなげる。

③施設の開放にあたっては、ヒトを対象とした研究への参加、地域住民の健康づくりという視点を踏まえて研究所設備の効率的利用を推進する。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

(1) 効率的な資金の運用・管理

・「無駄削減取組目標」のうち、特に無駄削減に向けた職員の意識改革、行政コストの節減・効率化に掲げる事項に係る取り組みを積極的に実施し、予算執行状況の把握とともに、これら取り組み状況について、運営会議で評価を行う。

(2) 研究業務の集約化

・各研究部にまたがる研究の実施や、施設整備、スペース等の共同利用により、人的資源、コスト削減につなげる。

・データ入力、検体の定期検査などの人的コスト削減につながるものについてはアウトソーシングを推進する。また契約にあたっては原則一般競争入札を行う。

第4 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙2のとおり

2. 収支計画

別紙3のとおり

3. 資金計画

別紙4のとおり

第5 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

(1) セキュリティの確保

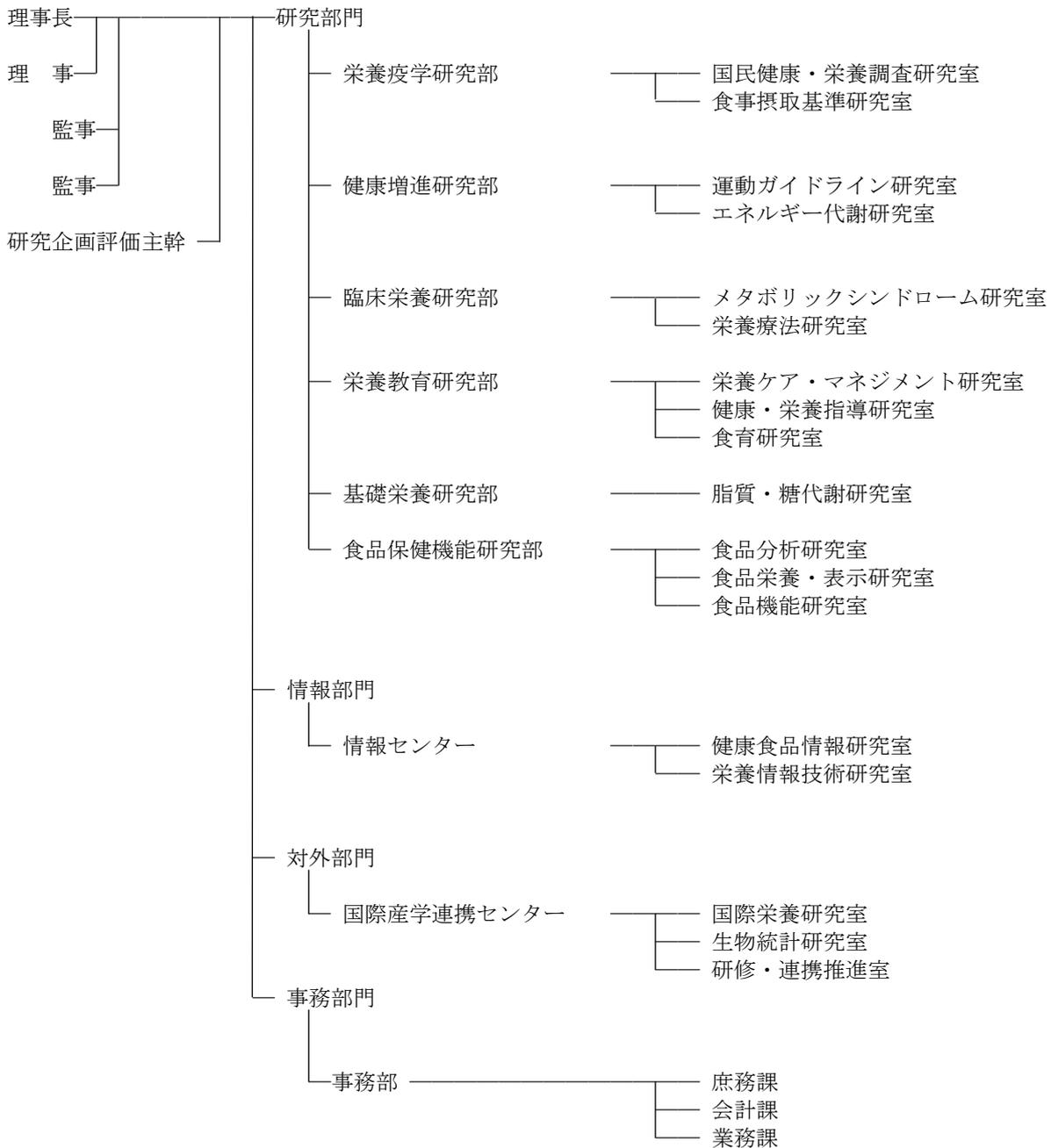
・「第2次情報セキュリティ基本計画」等の政府の方針を踏まえ、適切な情報セキュリティ対策を推進し、セキュリティの確保に努める。

第6 平成23年度独立行政法人国立健康・栄養研究所行事等予定表

別紙5のとおり

(別紙 1)

研究所組織



(別紙2)

年度計画（平成23年度）の予算

(単位：百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	691
手数料収入	3
受託収入	63
栄養情報担当者事業収入	20
寄附金収入	8
雑収入	5
計	791
支出	
人件費	501
うち 基本給等	492
退職手当	9
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	83
業務経費	113
国民健康・栄養調査に関連する サーベイランスプログラム	10
食品収去試験等業務	4
栄養疫学プログラム	14
健康増進プログラム	14
臨床栄養プログラム	6
基礎栄養プログラム	10
食品保健機能プログラム	8
国際栄養協力事業	8
健康食品安全情報ネットワーク事業	21
健康栄養情報事業	18
受託経費	94
特別用途食品表示許可試験費	3
受託経費	63
栄養情報担当者事業経費	20
寄附研究事業費	8
計	791

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 3)

平成 23 年度収支計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
費用の部	
経常費用	806
人件費	501
うち 基本給等	492
退職手当	9
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	83
業務経費	113
国民健康・栄養調査に関連する サーベイランスプログラム	10
食品収去試験等業務	4
栄養疫学プログラム	14
健康増進プログラム	14
臨床栄養プログラム	6
基礎栄養プログラム	10
食品保健機能プログラム	8
国際栄養協力事業	8
健康食品安全情報ネットワーク事業	21
健康栄養情報事業	18
受託経費	94
特別用途食品表示許可試験費	3
受託経費	63
栄養情報担当者事業経費	20
寄附研究事業費	8
減価償却費	15
収益の部	806
運営費交付金収益	691
手数料収入	3
受託収入	63
栄養情報担当者事業経費	20
寄附研究事業費	8
雑収入	5
資産見返物品受贈額戻入	3
資産見返運営費交付金戻入	12
純利益	—
目的積立金取崩額	—
総利益	—

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 4)

平成 2 3 年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	791
業務活動による支出	791
投資活動による支出	0
資金収入	791
業務活動による収入	791
運営費交付金による収入	691
手数料収入	3
受託収入	63
栄養情報担当者事業経費	20
寄附研究事業費	8
雑収入	5
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 5)

平成 23 年度独立行政法人国立健康・栄養研究所行事等予定表

平成 23 年 4 月	
5 月	
6 月 12 日 (日) 18 日 (土) ~ 19 日 (日) —	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第 8 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定実施試験 ○ 第 6 回食育推進全国会議 (静岡県) ○ 「平成 22 年度業務実績報告」を厚生労働省独立行政法人評価委員会に、「平成 22 年度財務諸表等」を厚生労働大臣にそれぞれ提出。 ○ 「健康・栄養ニュース」(第 36 号) の発行
7 月 —	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第 8 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験合格者発表
8 月	
9 月 —	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「健康・栄養ニュース」(第 37 号) の発行 ○ 研究所一般公開 (オープンハウス)
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養情報担当者研修会
11 月 —	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養情報担当者研修会 ○ 第 9 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験
12 月 — —	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「健康・栄養ニュース」(第 38 号) の発行 ○ 第 9 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験合格発表
平成 24 年 1 月	
2 月 25 日 (土) —	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第 13 回研究所主催一般公開セミナー・研究所公開業務報告会 (東京) ○ 第 9 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験実施要綱の公表
3 月 — — —	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部評価委員会 ○ 平成 24 年度計画を厚生労働大臣へ提出 ○ 「健康・栄養ニュース」(第 39 号) の発行

- ◎ 運営会議は 8 月を除く毎月第 2 木曜日に開催する。
- ◎ 健栄研セミナーは原則、毎月第 3 木曜日に開催する。
- ◎ 専門家向けセミナーを東京及び地方にて開催する。
- ※ 実施日については、諸般の都合により変動があり得る。

4. 平成23年度予算額

支出		(単位：千円)		
事 項	平成 22 年度 予 算 額	平成 23 年度 予 算 額	増△減額	
人件費	542,861	500,619	▲42,242	
基本給・諸手当	456,630	437,853	▲18,777	
共済組合負担金	46,983	47,731	748	
児童手当拠出金	501	566	65	
労働保険料	5,597	5,017	▲580	
退職手当	33,150	9,452	▲23,698	
一般管理費	80,529	77,670	▲2,859	
業務経費	115,347	112,847	▲2,500	
栄養疫学研究	—	19,010	—	
国民健康・栄養調査研究	—	14,060	—	
食事摂取基準研究	—	4,950	—	
健康増進研究	—	17,366	—	
運動ガイドライン研究	—	8,816	—	
エネルギー代謝研究	—	8,550	—	
臨床栄養研究	—	10,919	—	
メタボリックシンドローム研究	—	5,869	—	
栄養療法研究	—	5,050	—	
栄養教育研究	—	6,565	—	
栄養ケア・マネジメント研究	—	2,102	—	
健康・栄養指導研究	—	2,097	—	
食育研究	—	2,366	—	
基礎栄養研究	—	7,093	—	
脂質・糖代謝研究	—	7,093	—	
食品保健機能研究	—	17,800	—	
食品分析研究	—	11,100	—	
食品栄養・表示研究	—	4,200	—	
食品機能研究	—	2,500	—	
情報センター	—	21,714	—	
健康食品情報研究	—	12,691	—	
栄養情報技術研究	—	9,023	—	
国際産学連携センター	—	12,380	—	
国際栄養研究	—	8,870	—	
生物統計研究	—	630	—	
産学連携推進	—	1,380	—	
WHO-CC 準備	—	1,500	—	
受託経費	99,066	100,272	1,206	
特別用途食品表示許可試験費	6,037	3,440	▲2,597	
受託経費	58,662	63,156	4,494	
栄養情報担当者事業経費	30,178	20,144	▲10,034	
寄附金研究事業費	—	8,367	8,367	
形態計測講習会	—	392	392	
その他	4,189	4,773	584	
支出計	837,803	791,408	▲46,395	

平成22年度の業務経費内訳は、平成23年度に組織再編を行ったことから、「—」とした。

収入		(単位：千円)		
事 項	平成 22 年度 予 算 額	平成 23 年度 予 算 額	増△減額	
運営費交付金	738,737	691,136	▲47,601	
手数料収入	6,037	3,440	▲2,597	
受託収入	58,662	63,156	4,494	
栄養情報担当者事業収入	30,178	20,144	▲10,034	
寄附金収入	—	8,367	8,367	
講習会収入	—	392	392	
その他の収入	4,189	4,773	584	
収入計	837,803	791,408	▲46,395	

5. 平成 23 年度所内研究セミナー

期日	演 題	所 属
2011/5/19	低酸素によって誘起される低体温反応の脳機構	大坂 寿雅 (健康増進研究部)
	業務内容及び韓国国民健康・栄養調査の紹介	猿倉 薫子 (栄養疫学研究部)
	栄養情報学の科学的根拠について	廣田 晃一 (情報センター)
6/16	バイオマーカーとしてのリンパ球ビタミンC	梅垣 敬三 (情報センター)
	非アルコール性脂肪肝発症機序と大豆タンパク質の予防効果	山崎 聖美 (基礎栄養研究部)
	日本人における身体活動量の現状と、評価法の問題点	田中 茂穂 (健康増進研究部)
	国民健康・栄養調査データからみた食塩摂取量の地域差に関連する要因	西 信雄 (国際産学連携センター)
	「健康食品の表示に関する検討会」及び「栄養成分表示検討会」の論点と表示の国際的視点	浜野 弘昭 (国際生命科学研究機構)
10/20	β -カロテン開裂酵素 BCMO1 のレチノイン酸による遺伝子発現制御機構の解析	山内 淳 (食品保健機能研究部)
	東日本大震災における栄養・食生活支援について	笠岡(坪山) 宣代 (栄養疫学研究部)
	マクロファージの Irs2 の糖代謝調節における役割の解明	窪田 哲也 (臨床栄養研究部)
	児童の食事摂取に対する学校給食の寄与について	野末 みほ (栄養疫学研究部)
10/25	A brief overview of the 2011 DRI report on Calcium and Vitamin D	A. Catharine Ross (The Pennsylvania State University)
11/17	6か月間のトレーニングが男子長距離選手の好中球活性と精神状況に及ぼす影響	熊江 隆 (健康増進研究部)
	簡便かつ迅速なビタミンB12分析法の開発	松本 輝樹 (食品保健機能研究部)
	大豆イソフラボンは閉経期 Hot Flash の頻度と重症度を改善する - 無作為化比較試験のシステムティックレビューまたはメタアナリシス	卓 興鋼 (国際産学連携センター)

12/1	A brief overview of the Korea National Health and Nutrition Examination Survey (KNHANES)	Oh Kyungwon (Korea Centers for Disease Control and Prevention)
12/15	第 33 回コーデックス栄養・特殊用途食品部会報告	石見 佳子 (食品保健機能研究部)
	ALS 患者における DLW 法で測定した総エネルギー消費量に基づく介入研究	高田 和子 (栄養教育研究部)
	トレーニングが運動継続能力を向上させるメカニズム	三浦 進司 (基礎栄養研究部)
	トランス脂肪酸の食品表示について	永田 純一 (食品保健機能研究部)
2012/1/19	佐久肥満克服プログラムに於ける遺伝子多型解析について	山田 晃一 (栄養教育研究部)
	食事調査法からの食事摂取基準評価 現状とその問題点 - ヨウ素 -	坪田 (宇津木) 恵 (栄養疫学研究部)
	ビタミン C の大量摂取が運動の有用性に及ぼす影響	竹林 純 (食品保健機能研究部)
	中枢の IRS-2 の糖代謝調節における役割の解明 - 脳特異的 IRS-2 欠損マウスを用いて	井上 真理子 (臨床栄養研究部)
2/7	Salt Reduction Strategy in Australia	Jacqui Webster (The George Institute for Global Health)
	Activity of Salt Reduction Committee, Japanese Society of Hypertension	三浦 克之 (滋賀医科大学)
	Introduction of Salt Reduction Program in Niigata Prefecture	村山 伸子 (新潟医療福祉大学大学院)
	Introduction of "Project for Salt Reduction"	平田 研 (MSL Japan)
	Salt Reduction Strategy in Japan: System Dynamics Approach	西 信雄 (国際産学連携センター)
2/16	男子大学生における朝食欠食と関わる要因について	中出 麻紀子 (栄養疫学研究部)
	疾患発症予防に重要なマクロニュートリエント	江崎 治 (基礎栄養研究部)
	筋トレと動脈スティフネス: メタアナリシス	宮地 元彦 (健康増進研究部)
3/15	運動すると脂肪が燃えるのはなぜ?	三浦 進司 (基礎栄養研究部)
	食事摂取基準策定に携わって	森田 明美 (栄養疫学研究部)

6. 食品分析リスト（特別用途食品の分析）

平成 22 年度において、特別用途食品の許可表示取得のために提出されたものについて分析した結果は次のとおりである。分析方法等は健康増進法に記載されている。

特別用途食品	申請者	商品名
該当なし		計 0 品目
特定保健用食品	申請者	商品名
特定保健用食品	オルビス株式会社	おなかいきいきオリゴ
特定保健用食品	ビーンスターク・スノー株式会社	ミルクからのカルシウム
特定保健用食品	森永製菓株式会社	清祥茶房 WYYP
特定保健用食品	江崎グリコ株式会社	ポスカ<クリアミント>
特定保健用食品	江崎グリコ株式会社	ポスカ<ライチカモミール>
特定保健用食品	よつ葉乳業株式会社	よつ葉プレーンヨーグルト
特定保健用食品	ピジョン株式会社	お願いオリゴ
		計 7 品目

分析担当者：石見佳子、松本輝樹、竹林 純、津田治敏、山内 淳、永田純一、梅垣敬三、鈴木春奈、谷中かおる、鴨下 渚、石井真由美、町野（中村）礼

7. 海外出張

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
西 信雄	国際産学連携センター	オーストラリア・メルボルン	H23. 4. 9-4. 15	Technical consultation on identifying approaches to control obesityへ出席
武田和歌子	栄養教育研究部	タイ・バンコク	H23. 6. 7-6. 10	7th Asia Pacific Conference on Clinical Nutritionでの学会発表
阿部 重一	研究企画評価主幹	タイ・バンコク	H23. 6. 7-6. 10	7th Asia Pacific Conference on Clinical Nutritionでの学会発表
永田 純一	食品保健機能研究部	シンガポール・サンテック市	H23. 7. 13-7. 17	XI ASIAN CONGRESS OF NUTRITION 2011へ参加
大河原一憲	健康増進研究部	アメリカ・デンバー	H23. 5. 26-6. 5	ACSM2011への参加及び発表・コロラド大学デンバーでの研究打合せ
大河原一憲	健康増進研究部	イギリス・リバプール	H23. 7. 5-7. 10	16th annual Congress of the ECSSへ参加及び発表
村上 晴香	健康増進研究部	アメリカ・デンバー	H23. 5. 31-6. 5	アメリカスポーツ医学会(American College of Sports Medicine)での学会発表及び情報収集
田中 茂穂	健康増進研究部	アメリカ・デンバー	H23. 5. 31-6. 6	American College of Sports Medicine 58th Annual Meeting(第58回アメリカスポーツ医学会年次学会)への参加・発表
宮地 元彦	健康増進研究部	アメリカ・デンバー	H23. 5. 31-6. 5	ACSM Annual Meeting and World Congress on Exercise is Medicineにて発表
東泉 裕子	食品保健機能研究部	ニュージーランド(ウェリントン・オークランド・パーマストンノース)	H23. 6. 7-6. 17	JENESYS ニュージーランド青年派遣事業に参加

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
高田 和子	健康増進研究部	アメリカ・デンバー	H23. 5. 28-6. 7	ACSM Annual Meeting and World Congress on Exercise is Medicine へ参加及びシンシナティ大学・サンフランシスコ領事館での研究打合せ
中出麻紀子	栄養疫学研究部	オーストラリア・メルボルン	H23. 6. 13-6. 20	International Society for Behavioral Nutrition and Physical Activity Annual Meeting にて発表と参加
田中 茂穂	健康増進研究部	マレーシア・クアラルンプール	H23. 6. 27-6. 29	MASO (Malaysian Association for the Study of Obesity) 2011 Scientific Conference on Obesity のシンポジウムにおける講演
石見 佳子	食品保健機能研究部	シンガポール	H23. 7. 12-7. 17	The XI Asian Congress of Nutrition にて発表
東泉 裕子	食品保健機能研究部	シンガポール	H23. 7. 12-7. 17	The XI Asian Congress of Nutrition にて発表
笠岡 (坪山) 宜代	栄養疫学研究部	シンガポール	H23. 7. 12-7. 17	The XI Asian Congress of Nutrition に参加
高田 和子	健康増進研究部	シンガポール	H23. 7. 11-7. 16	The XI Asian Congress of Nutrition での発表及び参加
西 信雄	国際産学連携センター	スコットランド・エディンバラ	H23. 8. 8-8. 12	第 19 回国際疫学会への参加
卓 興鋼	国際産学連携センター	中国江蘇省蘇州市・上海市	H23. 9. 25-9. 30	中国栄養学会主催シンポジウムにて発表及び参加
三好 美紀	国際産学連携センター	パプアニューギニア・ヌク郡	H23. 9. 25-10. 8	現地調査実施のため
薄井澄誉子	健康増進研究部	オランダ・マーストリヒト	H23. 11. 1-11. 6	RACMEM2011 にて発表と参加
田中 茂穂	健康増進研究部	オランダ・マーストリヒト	H23. 11. 2-11. 6	RACMEM2011 にて発表と参加

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
西 信雄	国際産学連携センター	中国・北京	H23. 10. 23-10. 25	Workshop on Nutrition and Health Survey への出席
石見 佳子	食品保健機能研究部	ドイツ・フランクフルト	H23. 11. 11-11. 18	第 33 回コーデックス会議による栄養・特殊用途食品部会及びワーキンググループに出席
窪田 哲也	臨床栄養研究部	カナダ・モントリオール	H23. 11. 18-11. 22	2011 EPS Montreal International Diabetes Conference
三好 美紀	国際産学連携センター	ベトナム・ハノイ	H24. 1. 5~1. 8	ベトナムの栄養士教育制度に関する打ち合わせ及び第 5 回アジア栄養ネットワークシンポジウムの打ち合わせ
野末 みほ	国際産学連携センター	フランス・パリ	H24. 2. 29~3. 3	1st International Conference on Nutrition and Growth にて発表
石見 佳子	食品保健機能研究部	中国・北京	H24. 2. 3~2. 5	日中健康栄養交流会会議 2012 にて講演
三好 美紀	国際産学連携センター	フィリピン・マニラ	H24. 1. 16-1. 18	WHO 西太平洋事務局において打ち合わせ
西 信雄	国際産学連携センター	フィリピン・マニラ	H24. 1. 16-1. 18	WHO 西太平洋事務局において打ち合わせ
三好 美紀	国際産学連携センター	韓国・ソウル	H24. 2. 26-2. 28	韓国との共同研究 (NRF) の打ち合わせ

8. 人事異動

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名 (転入、転出先)
H23.4.1	配置換・併任	芝池伸彰	健康増進研究部長併任
H23.4.1	配置換・併任	阿部重一	栄養教育研究部長併任 栄養教育研究部栄養ケア・マネジメント研究室長併任 栄養教育研究部健康・栄養指導研究室長併任
H23.4.1	併任	森田明美	栄養疫学研究部長
H23.4.1	併任	西 信雄	国際産学連携センター研修・連携推進室長併任 国際産学連携センターWHO-CC推進プロジェクトチーム長併任 栄養疫学研究部国民健康・栄養調査研究室長併任
H23.4.1	配置換・併任	野末みほ	国際産学連携センター国際協力推進研究員 国際産学連携センターWHO-CC推進プロジェクトチーム併任 栄養疫学研究部国民健康・栄養調査研究室併任
H23.4.1	配置換	猿倉薫子	栄養疫学研究部国民健康・栄養調査研究室
H23.4.1	配置換	中出麻紀子	栄養疫学研究部国民健康・栄養調査研究室
H23.4.1	配置換・併任	笠岡宜代	栄養疫学研究部食事摂取基準研究室長 国際産学連携センター調整担当併任解除 国際産学連携センター研修・連携推進室併任
H23.4.1	配置換・併任	坪田 恵	国際産学連携センター国際協力推進研究員 国際産学連携センターWHO-CC推進プロジェクトチーム併任 栄養疫学研究部食事摂取基準研究室併任
H23.4.1	配置換	山内 淳	食品保健機能研究部食品栄養・表示研究室
H23.4.1	配置換	宮地元彦	健康増進研究部運動ガイドライン研究室長
H23.4.1	配置換	田中茂穂	健康増進研究部エネルギー代謝研究室長
H23.4.1	配置換	高田和子	健康増進研究部エネルギー代謝研究室
H23.4.1	配置換	熊江 隆	健康増進研究部主席研究員
H23.4.1	配置換	大坂寿雅	健康増進研究部エネルギー代謝研究室
H23.4.1	配置換	窪田直人	臨床栄養研究部長
H23.4.1	配置換	原 一雄	臨床栄養研究部メタボリックシンドローム研究室長
H23.4.1	配置換	井上真理子	臨床栄養研究部メタボリックシンドローム研究室
H23.4.1	配置換	窪田哲也	臨床栄養研究部栄養療法研究室長
H23.2.1	併任解除	梅垣敬三	情報センター健康食品プロジェクトリーダー併任解除
H23.4.1	配置換	山田晃一	栄養教育研究部健康・栄養指導研究室
H23.4.1	配置換	メリッサ・メルビー	栄養教育研究部食育研究室長
H23.4.1	配置換	江崎 治	基礎栄養研究部長
H23.4.1	配置換	三浦進司	基礎栄養研究部脂質・糖代謝研究室長
H23.4.1	配置換	山崎聖美	基礎栄養研究部脂質・糖代謝研究室
H23.4.1	配置換	千葉 剛	情報センター健康食品情報研究室
H23.4.1	配置換・併任	石見佳子	食品保健機能研究部長 食品保健機能研究部食品栄養・表示研究室長併任
H23.4.1	配置換	竹林 純	食品保健機能研究部食品分析研究室精度管理担当研究員 (主任)
H23.4.1	配置換	松本輝樹	食品保健機能研究部食品分析研究室長
H23.4.1	配置違	永田純一	食品保健機能研究部食品機能研究室長

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名 (転入、転出先)
H23.4.1	配置換	卓 興鋼	国際産学連携センター生物統計研究室長
H23.4.1	配置換	廣田晃一	情報センター栄養情報技術研究室長
H23.4.1	配置換	三好美紀	国際産学連携センター国際栄養研究室長
H23.4.1	採用 (転入)	藤村陽一	事務部庶務課長
H23.4.1	採用 (転入)・ 併任	横山光幸	事務部業務課NR担当係長 事務部業務課産学担当係長併任
H23.4.1	併任	橋本光彦	事務部庶務課人事・厚生係長併任
H23.4.1	採用 (転入)	渡邊靖之	事務部会計課契約担当係長
H23.4.1	採用 (転入)・ 併任	下竹大介	事務部業務課主事 事務部庶務課主事併任
H23.4.25	併任	西 信雄	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム長併任
H23.4.25	併任	笠岡宜代	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	宮地元彦	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	窪田哲也	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	三好美紀	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	野末みほ	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	猿倉薫子	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	中出麻紀子	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	坪田 恵	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	高田和子	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	井上真理子	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	藤村陽一	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.4.25	併任	森 信二	震災被災者健康・栄養調査プロジェクトチーム併任
H23.5.2	退職	メリッサ・ メルビー	栄養教育研究部食育研究室長
H23.5.3	併任	阿部重一	栄養教育研究部食育研究室長併任
H23.6.1	併任解除	芝池伸彰	健康増進研究部長併任解除
H23.6.1	併任解除	阿部重一	栄養教育研究部栄養ケア・マネジメント研究室長併任解除
H23.6.1	併任解除	石見佳子	食品保健機能研究部食品栄養・表示研究室長併任解除
H23.6.1	昇任・併 任	宮地元彦	健康増進研究部長に昇任 健康増進研究部運動ガイドライ ン研究室長併任
H23.6.1	昇任	高田和子	栄養教育研究部栄養ケア・マネジメント研究室長に昇任
H23.6.1	昇任	山内 淳	食品保健機能研究部食品栄養・表示研究室長に昇任
H23.7.5	任期終了	芝池伸彰	理事
H23.7.28	退職 (転出)	阿部重一	研究企画評価主幹 (国立水俣病総合研究センター)
H23.7.29	採用 (転入)・ 併任	千村 浩	研究企画評価主幹 栄養教育研究部長併任 栄養教育研究 部健康・栄養指導研究室長併任 栄養教育研究部食育研究室 長併任
H23.7.30	採用 (転入)	金井雅利	理事
H24.1.1	採用	佐藤陽子	情報センター健康食品情報研究室
H24.3.1	併任解除	千村 浩	栄養教育研究部食育研究室長併任解除
H24.3.1	採用	奥田奈賀子	栄養教育研究部食育研究室長
H24.3.31	退職	森田明美	栄養疫学研究部長 (甲子園大学)
H24.3.31	退職	江崎 治	基礎栄養研究部長 (昭和女子大学)

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名 (転入、転出先)
H24.3.31	辞職	三浦進司	基礎栄養研究部脂質・糖代謝研究室長 (静岡県立大学)
H24.3.31	辞職	永田純一	食品保健機能研究部食品機能研究室長 (福岡工業大学)
H24.3.31	退職 (転出)	森 信二	事務部業務課長 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課長補佐)
H24.3.31	退職 (転出)	橋本光彦	事務部庶務係長兼人事・厚生係長 (国立感染症研究所総務課庶務係長)

9. 特別研究員

氏 名	所 属 部	期 間
村上 晴香	健康増進研究部	H 23. 4.1～24.3.30
津田 治敏	食品保健機能研究部	H 23. 4.1～24.3.30
今井 絵理	栄養疫学研究部	H 23. 4.1～24.3.30
東泉 裕子	食品保健機能研究部	H 23. 4.1～24.3.30
中江 悟司	健康増進研究部	H 23. 4.1～24.3.30
諏訪内浩紹	臨床栄養研究部	H 23. 4.1～24.3.30
吉村 英一	栄養教育研究部	H 23. 9.1～24.3.30

10. 名誉所員

氏 名	授与年月日	在職当時の職名
印南 敏	H 10.4.1	食品科学部長
宮崎 基嘉	H 10.4.1	基礎栄養部長
宇津木良夫	H 10.4.1	病態栄養部長
山口 迪夫	H 10.4.1	食品科学部長
市川 富夫	H 10.4.1	応用食品部長
伊東 蘆一	H 10.4.1	老人健康・栄養部長
板倉 弘重	H 10.4.1	臨床栄養部長
池上 幸江	H 11.4.1	食品科学部長
小林 修平	H 11.7.1	所長
江指 隆年	H 12.4.1	応用食品部長
澤 宏紀	H 13.4.1	所長
戸谷 誠之	H 13.4.1	母子健康・栄養部長
樋口 満	H 15.4.1	健康増進研究部長
岡 純	H 16.4.1	応用栄養学研究部長
増田 和茂	H 16.8.1	理事
田中 平三	H 17.4.1	理事長

11. 客員研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
佐々木 敏	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	栄養疫学研究
渡邊 昌	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	人間ドック受診者を対象としたコホートにおける生活習慣病発症要因に関する研究
由田 克士	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	食事調査法の研究
中谷 友樹	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	国民健康・栄養調査のサンプル代表性に関連する地域特性に関する研究
家光 素行	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
真田 樹義	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
田中 千晶	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	子どもおよび成人における身体活動量の変動要因
引原 有輝	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	二重標識水法ならびに三次元加速度計を用いた子ども（小学生から中学生）の身体活動量の評価
二見 順	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	ヒューマンカロリメーターによるエネルギー消費量測定に関する研究
吉武 裕	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	高齢者の身体的自立に必要な体力および身体活動水準に関する研究
福 典之	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
緑川 泰史	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	エネルギー消費量の変動要因に関する基礎的研究
山元 健太	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
大島 秀武	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	加速度計を用いた身体活動量の評価に関する研究
大森 豊緑	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	効果的な健康づくり手法の研究開発
田畑 泉	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	身体活動・運動と健康増進について
稲山 貴代	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	車椅子利用者の身体活動量評価手法の開発に関する基礎的検討
仲 立貴	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	子どもにおける身体活動量と体力・身体組成の関連
門脇 孝	臨床栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討・基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究
門脇 弘子	臨床栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	肥満・糖尿病予防と治療のために食後高血糖の改善を得る食事内容の確立
野田 光彦	臨床栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	メタボリックシンドロームにおける栄養摂取と膵島の代謝・インスリン分泌の関連に関する研究
阿部 重一	栄養教育研究部	H23.9.1～24.3.31	効果的な栄養ケア・マネジメントシステムの構築
メリッサ・メルビー	栄養教育研究部	H23.5.3～24.3.31	食育の文化的領域研究
石渡 尚子	栄養教育研究部	H23.4.1～24.3.31	食育の文化的領域研究
水野 正一	栄養教育研究部	H23.4.1～24.3.31	佐久地区での健診データ活用に関する研究
亀井 康富	基礎栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	骨格筋の遺伝子発現調節に焦点をおいた生活習慣病の分子機構解明
高橋真由美	基礎栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	日本人糖尿病患者に於ける食事、運動量の評価のための予備的研究
渡辺 光博	基礎栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	分子制御によるメタボリックシンドロームへのアプローチ
太田 篤胤	食品保健機能研究部	H23.4.1～24.3.31	骨粗鬆症予防における栄養学的研究

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
呉 堅	食品保健機能研究部	H23.4.1～24.3.31	食品機能性成分が骨代謝、脂質代謝に与える影響に関する研究
山田 和彦	食品保健機能研究部	H23.4.1～24.3.31	食品の栄養表示・健康表示に関する調査研究
矢野 友啓	食品保健機能研究部	H23.4.1～24.3.31	食品機能性成分の抗がん活性評価に関する研究
長田 恭一	食品保健機能研究部	H23.4.1～24.3.31	種々のポリフェノール成分の摂取レベルに応じた肝機能と代謝変動、ならびに医薬品の作用に及ぼす影響に関する研究
山本 祐司	食品保健機能研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病におけるレチノール結合タンパク質の動態解析
梅國 智子	情報センター	H23.4.1～24.3.31	Web上の栄養情報教育に関する研究
江指 隆年	情報センター	H23.4.1～24.3.31	栄養素の栄養機能に関する研究
橋本 洋子	情報センター	H23.4.1～24.3.31	子供のサプリメント使用に関する調査研究
芝池 伸彰	国際産学連携センター	H23.7.6～24.3.31	健康食品問題に関する社会医学的研究
溝上 哲也	国際産学連携センター	H23.4.1～24.3.31	1) 生活習慣病に関する栄養疫学研究 2) 東南アジアの栄養疫学研究者との共同研究

12. 協力研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
後藤 麻貴	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	栄養全般が糖尿病・代謝に与える影響につき、検討すること
鈴木 望	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	運動と食事による生活習慣病予防に関する大規模疫学研究
後藤 温	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	糖尿病・生活習慣病予防に関する大規模疫学研究
細川 裕子	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	メタボリックシンドロームを対象とした実食型フードモデルの有効性の検討
菊池 有利子	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	栄養士に関する日米比較研究
黒谷 佳代	栄養疫学研究部	H23.4.1～24.3.31	日本人における食事パターンと肥満との関連の検討
河嶋 伸久	栄養疫学研究部	H23.7.1～24.3.31	糖尿病・生活習慣病予防に関する大規模疫学研究
片山 利恵	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
河野 寛	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
鈴木 洋子	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	視床下部性肥満動物（VMH破壊）の病態に関する研究
別所 京子	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	エネルギー消費量に関する研究
安田 剛	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	フィットネスクラブにおけるサービス・プログラム開発における指導・研究
島田 美恵子	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
上野 優子	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	エネルギー消費量の評価について

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
高山 光尚	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
大森 由実	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
荒尾 裕子	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病予防に対する保健指導（特に運動・身体活動増加）の効果に関する研究
高崎 尚樹	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病改善のための保健指導（特に運動に主眼を置く）に関する、実施方法・事業推進手法に関する調査・研究
濱崎 秀崇	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病と運動療法の効果について
森本 友紀恵	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	特定健診・保健指導に関する研究
丸藤 祐子	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
朴 鐘薫	健康増進研究部	H23.4.1～24.3.31	肥満とエネルギー消費量との関係について
松下 由実	臨床栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	メタボリックシンドロームプロジェクト（各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討・基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究）
眞鍋 一郎	臨床栄養研究部	H23.4.1～24.3.31	エネルギー代謝の分子機構
千葉 大成	食品保健機能研究部	H23.4.1～24.3.31	柑橘系フラボノイドに着目した骨粗鬆症予防に関する研究
吉本 弥生	情報センター	H23.4.1～24.3.31	食品安全に関する情報の伝達メカニズムの解明
南里 明子	国際産学連携センター	H23.4.1～24.3.31	ビタミンDと慢性疾患に関する疫学研究
武田 和歌子	国際産学連携センター	H23.7.1～24.3.31	成人病の肥満予防として「共食」の効果とその社会文化的ドメインの日韓比較